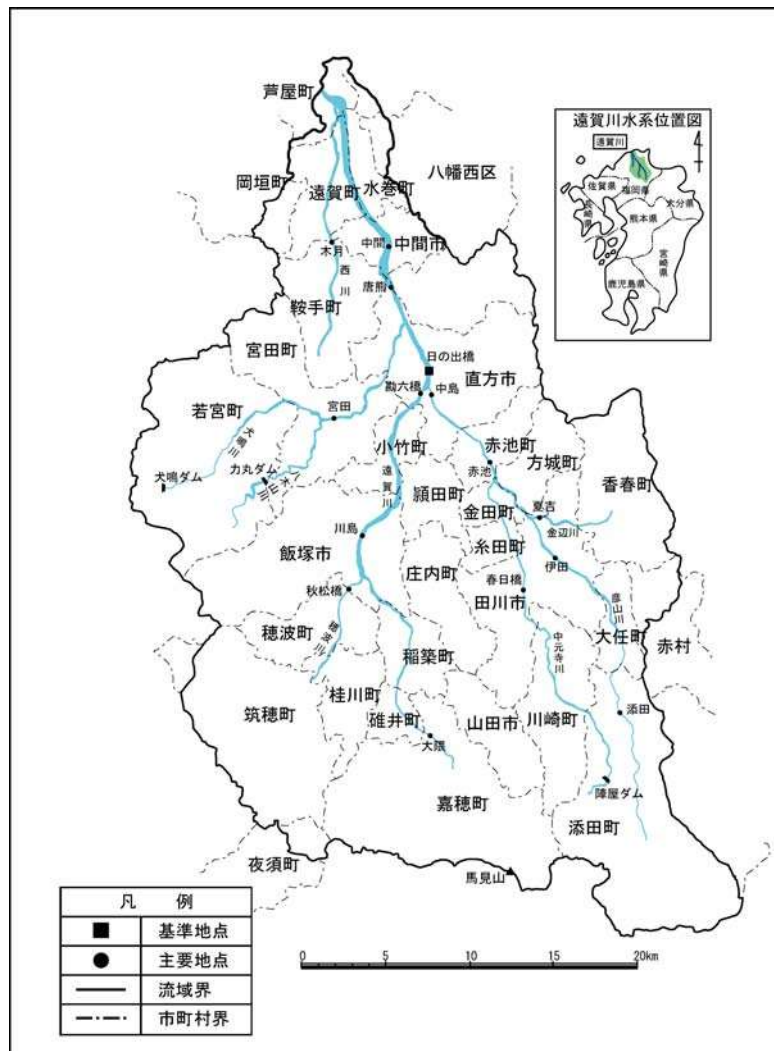


1 流域の自然状況

遠賀川は、その源を福岡県嘉穂郡馬見山に発し、飯塚市において穂波川を合わせ市街部を貫流し、直方市において、彦山川を合わせ直方平野に入る。さらに犬鳴川、笹尾川等を合わせ芦屋町において響灘に注ぐ、幹川流路延長 61km、流域面積 1,026km²の一級河川である。

遠賀川流域は、福岡県北部に位置し、流域の土地利用は、山地等が約80%、水田や果樹園等の農地が約14%、宅地等市街地が約6%となっている。その流域は、福岡県北部の筑豊地方における社会、経済、文化の基盤をなすとともに、古来からの稲作文化や日本の近代化を支えた石炭産業など、古くから人々の生活、文化と深い結びつきを持っている。また、周辺の山々は国定公園や県立自然公園に指定され、四季の景に恵まれた溪谷など豊かな自然環境を有し、人々の憩いの場や身近な自然環境として親しまれていることから、本水系の治水、利水、環境についての意義は極めて大きい。



1－1. 地形

遠賀川流域は、三方を福智山地、耶馬日田英彦山国定公園内に位置する英彦山山地、三郡山地といった山々に囲まれた盆地の中に包含されるが、それはさらに古第三紀層の低い丘陵によって数個の小盆地や支谷に分かれる。流域内は山地、台地、平地の三つの異なった要素から生成され、海拔約 200m 以上で急斜面を持つ山地と、それ以下の丘陵地と低地に分かれる。

遠賀川の縦断形状については、上流部の河床勾配が約 $1/200 \sim 1/600$ であるが、中下流部の河床勾配が約 $1/1,600 \sim 1/2,500$ と比較的緩やかな地形を呈している。一方、大支川の彦山川は、英彦山を源にし、流域東南部を約 $1/200 \sim 1/600$ の勾配で北に流れ、田川市を過ぎて約 $1/800 \sim 1/2,000$ の勾配となり、直方市において遠賀川と合流する。

遠賀川は支川が大小あわせて 74 河川と多く、本川に合流するものは概ね緩流河川で、彦山川に合流するものは、ほとんどが急流河川となっている。

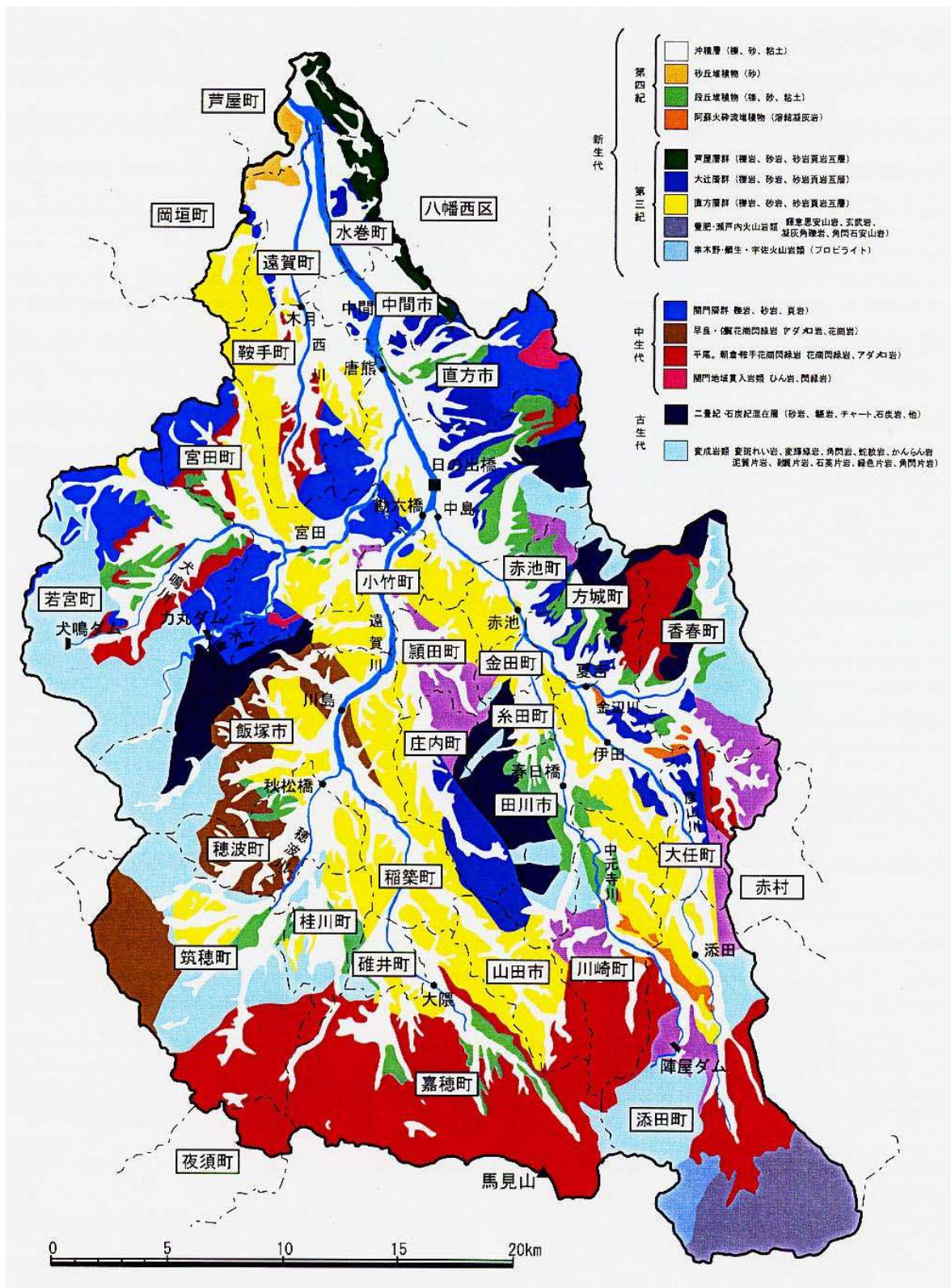


遠賀川河口部より上流をのぞむ

1－2. 地質

遠賀川流域の地質は筑豊炭田の生成に象徴される。直方平野の西縁部では基盤岩石(中生代、古生代などの古期岩類)を第三紀層が不整合に覆っている。すなわち下位の基盤岩石が形成されていた古い時代の地表面が侵食を受けて水中に沈降し、その上に新しい古第三紀層(石炭生成の基となる原生植物が同時に沈殿)が堆積したものである。また、東縁部では下位の基盤岩盤と断層をもって境している。古第三紀層の走行はほぼ北西で、東に向かって10～30°傾斜する単斜構造をなし、広く正断層が発達している。この厚さは、2,000～3,000mに及ぶ厚い層で、深い箇所に炭層が発生している。

遠賀川はこの層の上部を過去、地盤変動に影響されながらも幾度も流れを変え、今日の状態になったものである。



出典：「九州地方土木地質図 1985 九州地方土木地質図編纂委員会」

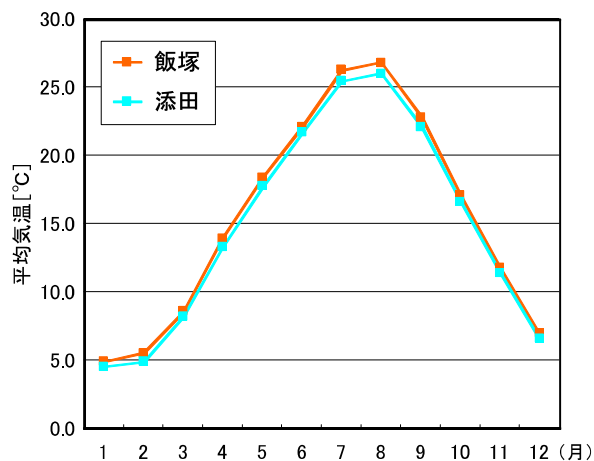
図 1 - 2 - 1 遠賀川流域内地質図

1-3. 気候

遠賀川流域はほぼ全域が日本海型気候区に属している。この気候は福岡県・佐賀県の北部及び山口県の西部、北部にまたがり、一般的な特徴として年平均気温が 15～16℃、1 月の平均気温は 6℃以下で他の気候区に比べて寒い。年平均降水量は、2,100mm 前後である。この地域の最大の特徴は冬季に曇りや雨が多いこと、北西の季節風をまともに受けて風の強い日が多いことなどである。

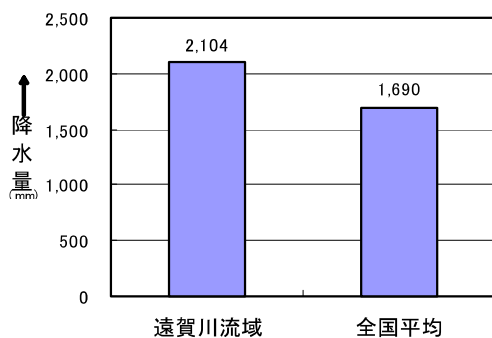


図 1-3 北部九州の気候区分



※平均気温
飯塚:1971年～2000年の各月の平均値
添田:1979年～2000年の各月の平均値
(出典:気象庁ホームページ「電子閲覧室」より)

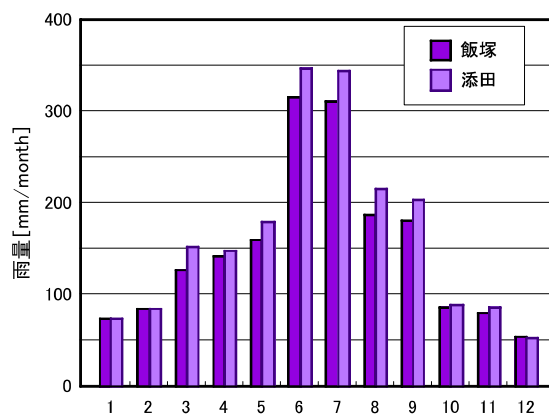
図 1-4 代表地点の月別平均気温



出典 遠賀川流域:「河川便覧(平成 14 年)」

全国平均:「理科年表(平成 15 年)より」

図 1-5 年間降水量の比較



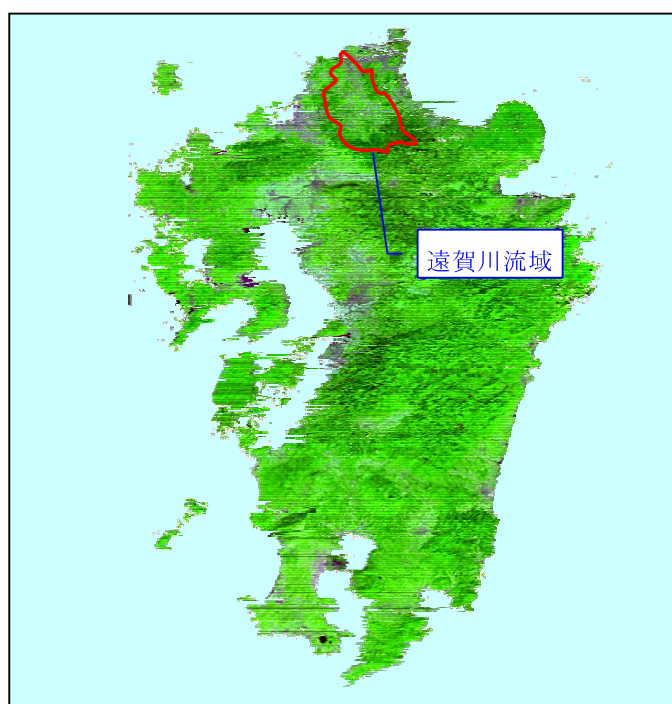
飯塚:1971年～2000年の29年間の各月の平均値
添田:1979年～2000年の21年間の各月の平均値
(出典:気象庁ホームページ「電子閲覧室」より)

図 1-6 流域平均月別降水量

2. 流域及び河川の自然環境

2-1. 流域の自然環境

遠賀川流域は、東を福智山地、南を英彦山山地、西を三郡山地に囲まれ、本川の源を甘木市、小石原村との境に位置する馬見山(標高 978m)山腹から発し、筑豊盆地を北上しながら途中で穂波川などの支川と合流後、直方市に流下する。ここで、大分県との境に聳える英彦山(標高 1200m)を源として田川盆地を貫流してきた彦山川と合流する。合流後、豊富な水量と広大な高水敷を併せ持ちながらゆったりと北上し、さらに犬鳴川などの支川を合わせながら北方向に流下し、芦屋町において三角州性平野を形成して響灘に注いでいる。



遠賀川流域を河川の特徴を考慮して図 2-1-1 のように上・中・下流域及び彦山川流域に区分する。

流域内には、2 つの国定公園と 3 つの県立自然公園が指定されている。東部は尺岳(608m)、福智山(901m)、香春岳(三ノ岳)(511m)と連なる北九州国定公園及び牛斬山(580m)から竜ヶ鼻(681m)へと連なる筑豊県立自然公園が指定されている。西部は笠置山(425m)、鉢立山(663m)、三郡山(936m)と連なる大宰府県立自然公園が指定されている。南部は馬見山(978m)から古処山(860m)周辺が筑後川県立公園に指定される一方、彦山川源流の英彦山(1200m)、岳滅鬼山(1037m)、釈迦岳に連なる山々は修験道の山系として知られ、耶馬日田英彦山国定公園に指定されている。また、英彦山は県下でも屈指の動植物相を有し、峡谷や溪谷、断崖と周辺の自然林が織り成す他に類を見ない豊かな自然景観を誇っている。

遠賀川の流域は、上流から河口域まで比較的人手の入った環境となっており谷底平野から河口部の三角州性低地にいたる平野部には住宅地、商業地、農耕地が長大に存在し、昔からの自然環境は彦山川源流部など自然公園区域に多く残存している。

流域内の植生としては、本川上流域ではアカシデ・イヌシデ群落やミズバイ・スダジイ群集がモザイク状に分布するが、殆どはスギ・ヒノキ植林で覆われており、人為的な植生分布となっている。中・下流域では山地はスギ・ヒノキ植林、丘陵地は果樹園、平地は宅地、耕作地といった様に更に自然度は低下する。しかしながら、河辺にはヨシ、ツルヨシなどの湿性植物が広く分布しており、鳥類や小型哺乳類、魚類などの稀少な生息場となっている。一方、彦山川流域では源流域の英彦山頂部を中心にシラキ・ブナ群集やブナ・スズタケ群集などの自然植生が広く分布しており、ツマグロキチョウ、ブチサンショウウオなどの貴重な動物が数多く生息している。

また、流域の尾根筋を形成する自然公園区域では、福智山地などの山間部にはアカシデ・イヌシデ群落、コバノミツバツツジ・アカマツ群集などを交える森林があり、西部の三郡山地にはアカシデ・イヌシデ群落、アカガシ・ミヤマシキミ群集などが分布し、自然度の高い森林植生地帯を形成している。

このような環境の遠賀川流域では、ニホンジカやキツネ等の大型哺乳類は英彦山山地や福智山地などの山地に主に生息し、谷あいの平地には、タヌキ、イタチ、カヤネズミなど中型、小型の哺乳類が確認されている。

鳥類は遠賀川の河口域にカワウ、カンムリカイツブリ、中流域中ノ島などのヨシ原にオオヨシキリ、セッカなどを見ることができるとともに、河口域から中流域にかけてはミサゴ、ハヤブサなど、環境省や福岡県などで特定種に指定されている猛禽類の生息も確認されている。

魚類はコイ、フナ、ワタカ、ハス、オイカワ、カマツカ、カワムツ、ヨシノボリ等が生息し、上流の溪流や穏やかな流れの箇所にはヤマメが生息している。また、特定種として、中流域ではメダカ、ギギ、タナゴ類などが確認されている。

昆虫類はオオムラサキやツマグロキチョウなどの特定種が確認されているとともに、比較的水質の良い上流域にはゲンジボタルが生息する。

両生類は、支川上流にオオサンショウウオやブチサンショウウオなどの特定種が生息している。

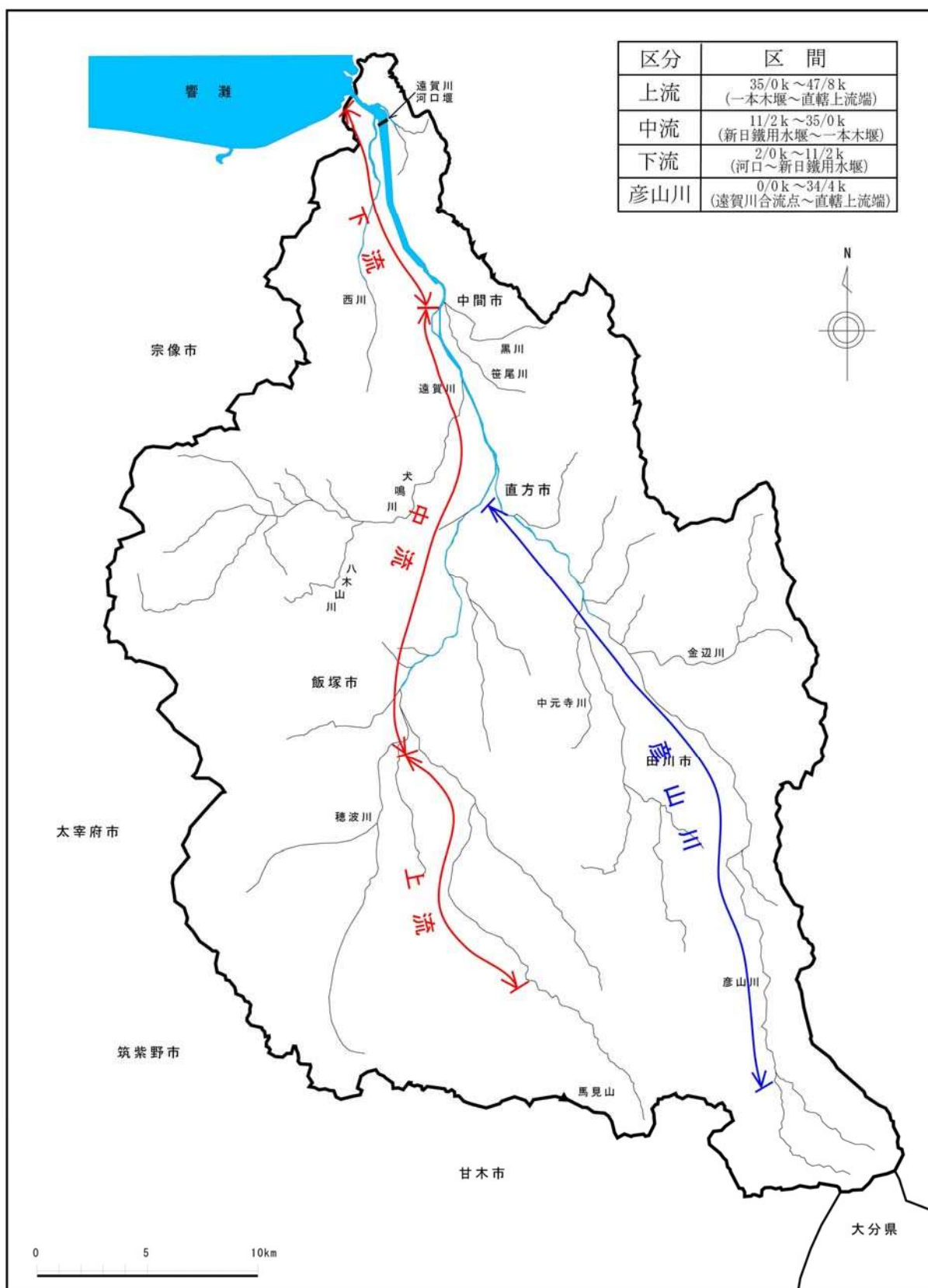


図 2-1-1 遠賀川水系区分説明

2－2．河川の自然環境

(1) 源流域及び上流域



源流（福岡県嘉穂町）

源流部の河川環境

遠賀川の源流をなす馬見山の山腹、海拔900m 余りにある高さ 6m 程の小さな滝。ここから全長 61km にわたる福岡県を代表する川の流れが始まる。

写真：遠賀川河川事務所

源流付近はスギ・ヒノキ・サワラ植林のほかアカシデ・イヌシデ群落やシイ・カシ萌芽林などの山林を中心とする山峡部で、露岩が見られるなど溪流環境の様相を呈した風景を見ることができる。

源流部を抜けると、一部の区間ではコナラ群落や自然植生のミミズバイ・スダジイ群落が見られるようになる。この付近には、昭和初期まで鮭が遡上していたと言われており、嘉穂町大隈にある鮭神社では神の使いとしての鮭への感謝と豊作を祝う献鮭祭が毎年催されている。現在は、「遠賀川にサケを呼び戻す会」が中心となって昭和61年より行われている稚魚放流により、毎年1尾程度ではあるが遡上が確認されている。

上流（福岡県嘉穂町）

上流部の河川環境

山間を抜けてすぐに扇状地状に耕作地が広がる。上流にも堰があり湛水している。堰下流には早瀬や砂洲が形成され、水辺にツルヨシ群落が繁茂する。

写真：遠賀川河川事務所





益富山の自然林（福岡県嘉穂町）

頂上から眼下に見る遠賀川流域とスダジイ林

中腹より上方は自然林が保存されており、優れたスダジイ林となっている。スダジイは胸高直径 20～70cm の大きさで、樹高はほとんどが 15～20m の高木となっており、植被率(その種類の植物が占める割合)は 100%で優占種のスダジイに混じって、コバンモチ、クスノキ、ヤブニッケイ、カゴノキ、クロキ、クロガネモチ、タブノキなどがみられ、亜高木層には、ミズバイ、スダジイ、シロダモ、ネズミモチ、カクレミノなど、低木層では、ヤブツバキ、アオキ、ヒサカキなどが多くみられる。

写真：遠賀川河川事務所

遠賀川の源流域では特定種のおオムラサキ、それより下流部には自然環境保全基礎調査の調査対象種であるゲンジボタルやハッチョウトンボなどが記録されている。

また、本川の右岸側上流域を構成する益富山にはスダジイ林の自然林が広がっている。45km付近には県内で嘉穂町でしか見られない浮葉植物のアサザが生育している。その他の地点ではカワデシヤやオオシシウドなどの特定種が確認されており、水辺にはツルヨシ、ヨシなどのヨシ原が砂礫洲を中心に多くの場所で見られる。

哺乳類では山間地においてニホンジカ、イノシシ、キツネなどの大型・中型哺乳類が、河原ではコウベモグラ、チョウセンイタチなどの小型哺乳類が主に生息している。

鳥類ではオオヨシキリやカワラヒワ、ホオジロなど河原のヨシ原や草地を好む鳥やカワセミやヒクイナなど水辺にすむ鳥などが確認されている。

魚類ではオイカワやイトモロコ、カマツカなどの代表的な種とともに特定種のスジシマドジョウ小型種点小型やメダカが確認されている。湛水域が多く、瀬を好む種の他に、緩流域や止水域に生息する種も多く見られる。

昆虫類では特定種で丘陵地や低山地の清流でみられるキイロヤマトンボや池沼や止水に生息するフトネクイハムシが確認されている。



アサザ（絶滅危惧Ⅱ類、福岡県：絶滅危惧ⅠA類）

リンドウ科。北海道を除いた各地の池や沼に生える、多年草の浮葉植物。川底の泥中を地下茎が横にはい、長い茎が水面に浮かぶ。6月から9月頃、対生する葉のわきに数本の花茎を出し、黄色の花を開く。

写真：遠賀川河川事務所

カワセミ

留鳥として日本各地に広く分布。水辺に生息し、主に魚類や水生昆虫などを捕らえる。繁殖期は3月から8月。土の崖などにトンネル状の穴を掘り、奥に卵を産む。一腹卵数はだいたい4個から6個。

写真：遠賀川河川事務所



オオシシウド

（福岡県：絶滅危惧Ⅱ類）

セリ科。草丈 2m以上になる大型のセリ科高茎草本で、開花結実した株は枯れる一年生草本。種分布の主体は冷温帯にあり、山地の草地や崩落跡地等に生育する。北部九州では筑後川や遠賀川等平野部の河川に多く分布し、河川に依存した特殊な生育環境を選択する植物として注目される。

写真：遠賀川河川事務所



メダカ

(絶滅危惧Ⅱ類、福岡県：準絶滅危惧)

平地の池沼、湖、水田や用水、河川の下流域の流れの緩やかなところに生息する。塩分に対する耐性も強く、汽水域にも生息する。プランクトンや昆虫を食べる雑食性である。産卵期は春から夏にかけてで、水草などに卵を産み付ける。

写真：遠賀川河川事務所



ナガオカモノアラガイ (準絶滅危惧)

本州関東以南から九州に分布し、水位の安定した細流やクリークなどに多く、水域の水際の葉上に生息する陸貝である。

写真：遠賀川河川事務所

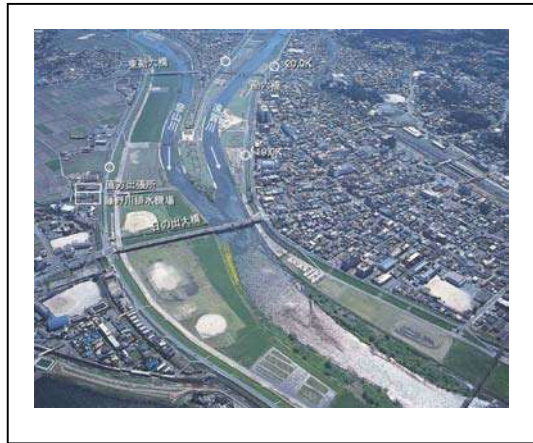
キイロヤマトンボ (絶滅危惧Ⅱ類)

幼虫は河川の緩流部の砂底に生息し、砂底のくぼみに浅く潜って生活している。東海、近畿、中国地方を除いては分布が局所的であり、それは幼虫が好む底質の選択性が狭いことによると言われている。幼虫は河川周辺の樹林などに生息する。

写真：遠賀川河川事務所



(2) 中流域



遠賀川中流部（直方市）

写真：遠賀川河川事務所

飯塚市から中間市の中ノ島にいたる中流域は、谷底平野をゆっくりと流下してきた本川が、穂波川、彦山川、犬鳴川などの多くの支川を合わせつつ広大な開放水面と高水敷を持つ下流域へと向かう区間である。高水敷は広く採草地として利用されている場所が多いが、下流に近づくにつれ自然河岸も目立つようになりヨシ原や採草地ヨシも繁茂するようになる。

旧来型の低水護岸が施されている区間では湿性植物は後退しているが、それ以外の区間では、河岸から高水敷縁部にかけてヨシ、オギ群落が带状に分布し、砂洲にはヨシ、ツルヨシなどの抽水植物が生育する。流路は上流側では緩やかに蛇行を繰り返し、所々に瀬、淵が見られるが、下流に行くに従い直線状になり、堰の湛水域が広がる。

また、中間市の中ノ島では、ヨシ・オギ群落、湿性植物群落、ヤナギ林、広葉樹林などの植生が豊かに生育しており、遠賀川水系の中で最も多様性のある水辺環境を呈している。



中ノ島（中間市）

中ノ島周辺の植生は遠賀川の典型的な河辺植生をとどめており、第2回自然環境保全基礎調査で、「遠賀川の河辺草本群落」として特定植物群落に選定されている

写真：遠賀川河川事務所

この区間では広大な高水敷に生育するオギ・ヨシ群落が特徴的で、カワジシャ、イヌゴマ、オオシシウド、タコノアシ、ホソバオグルマ、ミゾコウジュ、ヤガミスゲ、ウマスゲやアゼオトギリ等の数々の特定種が湿り気の多い草地一帯に見られる。

この広大なヨシ原や草地はそれを利用する鳥類の良好な生息場となっており、ツグミやムクドリのねぐら、オオヨシキリの繁殖地など多数確認されている。開放水面ではカワウ、カワセミやミサゴが採餌する様子が観察され、湿性植物が繁茂する水辺ではヒクイナがヨシの間を歩行する姿が見られる。

河川には環境省の特定種に指定されているカゼトゲタナゴやメダカ、バラタナゴ属、あるいは県の特種に指定されているギギ、カネヒラ、メダカ、ウナギが確認されているとともにオイカワやコイ、フナ類、カマツカ、ワタカ等の魚類が生息している。また、この水域にはブルーギルやオオクチバスの外来種も多く、現在のところ在来の地域個体種が消滅するような影響は発生していないが、今後の魚類相の動向に注視することになる。

昆虫類では、高水敷にはベニシジミ、モンシロチョウ、キタテハ、バッタ類など開けた草地に依存する種が多く、一方、イネ科やカツリグサ科の植物が繁茂する水辺ではトンボ類が多く環境省の特定種に指定されているキイロヤマトンボの生息も確認されている。河畔林や樹林が纏まって分布する中間市の中ノ島ではヒラタクワガタ、ノコギリカミキリ、カナブンなど森林に依存する甲虫の他に県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されたコムラサキが確認されている。東部の北九州国定公園にむかって延びる支川沿いにはミカドアゲハなどの蝶類が記録されている。

哺乳類ではヨシ原などで球形の巣を作り生息するカヤネズミが多数確認され、また、河川敷の土表面にはコウベモグラのモグラ塚やイタチの糞がよく確認される。



ヤガミスゲ

(福岡県：絶滅危惧ⅠB類)

カヤツリグサ科。湿地に生育する多年草で、匍匐をのばして繁茂するため、マット状の群落を形成する。スゲ類の中では脆弱な形質を持ち、高茎草本に対する競争力は弱いものと推定される。福岡県内では極稀。

写真：遠賀川河川事務所



オオヨシキリ
(福岡県：絶滅危惧Ⅱ類)

九州以北に夏鳥として渡来し、ヨシ原で繁殖する。雄の早いものは、4 月末に飛来し、なわばりを宣言。ギョギョシ、ギョギョシとさえずる。ヨシ原の茎をからめて、外径 10cm ぐらいのお椀型の巣を作り、4 個から 6 個の卵を産み落とす。ヨシにつく昆虫類やクモ類を餌とする。

写真：遠賀川河川事務所

ガイ

(準絶滅危惧、絶滅危惧Ⅱ類)

緩やかな流れのある河川や農業用水路、湖沼などの砂泥底に生息する。母貝の中で発生し幼生は魚類のタナゴ類・ヨシノボリ類などのえらやひれなどに寄生して生活する。

写真：遠賀川河川事務所



カワウ

ペリカン目ウ科に属する大型の水鳥。くちばしから尾の先まで 80cm 前後、体重は 1.5kg から 2.5kg。水辺近くの林などにねぐらやコロニーを作り、一日に 300g から 500g の魚を採餌する。

写真：遠賀川河川事務所

カヤネズミ

(福岡県：絶滅危惧)

九州では春～初夏(5～6月)と秋～初冬(9～12月)の年2回、1産5～6頭の仔を産む。妊娠期間は17～19日。オギやススキなどのイネ科植物の茎に、それらの葉を巧みに編んで球形の巣(直径9～10cm)をつくる。

写真：カヤネズミの球巣 遠賀川河川事務所



(3) 下流部



遠賀川下流部

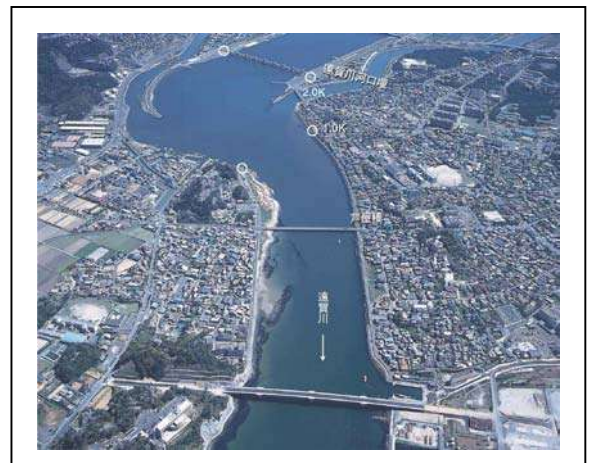
(水巻町、遠賀町上空より望む)

写真：遠賀川河川事務所

下流域では、中ノ島下部端付近から中間市、水巻町、遠賀町の沖積平野を悠々と歩むように流れ、遠賀河口堰を経て汽水域となり芦屋町で支川の西川、江川と合流後、響き灘に流れこむ。河口堰上流の水域は湛水域のため、満々と水を貯えており、ボート釣りや水上スポーツ、また河岸からの釣りなど水面利用が活発な水域である。また、高水敷も広大で、グラウンド、広場やサイクリングロードなどが整備され、休日には多くの人が散歩、ジョギング、スポーツなどで憩う姿が見られる。反面、こうした高水敷の人的利用や低水護岸の敷設、水際の直線化により、本来の下流域のもつ広大なヨシ原、大きな蛇行と砂洲、中洲の形成、湿地帯や砂浜、干潟など下流、河口特有の河川環境には乏しい。多自然型川づくりの導入により、自然景観に近づきつつある場所もあるが、全体的に人為性が濃く、単調な河川環境となっている。

遠賀川河口部 (芦屋町 河口部より上流を望む)

写真：遠賀川河川事務所



河口堰から上流の湛水域では、河岸は護岸整備により湿性植物が群落を形成する場所が限られている。高水敷は公園化、緑地化されており、人為植生である荒地雑草群落が広く分布している。しかしながら、左岸 10k 付近などに残された自然河岸には在来のヨシやオギなどが湿性高茎群落を形成しており、高水敷の湿性地や河川側縁部などにも一部生育し、ヨシ原を生息場とする鳥類や小動物の希少なハビタットとなっている。こうしたヨシやオギが群生する草地には、環境省や福岡県で特定種に指定されているカワヂシャやイヌゴマ、オオシシウドなどが生育している。河口域では本来シバナ、ウラギク、ハママツナ、ヨシ、アイアシなどの塩生植物が群落を形成していたが、現在は護岸の整備などにより、低位の砂浜や江川との合流部付近の干潟など一部に分布する。わずかな干潟、砂浜には環境省や福岡県で特定種に指定されているハマサジやハマボウが生育している。

残された干潟、砂浜は底生動物にとっても希少な生息場であり、ハマガニや福岡県で特定種に指定されているマゴコロガイ、ベンケイガニが生息している。

遠賀川河口堰の湛水域は鳥類の採餌場や休息場となっており、冬の渡りの季節には多くのカモ類やカモメ類が集まってくる。ここでは、カンムリカイツブリ、カワウそして猛禽類のミサゴが盛んに魚を捕食している。また、河口域では干潮時の干潟がシギ・チドリ類などの採餌場となっており、時には環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている猛禽類のハヤブサが飛翔するところを観察することができる。

魚類では、河口域に汽水性のヒイラギやシマイサキなどの汽水魚が生息しており、河口堰より上流の淡水域には福岡県レッドデータブック準絶滅危惧に指定されているカネヒラやヤリタナゴなどが生息している。特徴的なのは下流から中流域にかけてワタカが生息していることで、本来琵琶湖淀川水系の固有種であるが当地域には移植され定着しており、数多く確認されている。福岡県レッドデータブックで天然不明に指定されているアユも確認され、魚道の設置が進むにつれ上流に遡上する数も徐々に増えることが期待される。

哺乳類では、河川敷にハツカネズミ、イタチなどの小型哺乳類が生息しているが、ヨシ原が小さく河畔林がない高水敷では、比較的大型の哺乳類が隠れたり、生息するには困難でその姿は殆ど見られない。

ハマサジ

(絶滅危惧Ⅱ類、福岡県：絶滅危惧Ⅰ類)

本州から九州の海岸の湿地に生える二年草。
葉が匙ににているのが名前の由来。

写真：遠賀川河川事務所



ベンケイガニ

(福岡県：絶滅危惧)

東京湾以南の各地に分布する。河口部の干潟後背地の土手や湿地、草原、水田などに生息して、土や石の下などに巣穴を掘る。繁殖期は7月から9月頃。

写真：遠賀川河川事務所

マゴコロガイ (福岡県：絶滅危惧)

九州の内湾および瀬戸内海に分布する。
内湾の潮間帯の砂泥底に深い巣穴を掘るアナジャコの腹面に足糸で付着する。殻長 13mm, 殻高 6mm 程度と小型, イガイ形で薄質。

写真：アナジャコに付着するマゴコロガイ
遠賀川河川事務所





ミゾコウジュ

(準絶滅危惧)

河川や池沼等の半湿地性に生育する越年草で、ロゼット葉で越冬する。先駆性の強い種で、安定した自然植生内には生育できず、裸地や明るい開放地を好み、生育場所は短期間で浮動する場合が多い。

写真：遠賀川河川事務所

アユ

(福岡県：天然不明)

春から秋にかけて、主として川の中流域で生活するが、秋に孵化した仔魚は海に下り、翌春までの仔稚魚期を海で送った後、遡上する。

写真：遠賀川河川事務所



カネヒラ

(福岡県：準絶滅危惧)

平野部の細流や灌漑用水路などの流れのやや緩やかな処や池沼に生息する。産卵の盛期は秋で、イシガイなどの二枚貝に産卵する。

写真：遠賀川河川事務所

(4) 彦山川流域



**彦山川上流
(源流付近)**

写真：遠賀川河川事務所

源流付近は、シラキ・ブナ群集、モミ・シキミ群集、アカガシ・ミヤマシキミ群集、アカマツ群落からなる自然植生で覆われており、一帯は耶馬日田英彦山国定公園に指定されている。深倉峽に代表される峡谷には大小さまざまな奇石が林立しており、秋の紅葉など四季に富んだ自然環境が観光客を集めている。

彦山川の上流から中流にかけてはいつきに流下しており、せせらぎを楽しむことができ、また、下流の広い高水敷は採草地として利用されている。



彦山川 (大任町上空より望む)

写真：遠賀川河川事務所

彦山川の源流域では特に昆虫類の宝庫となっており、第2回自然環境保全基礎調査で指標種であるムカシトンボ、ムカシヤンマ、環境省や県で特定種に指定されるオオムラサキやハルゼミなど多数の種が記録されている。両生類では第2回自然環境保全基礎調査で重要種として選定されたカスミサンショウウオやブチサンショウウオの生息も記録されている。また、英彦山の自然林、障子岳のヒノキ林など貴重な群落が多数存在している。

上流域ではコムラサキ、ミヤマセセリやツマグロキチョウなどの貴重なチョウ類が多数確認されている。また山地に飛来する特定種、サンコウチョウやヤマセミ、カワセミなどの鳥類が確認されている。

魚類では、スナヤツメやオヤニラミなどが、底生動物ではトゲナシヌマエビやヒラマキミズマイマイが、両生類ではイモリやトノサマガエルが確認されている。

中流から下流域ではカワヂシャ、コイヌガラシ、イヌゴマやミゾコウジュなど本川の下・中流域に生育している種が確認されている。鳥類では、ミサゴ、オオタカなどの猛禽類とともに、タゲリ、カワウなどが確認されている。

魚類ではカワムツ、オイカワ、カマツカといった代表的な魚類のほかに、県の特定種に指定されているギギやアユなどが確認されている。



オヤニラミ

（準絶滅危惧、福岡県：準絶滅危惧）

鰓ふたの後方に、ほぼ眼と同じ大きさの藍色の斑紋がある。産卵場所は抽水植物の生育する流れの緩やかな河岸で、産卵が終わると、雄は雌を追い払い、胸鰭で卵に新鮮な水を送ったり、死卵を口で取り除いたりして卵を保護する。ムギツクの託卵を受けることでも知られている。

写真：遠賀川河川事務所

カワヂシャ

（準絶滅危惧、福岡県：準絶滅危惧）

ため池、河川、水路の土砂が堆積するような場所に生育する。越年草で、生育環境によって沈水～抽水～湿生として生育する。茎は円く、枝分かれて直立する。高さ10～50cm。葉はわずかに茎を抱く。干上がった湿地では、ロゼット状にはりつく。

写真：遠賀川河川事務所



コイヌガラシ

（準絶滅危惧、福岡県：絶滅危惧Ⅱ類）

河川の湿地に、パッチ状に点々と群生する。一年草。茎は下部から分枝し無毛。高さ10～30cm。葉は羽状深裂，基部は耳状に茎を抱く。葉腋に0.5mmの柄のついた円柱形の果実がつく。

写真：遠賀川河川事務所





イヌゴマ

(福岡県：絶滅危惧ⅠA類)

湿地や河川の土手等の肥沃な砂泥地に生育する多年草で、細い地下茎を引いて群生する。やや軟弱な植物で、草刈り等の緩やかな攪乱には耐性があるが、大型植物による被圧や生育環境の変化には弱い。

写真：遠賀川河川事務所

ギギ

(福岡県：絶滅危惧ⅠB類)

昼間は石の下やヨシ場に潜み、主に夜間に活動摂餌する。雑食性であるが、底生動物や小魚を主に食べている。産卵期は5月から8月で、石の下やその隙間に産卵する。

写真：遠賀川河川事務所



コムラサキ

(福岡県：絶滅危惧Ⅱ類)

九州以北に分布。ヤナギ類が食樹。クヌギやヤナギなどの樹液を吸汁する。吸水性が強い。

写真：遠賀川河川事務所

(5) 遠賀川生物

各種資料をもとに、遠賀川沿いの各生物相についての概要を整理し、表 2-2-0 に示す。

表 2-2-0 各生物相の概要

調査項目	生物相の概要
植物	・ 上流域ではアカシデ・イヌシデ群落やミズバシ・スダジイ群落がモザイク状に分布するが、ほとんどはスギ・ヒノキ植林で覆われている。また、緩流部では特定種のアサザが生育している。 ・ 上流から中流域では本川沿いにヨシ・ツルヨシ群落やオギ群落が生育している。 ・ 特に中流域下部では高水敷や水際で分布する抽水から湿生植物群落等の川辺植生が注目される。カワヂシャやミゾコウジュをはじめヤガミスケなどのスゲ類、アゼオトギリ、イヌゴマなど数々の特定種が生育している。 ・ 下流域の広大な河川敷にはオギ・ヨシ群落が多く、カワヂシャやミゾコウジュ等が確認されている。 ・ 河口域ではハマサジやハマボウ等の塩生植物が自生している。 ・ 支川彦山川の上流域ではアラカシ群落やオニグルミ群落等の高木が分布している。中流域から下流域にかけては、ツルヨシ・ヨシ群落が生育している。
哺乳類	・ 上流域では、タヌキやキツネ等、大型の哺乳類が生息している。 ・ 中流域の河川敷には、タネズミやカヤネズミ等の小型哺乳類とコウバモグラやテン等の中型哺乳類が生息している。 ・ 下流域ではイタチ属の一種やハツカネズミが生息している。 ・ 支川彦山川でもカヤネズミやイタチ属の一種が生息している。
両生類 爬虫類	・ 上流から下流域では、ウシガエルやヌマガエルが生息している。 ・ 中流域下部の広い草地では、ネズミ類を捕食するジムグリが生息している。 ・ 支川彦山川では、カジカガエルが、また、トノサマガエル等の特定種が確認されている。
鳥類	・ 上流域ではカワセミ等、溪流沿いに生息する種が確認されている。 ・ 中流域ではツグミやムクドリのほか、オオヨシキリの繁殖地など多数確認されている。また、ミサゴやハヤブサ等の猛禽類が確認されている。 ・ 下流域でもミサゴやハヤブサ等の猛禽類が生息しており、ウミネコや特定種のカムリカイツブリが確認されている。 ・ 支川彦山川の河川敷ではヤマセミやカワセミが生息しており、下流域ではミサゴ等の猛禽類が確認されている。
魚類	・ 上流から中流域にかけては県の特記種に指定されているギギをはじめ、オイカワやカマツカ等が生息している。 ・ 中流域ではカゼトゲタナゴなどのタナゴ類やメダカ、回遊魚のウナギやアユが生息している。 ・ 下流域ではワタカの生息が特徴的であり、特記種としてメダカやヤリタナゴ等が確認されている。 ・ 支川彦山川ではカワムツ B 型が生息しているとともにオヤニラが確認されている。
底生動物	・ 上流から中流域では、ナガオカモノアラガイやモノアラガイなど貝類の特記種が確認されている。 ・ 中流域ではそのほかにもクルマヒラマキガイ(レンズヒラマキガイ)、トンガリササノハガイ、マルタニシなどの特記種が確認され、貝類が数多く生息している。 ・ 河口域ではベンケイガニやマゴコロガイが確認されている。 ・ 支川彦山川ではトゲナシヌマエビやヤヒタマキミズマイマイが確認されている。
昆虫類	・ 上流域ではフトクイハムシやセマルケシマゴナガネが確認されている。 ・ 中流域ではコムラサキ等のチョウ類とともに、アオヘリホノゴミシやチャイロカメムシ等の貴重な甲虫類も確認されている。 ・ 支川彦山川の上流域はコムラサキやツマグロキチョウなどのチョウ類の他、昆虫類の宝庫となっている。また、ゲンジボタルが確認されている。

以上の生物相についての詳細を各流域ごとに整理し、以下に記載する。

また、遠賀川の自然環境を把握するために、各種文献等のデータを踏まえ遠賀川に生息する特定種についてとりまとめた。

特定種:国・県・市町指定による天然記念物

絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(別名:種の保存法)

環境庁 レッドリスト

環境庁 レッドデータブック

福岡県版 レッドデータブック

水産庁 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック

環境庁 自然環境保全基礎調査

上記の資料の掲載種及び、貴重または保護すべき種として指定されている種

表 2-2-1 (1) 特定種カテゴリーの説明

分類	内容
天	「文化財保護法」により保護等の対象として指定されている種
種	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（通称：種の保存法）」で指定されている種
環	「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト（環境庁編）」及び「日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－（環境庁編）」の指定種 CR：絶滅危惧ⅠA類 （Critically Endangered：ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種） EN：絶滅危惧ⅠB類 Endangered：ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種） VU：絶滅危惧Ⅱ類 （Vulnerable：絶滅の危機が増大している種） NT：準絶滅危惧 （Near Threatened：現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種） DD：情報不足 （Data Deficient：評価するだけの情報が不足している種） LP：絶滅のおそれのある地域個体群 （Threatened Local Population：地域的に孤立しており地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群）
群落	「植物群落 レッドデータブック〔（財）日本自然保護協会、（財）世界自然保護基金日本委員会〕」の指定種 ランク4：緊急に対策必要 緊急に対策を講じなければ、群落が壊滅する ランク3：対策必要 対策を講じなければ、群落の状態が徐々に悪化する ランク2：破壊の危惧 現在の保護対策は良いが、対策を講じなければ、将来破壊されるおそれ大きい ランク1：要注意 当面、新たな保護対策は必要ない
県	「福岡県版レッドデータブック 福岡県の希少野生生物」の指定種 絶滅：絶滅 すでに絶滅したと考えられる種 危惧：絶滅危惧 絶滅のおそれのある種 I：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種 ⅠA：絶滅危惧ⅠA類 ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種 ⅠB：絶滅危惧ⅠB類 ⅠAほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種 Ⅱ：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種 準：準絶滅危惧 絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては、上記ランクのいずれかに移行する可能性のある種 不足：情報不足 条件によっては絶滅の恐れのある状態に移行し得る属性を持つが、生息状況等の情報が得られていない種 不明：天然不明 本来天然分布が認められた水域で更に放流や移植が行われ、遺伝子の攪乱が予測される種 依存：保全対策依存 現在保全対策が継続実施されているが、その保全策が中止された場合に、絶滅の恐れのある状態に移行する可能性のある種

表 2-2-2(2) 特定種カテゴリーの説明

分類	内容
県	I 類：緊急に対策必要 緊急に対策を講じなければ群落が壊滅する I～II 類 I 類と II 類の間にあるもの II 類：対策必要 対策を講じなければ群落の状態が徐々に悪化する III 類：破壊の危機 現在は保護対策が功を奏しているが、将来は破壊の危機が大きい IV 類：要注意 当面、新たな対策は必要ない(監視必要) 類に付け加えて群落状態総合ランクとして A：優れる、B：やや優れる、C：普通、D：やや劣る、E：劣る
水	「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック(2000年3月、水産庁)」の指定種 絶滅危機：絶滅の危機に瀕している種・亜種（環境庁カテゴリーに準ずる） 危急種：絶滅の危険が増大している種・亜種（環境庁カテゴリーに準ずる） 希少種：存続基盤が脆弱な種・亜種（環境庁カテゴリーに準ずる） 減少種：明らかに減少しているもの 減少傾向：長期的にみて減少しつつあるもの 普通：自然変動の範囲にあるもの 地域個体群：保護に留意すべき地域個体（環境庁カテゴリーに準ずる）
自	「第2回自然環境保全基礎調査 福岡県自然環境情報図（環境庁 1981）」 「第3回自然環境保全基礎調査 福岡県自然環境情報図（環境庁 1989）」 「第3回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落Ⅱ 九州版」 「第4回自然環境保全基礎調査 福岡県自然環境情報図（環境庁 1995）」
	A：原生林もしくはそれに近い自然林 B：国内若干地域に分布するが、極めてまれな植物群落 または個体群 C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等、分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D：砂丘、断崖、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群 E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F：過去に置いて人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採の手が入っていないもの G：乱獲その他の人為的な影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H：その他、学術上重要な植物群落または個体群
	A：日本国内ではそこにしか産しないと思われる種 B：分布域が国内若干の地域に限定されている種 C：普通種であっても、北限・南限など分布限界になるとと思われる産地に分布する種 D：当該地域において絶滅の危機に瀕している種 E：近年当該地域において絶滅したと考えられる種 F：業者あるいはマニアなどの乱獲により、当該地域での個体数の著しい減少が心配される種 G：環境指標として適当であると考えられる種 指：指標種
巨	「第4回自然環境保全基礎調査」日本の巨樹・巨木林 九州・沖縄版（環境庁 1991）

1) 遠賀川に生育する重要な植物種

遠賀川に生育する重要な植物群落及び植物は、次表の特定種一覧表に示すとおりである。

特定種は植物群落で 24 種、植物種で 214 種確認されている。なお、表中の資料番号は、後掲の表 2-2-11 を参照されたい。

表 2-2-3(1) 遠賀川で確認された植物群落の特定種一覧表

種名	貴重種区分					所在地	資料番号	備考
	天	環	群落	県	自			
水巻町鷹見神社のムクノキ林			1		F	水巻村 高見神社	4、10、13	
八所宮のスダジイ林			1		E	八幡西区野面	4、10、13	北九州都市計画区域中の緑地保全地区に指定されている
遠賀川河辺草本群落			3	ⅡC	D	中間市下大隈	2、4、10、13	
直方のオニバス群落					B	直方市植木	2、4、10	
笠置山のエノキを含む照葉樹林			2		E	飯塚市 笠置山	4、10、13	太宰府県立自然公園
障子ヶ岳のヒノキ林			2		C	添田町	2、4、10、13	耶馬日田英彦山国定公園第三種特別地域、水源かん養保安林
英彦山の自然林			1		A・F・G・H	添田町	2、4、10、13	耶馬日田英彦山国定公園特別保護地区・第一種特別地域、水源かん養保安林、学術参考保護林(一部)
大法山のスダジイ林			2		E	山田市	2、4、10、13	
益富山のスダジイ林			2		E	嘉穂町	2、4、10、13	
香春岳のイワシデ林			3		B・D・H	香春町	2、4、10、13	筑豊県立自然公園
香春岳の自然林				I A		香春町	9	環境庁特定植物群落、筑豊県立自然公園普通地域(二ノ岳, 三ノ岳)
香春岳のアラカシ群落			1	ⅡB		香春町	9	(D・E) 筑豊県立自然公園普通地域
香春岳のウラジロガシ群落			2	ⅡB		香春町	9	(D・E), 筑豊県立自然公園普通地域
香春岳のススキ・ネザサ群落			4	ⅡB		香春町	9	(E) 筑豊県立自然公園普通地域
竜ヶ鼻のケヤキ群集			1	ⅢB		香春町	9	環境庁特定植物群落(A・D・H), 筑豊県立自然公園普通地域
竜ヶ鼻の自然林			2	ⅢA	A・B・D・G・H	香春町	2、4、9、10、13	環境庁特定植物群落、筑豊県立自然公園普通地域、イワシデ群落(B・D・H)、ケヤキ群落(A・G・H)、カヤ群落(B・D・H)、アカガシ群落(B・D・H)
福智山のケヤキ林			1		G・H	小倉南区	10、13	北九州国定公園第三種特別地域、水源かん養保安林
福智山の自然林			2		E・H	小倉南区	10、13、4	北九州国定公園第一種、第二種、第三種特別地域、水源かん養保安林
三郡・宝満山の自然林			2	Ⅲ	A・E・G・H	宇美町など	2、4、9、13	ブナ群落(A), モミ群落(A), アカガシ群落(E), ツクシヤクナゲ個体群, ケヤキ群落

表 2-2-3(2) 遠賀川で確認された植物群落の特定種一覧表

種名	貴重種区分					所在地	資料 番号	備考
	天	環	群落	県	自			
上野峡のゲンカイツツジ群 落			3		B・D・ H	赤池町	4、10、13	北九州国定公園
岩石山のスダジイ林			2		F・H	田川郡赤村	4、10、13	
スダジイ群落			3	Ⅲ		山田市、嘉 穂町など	9	
山田市白馬山のムクロジ林 (ムクロジ群落)			1	Ⅳ	B・H	山田市	4、9、13	
三郡・宝満山の自然林 (アカガシ群落)			2	Ⅲ		筑穂町	9、13	環境庁特定植物群落(A・E・ G・H)

表 2-2-4(1) 遠賀川で確認された植物の特定種一覧表

種名	貴重種区分						所在地	資料 番号	備考
	天	環	群落	県	自	巨			
アオホオズキ		DD		IA			添田町	9	
アカウキクサ		VU		IA			遠賀川中流域、彦山川	9、11	
アカネスゲ		VU		IA			田川市	9	
アギナシ		NT		IA			嘉穂町	9	
アケボノスミレ				IA			添田町	9	
アサザ		VU		IA			遠賀川上流域(嘉穂町)	9、11	
アゼオトギリ		EN		IA			遠賀川中流域	9、11	
アワガエリ				不足			遠賀川中流域(飯塚市)	9、11	
イガホオズキ				IB			香春町、添田町	9	
イチイ				IA			添田町	9	
イチイガシ	県					○	添田町	6、7	呼称:諏 訪神社の イチイガシ
イチョウ	県						直方市	6	呼称:花 の木堰の 大公孫樹
イチョウ	県					○	直方市	6、7	呼称:多 賀神社の 黄玉樹
イチョウ	県					○	水巻町	6、7	呼称:立 屋敷の大 イチョウ
イチョウ	町					○	岡垣町 原	6、7	
イチョウ	県						香春町	6	呼称:神 宮院の大 銀杏
イチョウシダ				IB			香春町	9	
イナモリソウ				II			添田町	9	
イヌゴマ				IA			遠賀川中流域、犬鳴川、 金辺川、彦山川、中元寺	11	
イヌノフグリ		VU		IB			川崎町、	9	
イヌハギ		VU		IB			香春町、彦山川(添田町)	9、11	
イブキシモツケ				準			香春町	9	
イワガサ				II			添田町	9	
イワシデ				準			香春町	9	

表 2-2-4(2) 遠賀川で確認された植物の特定種一覧表

種名	貴重種区分						所在地	資料 番号	備考
	天	環	群落	県	自	巨			
イワツクバネウツギ		VU		IB			香春町	9	
イワデンダ				IA			添田町	9	
ウシオツメクサ				不足			西川(遠賀町、芦屋町)	9、11	
ウチョウラン		VU		IA			添田町	9	
ウドカズラ				IA			筑穂町	9	
ウマスゲ				不足			遠賀川中流域	9、11	
ウメバチソウ				II			飯塚市	9	
ウンゼンマンネングサ		VU		II			添田町	9	
ウンヌケ		VU		EX			添田町	9	
エンシュウツリフネソウ				IA			添田町	9	
オオキヌタソウ				IB			添田町	9	
オオシシウド				II			遠賀川下流～上流域、彦山川、犬鳴川、黒川	9、11	
オオバアサガラ				IB			添田町	9	
オオバシナミズニラ		EN		IA			宮田町、穂波町	9	
オオベニウツギ		CR		IA			嘉穂町	9	
オオヤマレゲ				IA			添田町	9	
オオルリソウ				IB			田川市	9	
オオレンシダ				IA			嘉穂町	9	
オキナグサ		VU		IB			田川市	9	
オサシダ				IB			添田町	9	
オシャグジデンダ				IB			添田町	9	
オトコシダ				IB			宮田町、筑穂町、添田町	9	
オニコナスビ				IB			添田町	9	
オニシバリ				II			香春町	9	
カキツバタ		VU					遠賀川中流域	11	
カセンソウ				II			香春町	9	
カツラ	国					○	飯塚市	1、7	呼称:鎮西村のカツラ
カリガネソウ				IA			筑穂町	9	
カワヂシャ		NT		準			遠賀川水系	9、11	
カンラン		CR		IA			筑穂町	9	
キエビネ		EN		IA			筑穂町	9	
キキョウ		VU		II			香春町	9	
キセワタ		VU		II			香春町、田川市、飯塚市	9	
キドイノモトソウ		VU		IA			香春町、田川市	9	
キビノクロウメモドキ		VU		II			香春町	9	
キンモウワラビ		VU		IA			香春町	9	
キンラン		VU		II			金田町、添田町	9	
クサヤツデ				IB			嘉穂町、添田町	9	
クスノキ	県					○	筑穂町	6、7	呼称:大分八幡宮の大樟
クスノキ	県					○	香春町	6、7	呼称:元光願寺の大樟
クロフネサイシン		VU		II			添田町	9	
クロヤツシロラン		EN		IA			香春町	9	

表 2-2-4(3) 遠賀川で確認された植物の特定種一覧表

種名	貴重種区分						所在地	資料 番号	備考
	天	環	群落	県	自	巨			
ゲンカイツツジ		VU		準			添田町	9	
ケンボナシ				IB			香春町、川崎町	9	
コイヌガラシ		NT		II			彦山川、金辺川	9、11	
コウホネ				II			川崎町	9	
コウラボシ				IA			宮田町	9	
コガマ				IB			金田町、川崎町	9	
コギシギシ		VU		II			水巻町	9	
コクモウクジャク				IA			宮田町	9	
コケシノブ				IA			添田町	9	
コミヤマカタバミ				II			添田町	9	
ゴウマツ				IA			添田町	9	
サギソウ		VU		IA			嘉穂町	9	
サルメンエビネ		EN		IA			添田町	9	
サワギキョウ				II			嘉穂町	9	
サワトラノオ		EN		IA			香春町	9	
サンショウモ		VU		IA			宮田町	9	
シオン		VU		不足			彦山川	9、11	
シコクスミレ				II			添田町	9	
シナミズニラ		EN		IA			穂波町	9	
シモツケソウ		EN		IB			添田町	9	
シライトソウ				II			飯塚市	9	
シラン		NT		準			金辺川(田川市)	9、11	
シロバナハンショウヅル				準			香春町	9	
スギ	国					○	添田町	1、6、7	呼称:英彦山の鬼スギ
スギ	県					○	添田町	6、7	呼称:泉蔵坊杉
スギラン		EN		IA			添田町	9	
スジスマハリイ		VU		IB			遠賀町	9	
スズサイコ		VU		II			香春町、金田町、飯塚市	9	
スズムシバナ				II			嘉穂町、添田町	9	
セッコク				II			添田町	9	
センダイソウ		VU		IA			添田町	9	
ソテツ	県						芦屋町	6	呼称:千光院大蘇鉄
ソテツ	町						岡垣町 波津	6	下部幹折れにより支柱を設置
ソバナ				IA			添田町	9	
タカサゴソウ		VU		II			香春町	9	
タコノアシ		VU		II			遠賀川中流域	9、11	
タチデンド				IB			香春町	9	
タチヒカゲミズ		EN		IA			添田町	9	
タマガワホトトギス				II			添田町	9	
ツクシガシワ				II			嘉穂町、添田町	9	
ツクシカンガレイ				IB			穂波町	9	
ツクシタンポポ		EN		IB			香春町、添田町	9	

表 2-2-4(4) 遠賀川で確認された植物の特定種一覧表

種名	貴重種区分						所在地	資料 番号	備考
	天	環	群落	県	自	巨			
ビロードスゲ				不足			遠賀川中流域、穂波川、 中元寺川	9、11	
ヒロハテンナンショウ				IA			筑穂町、添田町	9	
ヒロハトラノオ				IA			添田町	9	
ヒロハナライシダ				IA			添田町	9	
ビワ	県						香春町	6	呼称:神 宮院の石 割枇杷
フウリンウメモドキ				IB			添田町	9	
フガクスズムシソウ		EN		IA			添田町	9	
フジ	県						方城町	6	呼称:定 禅寺の藤
フクオウソウ				II			添田町	9	
フタバアオイ				IB			添田町	9	
ブッボウソウ	県						添田町	6	呼称:英彦 山のブッポ ウソウ
フトヒルムシロ				IB			嘉穂町	9	
フナバラソウ				II			香春町、金田町、田川市	9	
ポウラン		NT		II			嘉穂町、添田町	9	
ホオノカワシダ				IA			筑穂町	9	
ホシクサ				IA			田川市、添田町	9	
ホソバオグルマ				IB			遠賀川中流～上流域、中 元寺川	9、11	
ホソバナコバイモ		VU		II			添田町	9	
ホソバママコナ		EN		絶滅			香春町	9	
ボダイジュ	県						川崎町	6	呼称:光 蓮寺の菩 提樹
ホツツジ				IA			添田町	9	
ホルトノキ	県					○	香春町	6、7	呼称:五徳 ホルトの木
マツグミ				IA			添田町	9	
マツムシソウ				絶滅			添田町	9	
マネキグサ		VU		II			香春町	9	
マメヅタラン		VU		II			添田町	9	
マルミスブタ		VU		IA			添田町	9	
ミカワタヌキモ(イトタヌキモ)				IA			嘉穂町	9	
ミクリ		NT		IA			金辺川(田川市)	9、11	
ミシマサイコ		VU		II			香春町、田川市	9	
ミズオオバコ				IB			穂波町、添田町	9	
ミズトラノオ		VU		IA			穂波町	9	
ミズネコノオ		VU		IA			宮田町	9	
ミズマツバ		VU					彦山川	11	
ミスミソウ		NT		IA			添田町	9	
ミゾコウジュ		NT		準			遠賀川水系	9、11	
ミゾシダモドキ				IA			添田町	9	
ミツバテンナンショウ				準			添田町	9	
ミツバベンケイソウ				IB			香春町	9	

表 2-2-4 (5) 遠賀川で確認された植物の特定種一覧表

種名	貴重種区分						所在地	資料 番号	備考
	天	環	群落	県	自	巨			
ミヤコミズ		VU		II			香春町	9	
ミヤマイラクサ				IB			香春町	9	
ミヤマカラマツ				IA			添田町	9	
ムラサキ		EN		IB			香春町、田川市	9	
ムラサキセンブリ		VU		II			香春町、金田町、田川市、庄内町、飯塚市	9	
ムラサキベニシダ				IA			筑穂町	9	
ムラサキミカキグサ		VU		II			嘉穂町	9	
モウセンゴケ				II			金田町、嘉穂町	9	
モミジハグマ				IB			添田町	9	
モリイバラ				II			香春町、添田町	9	
モロコシソウ				IA			香春町	9	
ヤガミスゲ				IB			遠賀川中流域	9、11	
ヤシャビシヤク		VU		IA			添田町	9	
ヤシャブシ				IA			添田町	9	
ヤナギイボタ				IA			添田町	9	
ヤナギスプタ				IA			穂波町	9	
ヤマウツボ				IB			添田町	9	
ヤマシャクヤク		VU		IB			添田町	9	
ヤマタツナミソウ				IA			香春町	9	
ヤマブキショウマ				II			添田町	9	
ヤマホオズキ		EN		IA			香春町、田川市	9	
リンドウ				II			金田町、筑穂町	9	
ルイヨウボタン				IB			添田町	9	
ルリミノキ				準			嘉穂町	9	
レンゲツツジ				IB			添田町	9	
ロクオンソウ		EN					穂波川(穂波町)	11	
ワチガイソウ				II			添田町	9	

2) 遠賀川に生育する重要な動物種

遠賀川に生育する重要な動物は、次表の特定種一覧表に示すとおりである。特定種は哺乳類 12 種、両生・は虫類 11 種、鳥類 34 種、魚類 22 種、底生動物 14 種、昆虫類 148 種が確認されている。なお、表中の資料番号は、後掲の表 2-2-11 を参照されたい。

表 2-2-5 遠賀川で確認された哺乳類の特定種一覧表

種名	貴重種区分						所在地	資料番号	備考
	天	環	群落	県	水	自			
アナグマ				準			添田町	9	
カヤネズミ				危惧			遠賀川中流域～上流域、彦山川	9、11	
コキクガシラコウモリ				準			田川市	9	
スミスネズミ				準			添田町	9	
テングコウモリ		VU		不足			添田町	9	
ニホンザル				準			香春町	9	
ハタネズミ				準			遠賀川中流域	9、11	
ホンドモモンガ				不足			添田町	9	
ムササビ				準			筑穂町、添田町	9	
ヤマコウモリ		VU		不足			添田町	9	
ヤマネ		NT		危惧			添田町	9	
ユビナガコウモリ				準			田川市	9	

表 2-2-6 遠賀川で確認されたは虫類・両生類の特定種一覧表

種名	貴重種区分						所在地	資料番号	備考
	天	環	群落	県	水	自			
オオサンショウウオ		NT		IA		○	遠賀川上流域、中元寺川、金辺川	2	赤村のみが自然分布と考えられている
カスミサンショウウオ				II		○	遠賀川水系	2	
ジムグリ				準			遠賀川中流域、彦山川	11	
シロマダラ				準			中間市	9	
トノサマガエル				IB			彦山川、飯塚市、山田市、筑穂町、稲築町	9、11	
ニホンアカガエル				II			穎田町、庄内町、宮田町、筑穂町、稲築町、川崎町	9	
ニホンイシガメ				準			飯塚市、稲築町	9	
ニホンスッポン		DD		準			小竹町	9	
ニホンヒキガエル				II			飯塚市	9	
ブチサンショウウオ						○	遠賀川水系上流域、犬鳴川	2	
ヤマアカガエル				II			田川市、飯塚市、山田市、筑穂町、川崎町	9	

表 2-2-7 遠賀川で確認された鳥類の特定種一覧表

種名	貴重種区分						所在地	資料 番号	備考
	天	環	群落	県	水	自			
アオバズク				II			金田町、川崎町、英彦山系	9	
アカショウビン				II			小竹町、英彦山系	9	
イカルチドリ				準			遠賀川上流域、彦山川、犬鳴川	9、11	
ウズラ		DD		不足			遠賀川中流域	9、11	
オオジシギ		NT		不足			遠賀川中流域	9、11	
オオタカ		VU		準			彦山川	9、11	
オオヨシキリ				II			遠賀川中流域～上流域、彦山川	9、11	
オオルリ				準			宮田町、山田市、英彦山系	9	
オシドリ				準			鰐田町、川崎町、英彦山系	9	
カワウ					普通		遠賀川、彦山川	12	
カササギ				依存			中間市	9	
カンムリカイツブリ				II			遠賀川汽水域～下流域	9、11	
キビタキ				準			宮田町、山田市	9	
クマタカ		EN		IA			英彦山系	9	
ケリ				準			犬鳴川(若宮町)	9、11	
コノハズク				IB			英彦山系	9	
コマドリ				II			嘉穂町、英彦山系	9	
サシバ				準			遠賀川中流域、英彦山系	9、11	
サンコウチョウ				II			彦山川、英彦山系	9	
サンショウクイ		VU		II			山田市、川崎町	9	
タカブシギ				II			遠賀川上流域	9、11	
タマシギ				II			金田町、鰐田町、大任町	9	
チュウサギ		NT		不足	希少		遠賀川中流域、犬鳴川	9、11、12	
ツバメチドリ		VU		II			遠賀川中流域	9、11	
ハイタカ		NT		準			遠賀川、彦山川、英彦山系	9、11	
ハチクマ		NT		準			遠賀川中流域、犬鳴川、英彦山系	9、11	
ハヤブサ		VU		II			遠賀川汽水域、中流域	9、11	
ヒクイナ				準			遠賀川中流域～上流域、彦山川	9、11	
ヒシクイ		VU		準			遠賀町	9	
ブッポウソウ		VU		IB			英彦山系	9	
ミサゴ		NT		準			遠賀川汽水域～中流域、彦山川	9、11	
ヤイロチョウ		EN		IB			英彦山系	9	
ヤマドリ				II			山田市、英彦山系	9	
ヨタカ				II			英彦山系	9	

表 2-2-8 遠賀川で確認された魚類の特定種一覧表

種名	貴重種区分						所在地	資料 番号	備考
	天	環	群落	県	水	自			
アカザ		VU		IB	危急		彦山川	9、11	
アユ				不明			遠賀川下流域、彦 山川、八木山川	9、11	
イシドジョウ		EN		IA	危急		山口川	9	
イトヨ(降海型)				準			遠賀川	9	
ウナギ				準			遠賀川中流域、彦 山川	9、11	
オヤニラミ		NT		準	希少		彦山川	9、11	
カジカ(陸封型)				II			大分川	9	
カゼトゲタナゴ		VU		II	希少		遠賀川中流域、江川	9、11	
カネヒラ(県・準)				準			遠賀川下流域、江川	9、11	
カワアナゴ				準			遠賀川	9	
ガンテンイシヨウジ				不足			遠賀川	9	
ギギ				IB			遠賀川中流域、彦 山川、八木山川	9、11	
サケ				不明			遠賀川	6	
シロウオ		NT		準			遠賀川	9	
スジシマドジョウ小型種点小型		EN		IB			遠賀川中流域～上 流域、内住川	9、11	
スナヤツメ		VU		IB			彦山川、山口川	9、11	
トビハゼ				IB			西川	9	
ニッポンバラタナゴ		CR		II	危惧		鹿毛馬川、江川	9	絶滅危惧I類 (環境庁), 絶 滅危惧種(水 産庁), CR (IUCN)
バラタナゴ属の一種		CR		II			遠賀川中流域	9、11	
メダカ		VU		準			遠賀川中流～上流 域、江川、黒川、笹 尾川、倉久川	9、11	
ヤマメ				不明			遠賀川	6	
ヤリタナゴ				準			遠賀川下流域、江 川、笹尾川	9、11	

表 2-2-9 遠賀川で確認された底生動物の特定種一覧表

種名	貴重種区分						所在地	資料 番号	備考
	天	環	群落	県	水	自			
オオクリイロカワザンショウ				I			西川	9	絶滅寸前 (WWFJ)
カワザンショウガイ				準			西川	9	
クリイロカワザンショウ				準			遠賀川下流、西川	9	
クルマヒラマキガイ (レンズヒラマキガイ)		VU		I	希少		遠賀川中流域	9、11	
トゲナシヌマエビ				不足			彦山川	9、11	
トンガリササノハガイ		NT		II	希少		遠賀川中流域	9、11	
ナガオカモノアラガイ		NT					遠賀川中流～上流 域、彦山川	11	
ハマガニ				準			遠賀川汽水域	9、11	
ヒラマキミズマイマイ				I			彦山川	9、11	
ベンケイガニ				危惧			遠賀川汽水域	9、11	
マゴコロガイ				I			遠賀川汽水域	9、11	
マルタニシ		NT		準			遠賀川中流域	9、11	
ムシヤドリカワザンショウ				I				9	危険(WWFJ)
モノアラガイ		NT					遠賀川中流～上流 域、彦山川	11	

表 2-2-10(1) 遠賀川で確認された昆虫類の特定種一覧表

種名	貴重種区分						所在地	資料 番号	備考
	天	環	群落	県	水	自			
アイヌハンミョウ				I			英彦山系	9	
アイノミドリシジミ				準			英彦山系	9	
アオアシナガハナムグリ						B	英彦山系	2	
アオクチブトカミキリ				準			英彦山系	9	
アオヘリホソゴミムシ				準			遠賀川中流域	11	
アオヤンマ				不足		B	英彦山系	2	
アカシジミ				II		B	赤池町、宮田町、英彦山系	2	
アカジマトラカミキリ						B・C	英彦山系	2	
アカマダラコガネ				I			宮田町、英彦山系	9	
アトコブゴミムシダマシ				I			英彦山系	9	
ウスイロアカネハムシ				II			嘉穂町、英彦山系	9	
ウラギンシジミ				準		B	英彦山系、若宮町、赤池町	2	
ウラギンズジヒョウモン				II			田川市、香春町、英彦山系	9	
ウラギンヒョウモン				II			彦山川、香春町、英彦山系	11	
ウラゴマダラシジミ				II		B	英彦山系	2	
ウラナミジャノメ		VU		II			香春町、英彦山系	9	
ウンモンテントウ				II			英彦山系	9	
エサキクチキゴキブリ		DD		準			英彦山系	9	
エゾスジグロシロチョウ				II			嘉穂町	9	
エゾゼミ						B・G	英彦山系、直方市	2	
エゾハルゼミ						B・G	英彦山系	2	
エゾベニヒラタムシ				II			英彦山系	9	
エゾミドリシジミ				I		B	英彦山系	2	
エチゴハガタヨトウ				準			英彦山系	9	
オオウラギンヒョウモン		CR+EN		I		B	若宮町、香春町、英彦山系	2、9	
オオオバボタル				II			飯塚市	9	
オオカマキリモドキ				II		B	英彦山系	2、9	
オオキノコムシ				II			英彦山系	9	
オオキノコムシ				II			嘉穂町、英彦山系	9	
オオクシヒゲビロウドムシ				II			英彦山系	9	
オオクワガタ		NT		II			英彦山系	8、9	
オオシロタシバ				準			英彦山系	9	
オオチャイロハナムグリ		NT		II		B	英彦山系	2、8、9	
オオチャバネセセリ				準			川崎町、香春町、英彦山系	9	
オオチャバネヨトウ				I		B・C	英彦山系、中間市	2	
オオツバメエダシヤク						B・C	英彦山系	2	
オオトラフコガネ				II		B	英彦山系	2、9	
オオバボタル				II			英彦山系	9	
オオヒラタツクリゴミムシ				I			英彦山系	9	
オオマドボタル				II			宮田町、飯塚市、香春町、英彦山系	9	
オオミドリシジミ				準			英彦山系	9	
オオムラサキ		NT		II		指標	英彦山系、八幡西区、直方市、嘉穂町、山田市	2、8、9	
オオモンキゴミムシダマシ				I			英彦山系	9	
オキナワリチラシ						B・C	英彦山系、直方市	2	
オナガアゲハ				準			田川市、香春町	9	
オニクワガタ						B	英彦山系、赤池町	2	
オニホソコバネカミキリ				I			英彦山系	9	
オビレカミキリ						B・C	英彦山系	2	

表 2-2-10(2) 遠賀川で確認された昆虫類の特定種一覧表

種名	貴重種区分						所在地	資料 番号	備考
	天	環	群落	県	水	自			
カエデノヘリグロハナカミキリ						B・C	英彦山系	2	
カラスシジミ				準			英彦山系	9	
キイロヤマトンボ		VU					遠賀川中流域	11	
キマダラモドキ		NT		I		B	英彦山系	2	
キュウシュウエゾゼミ						B・G	英彦山系	2	
キリシマミドリシジミ						B	英彦山系、嘉穂町、直方市、若宮町、赤池町	2	
ギンイチモンジセセリ		NT		絶滅			英彦山系	8、9	
キンイロネクイハムシ				絶滅			嘉穂町	9	
クシヒゲビロウドムシ				II			英彦山系	9	
クスベニカミキリ				II			宮田町、飯塚市、金田町、香春町、彦山系	9	
クモガタヒョウモン				II			香春町、英彦山系	9	
クロアカネハムシ				II			英彦山系	9	
クロアシヒゲナガヒラタミツギリゾウムシ				不足			英彦山系	9	
クロゲンゴロウ				II			英彦山系	9	
クロシジミ		CR+EN		I			英彦山系	8、9	
クロセセリ						C	英彦山系、若宮町、赤池町	2	
クロボシヒラタシデムシ				II			英彦山系	9	
ゲンゴロウ		NT		I			田川市	9	
ゲンジボタル						指標	嘉穂町、若宮町、直方町	2	
コツバメ				II			田川市、香春町、英彦山系	9	
コムラサキ				II			遠賀川中流域、彦山川	9、11	
コルリクワガタ						B	英彦山系、赤池町	2	
サツマスズメ						B・C	中間市	2	
シコクヒメハナカミキリ						B・C	英彦山系	2	
シマゲンゴロウ				II			彦山川、英彦山系	9、11	
ジャノメチョウ				II			田川市、飯塚市、香春町、英彦山系	9	
シルビアシジミ				I			英彦山系	9	
シロフクロノメイガ						B	英彦山系	2	
スギタルリシジミ				I		B・G	英彦山系	2	
スジゲンゴロウ		CR+EN		I			田川市、英彦山系	8、9	
セプトシロホシクロヨトウ						A	英彦山系、赤池町	2	
セマルケシマゲソコガネ				II			遠賀川中流域、彦山川	9、11	
ソボリンゴカミキリ						B	英彦山系	2	
ダイコクコガネ		NT		I			英彦山系	8、9	
タイワンウチワヤンマ						C	英彦山系	2	
タカクラチビオオキノコムシ				不足			英彦山系	9	
タカハシトゲゾウムシ				不足			英彦山系	9	
チビハナカミキリ						B	英彦山系	2	
チャイロカメムシ				準			遠賀川中流域	9、11	
チャオビリンガ						A	英彦山系	2	
ツノコガネ				II			英彦山系	9	
ツマグロキチョウ		VU		II			彦山川、英彦山系	9、11	
トガリバホソコバナカミキリ						B	英彦山系	2	
トゲオイトトンボ						B・G	英彦山系、若宮町、赤池町	2	
トモンチビオオキノコムシ				不足			英彦山系	9	
トラハナムグリ				I			宮田町	9	
トラフカミキリ				II			宮田町、香春町	9	

表 2-2-10(3) 遠賀川で確認された昆虫類の特定種一覧表

種名	貴重種区分						所在地	資料 番号	備考
	天	環	群落	県	水	自			
ナゴヤサナエ						B・G	金田町、田川市	2	
ニシキキンカメムシ				準		B	英彦山系	2、9	
ニセコリクワガタ				準			英彦山系	9	
ハイイロボクトウ				II			遠賀川下流域	9、11	
ハッチョウトンボ						指標	田川市	2	
ハマダラハルカ		DD				B	英彦山系、若宮町	2	
ハルゼミ				準		指標	英彦山系	2	
ヒオドシチョウ		VU		準			田川市、飯塚市、香春町、英彦山系	9	
ヒカゲチョウ						C・G	中間市、英彦山系	2	
ヒゲブトハナカミキリ						B	英彦山系	2	
ヒコサンアカヨトウ				準			英彦山系	9	
ヒコサンオオズナガゴミムシ				不足			英彦山系	9	
ヒコサンクシヒゲカゲロウ				不足			英彦山系	9	
ヒコサンクロボシハムシ				不足			英彦山系	9	
ヒコサンセスジゲンゴロウ				I			英彦山系	9	
ヒコサンヌレチゴミムシ				準			英彦山系	9	
ヒコサンヒゲナガコバネカミキリ				準			英彦山系	9	
ヒコサンヒメハナカミキリ						B	英彦山系	2	
ヒコサンマルクビゴミムシ				準			英彦山系	9	
ヒメキマダラセセリ				II			田川市、山田市、川崎町、大任町、香春町	9	
ヒメキマダラヒカゲ						B	英彦山系	2	
ヒメハルゼミ						B・G	英彦山系	2	
ヒメヒロウドカミキリ		DD		II		B	英彦山系、直方市、嘉穂町	2、9	
ヒメボタル						B・G	英彦山系	2	
フジミドリシジミ				準		B	英彦山系、筑穂町、嘉穂町	2、9	
フタコブリハナカミキリ				II		B	英彦山系、八幡西区、若宮町、赤池町	2、9	
フトネクイハムシ				I			遠賀川上流域	9、11	
ベッコウトンボ		CR+EN		I			金田町、小竹町、飯塚市	9	
ヘリグロチャバネセセリ				準			英彦山系	9	
ミカドアゲハ						B	中間市、赤池町	2	
ミズイロオナガシジミ				II			英彦山系	9	
ミスジチョウ				準			英彦山系	9	
ミドリカミキリ				II			宮田町、飯塚市、香春町、英彦山系	9	
ミナミコリクワガタ				準			英彦山系	9	
ミヤマカラスシジミ				I		B	英彦山系	2	
ミヤマキマダラセセリ				II			田川市	9	
ミヤマセセリ				II			彦山川、香春町、英彦山系	9、11	
ミヤマチャバネセセリ				II			香春町、英彦山系	9	
ムカシアリ						A	英彦山系	2	
ムカシトンボ				準		指標	英彦山系、八幡西区、若宮町	2	
ムカシヤンマ						指標	英彦山系、赤池町	2	
ムナコブハナカミキリ				準		B	英彦山系	2、9	

表 2-2-10(4) 遠賀川で確認された昆虫類の特定種一覧表

種名	貴重種区分						所在地	資料 番号	備考
	天	環	群落	県	水	自			
ムモンシリグロオオキノコムシ				不足			英彦山系	9	
ムモンリグロオオキノコムシ				不足			嘉穂町	9	
メスアカミドリシジミ				準		B	英彦山系	2	
メスグロヒョウモン				II			田川市、香春町、英彦山系	9	
モリヤママドガ						B・C	中間市	2	
ヤノトラカミキリ						B	英彦山系	2	
ヨツボシカミキリ				I			飯塚市、英彦山系	9	
ヨツボシトンボ						C・G	川崎町、田川市	2	
ルーミスシジミ		VU		I		B・E	赤池町	2	
ルリクワガタ				準			英彦山系	9	
ルリヒラタムシ				II			英彦山系	9	

3) 区域ごとの主な環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布値、繁殖地等

表 2-2-11 区域ごとの主な環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地、繁殖地等

区域	主な環境の構成要素	河川環境を特徴づける種	集団分布地、 繁殖(産卵)地、ねぐら
下流域	●水域 ・湛水域、干潟 ・ワンド、たまり ●陸域 ・砂浜、草地 ・河畔林、竹林	植 物:ハママツ群落、ヨシ、アシ、チガヤ群落、<u>ハマサシ</u>、<u>ハマボウ</u>、<u>カワシヤ</u>、<u>イソマ</u>、<u>オシシ</u>、<u>タコノシ</u>、<u>シコウジュ</u>、<u>ヤガミ</u> 哺乳類:バツネズミ、イタチの一種 鳥 類:カワ、ウネ、ワカ、<u>シゴ</u>、<u>カムリカイツリ</u>、<u>ハヤブサ</u>、<u>カハヒ</u> 両生は虫:ヌマガエル 魚 類:ヒイギ、アユ、<u>カネヒラ</u>、<u>ヤタナゴ</u>、<u>ワカ</u> 昆虫類:<u>ハイロボウ</u> 底生動物:<u>マコロガイ</u>、<u>ベンケイガニ</u>、<u>ハマガニ</u>	
中流域	●水域 ・瀬、淵 ・ワンド、たまり ●陸域 ・草地 ・河畔林、樹林地、竹林	植 物:<u>アカサキ</u>、ヨシ、オギ、ツルヨシ、オオチヤギ、<u>ヒロチダ</u>、<u>カササキ</u>、<u>アセボギ</u>、<u>イソマ</u>、<u>オシシ</u>、<u>タコノシ</u>、<u>ヒメウガイ</u>、<u>セキシウ</u>、<u>ホバオグルマ</u>、<u>シコウジュ</u>、<u>ヤガミ</u>、<u>ウズラ</u>、<u>アヲカ</u> 哺乳類:<u>ハタネズミ</u>、<u>カネズミ</u>、イタチ属の一種、テン、アブラコウ、コハメクラ 鳥 類:カハヒ、カワ、ハイロボウ、ヒヨドリ、カハヒ、ヒバリ、<u>シゴ</u>、<u>ツバメ</u>、<u>オシシ</u>、<u>ウズラ</u>、<u>サシバ</u>、<u>チュウサギ</u>、<u>ハヤブサ</u>、<u>ヒキ</u>、<u>オオシシ</u>、<u>ハチマ</u>、<u>ハヤカ</u> 両生は虫:ヌマガエル、<u>ジム</u> 魚 類:<u>アユ</u>、<u>ウナギ</u>、<u>バラタナゴ</u>、<u>カササギ</u>、<u>ギギ</u>、<u>スジマシ</u>、<u>シロコ</u>、<u>カサ</u>、<u>ウズラ</u>、<u>オハカ</u>、<u>カマカ</u>、<u>ギンナ</u>、<u>カハヒ</u>、<u>ワカ</u> 昆虫類:<u>ムラサキ</u>、<u>アオハシ</u>、<u>ゴミシ</u>、<u>チャイロ</u>、<u>セマルゲン</u>、<u>コガネ</u>、<u>キロヤ</u>、<u>シボ</u> 底生動物:<u>マルタニシ</u>、<u>モア</u>、<u>ガイ</u>、<u>ナガオカ</u>、<u>ア</u>、<u>ク</u>、<u>ルマ</u>、<u>ヒラ</u>、<u>ガイ</u>、<u>ト</u>、<u>ガイ</u>	鳥 類:ツグミ、ムクドリ、スズメのねぐら オオシシの繁殖地 ツリスガ、オオシシ、カハヒ、ムクドリ、ツグミ、タケリ、イワツバメ、ハシボツ、ガラスの採卵地 ムクドリ、コサギ、カハヒの休息地 カワ、スズメの集団分布地
上流域	●水域 ・瀬 ・ワンド、たまり	植 物:ホサキ、アサギ、ヨシ、ツルヨシ、オギ、<u>カササキ</u>、<u>オシシ</u>、<u>ホバオグルマ</u>、<u>シコウジュ</u>、<u>オオチヤギ</u> 哺乳類:コハメクラ 鳥 類:カハヒ、ツバメ、<u>カササギ</u>、<u>ハカサ</u>、<u>ヒキ</u>、<u>ヒキ</u>	

	●陸域 ・草地 ・河畔林、竹林	<u>オオヨシキリ</u>、<u>ホオシロ</u>、<u>カハラビロ</u> 両生は虫:<u>ウナギエ</u>、<u>ヌマガエ</u> 魚 類:<u>スシマトシロ</u><u>小型種点小型</u>、<u>メダカ</u> 昆虫類:<u>キロヤマトンボ</u>、<u>フネクイムシ</u> 底生動物:<u>ナガオカモ</u><u>アラガイ</u>、<u>モノアラガイ</u>	
彦山川流域	●水域 ・瀬、淵 ・ワンド、たまり ●陸域 ・草地 ・河畔林、竹林、樹林地	植 物:<u>アカギク</u>、<u>ツルヨシ</u>、<u>デンシツ</u>、<u>コイガサ</u>、<u>イヌゴマ</u>、<u>シオン</u>、<u>ジコギ</u>、<u>カヂシヤ</u>、<u>コイガサ</u>、<u>イヌギ</u>、<u>オオシロ</u>、<u>ミズツバ</u>、<u>ナガミツルキケモノ</u>、<u>アラカ</u>群落 哺乳類:<u>コハモグサ</u>、<u>イナズメ</u>属の一種 <u>カネズミ</u> 鳥 類:<u>カウ</u>、<u>カサ</u>、<u>イカル</u>、<u>タケ</u>、<u>シロ</u>、<u>オオカ</u>、<u>オオヨシキリ</u>、<u>ツバメ</u>、<u>ハイタカ</u>、<u>ヒヨク</u>、<u>ヒヨドリ</u>、<u>ホオシロ</u>、<u>ヤマセ</u>、<u>サコウチヤウ</u> 両生は虫:<u>カサガエ</u>、<u>イナ</u>、<u>トサマ</u><u>エ</u>、<u>ヌマガエ</u>、<u>メダカ</u>、<u>ジムク</u> 魚 類:<u>オイカ</u>、<u>ハス</u>、<u>カマス</u> <u>B 型</u>、<u>ギギ</u>、<u>アカザ</u>、<u>ウナギ</u>、<u>スナヤツメ</u>、<u>オヤニ</u>、<u>アユ</u> 昆虫類:<u>シマゲンゴロウ</u>、<u>ゲンボト</u>、<u>セマルゲンゴロ</u>、<u>カネ</u>、<u>ウキ</u>、<u>ヒョウモ</u>、<u>ツマ</u><u>グロキチヤウ</u>、<u>コムラサキ</u>、<u>ミヤマセ</u> 底生動物:<u>モノアラガイ</u>、<u>ナガオカモ</u><u>アラガイ</u>、<u>ヒラキ</u><u>ミズマイ</u>、<u>トゲ</u><u>ナ</u><u>ヌマエ</u>	

※下線は特定種を示す。

4) 文献一覧表

表 2-2-12 動植物関係収集資料一覧表

資料 番号	出典資料及び選定基準
1	日本の天然記念物 1995年3月 講談社
2	第2回自然環境保全基礎調査 福岡県動植物分布図 昭和56年 環境庁
3	第2回自然環境保全基礎調査 福岡県植生調査報告書 1979年 環境庁
4	第3回自然環境保全基礎調査 福岡県自然環境情報図 平成元年 環境庁
5	第3回自然環境保全基礎調査 福岡県植生報告書 1988年 環境庁
6	第4回自然環境保全基礎調査 福岡県自然環境情報図 平成7年 環境庁
7	第4回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木 九州・沖縄版 1991年環境庁
8	環境庁レッドリスト（ホームページ 公開種）
9	福岡県版レッドデータブック 福岡県の希少野生生物（ホームページ 公開種）
10	日本の重要な植物群落Ⅱ 九州版Ⅰ 昭和63年8月 環境庁
11	遠賀川河川環境マップ 平成15年3月 国土交通省九州地方整備局 遠賀川河川事務所 遠賀川中流地区河川環境調査及び環境保全対策検討業務報告書 平成14年8月 国土交通省九州地方整備局 遠賀川河川事務所
12	日本の希少な野生水生生物に関するデータブック 2000年3月 水産庁
13	植物群落レッドデータ・ブック 1996年 (財)日本自然保護協会(NACS-J) (財)世界自然保護基金日本委員会(WWF Japan)

2-3. 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 観光及び景勝地

遠賀川流域には、すぐれた自然景観が存在し、国や県、市町においてそれらの保全が図られているとともに、観光客を誘致する資源となっている。

上流部から中流部にかけては耶馬日田英彦山国定公園、北九州国定公園に指定されており、深倉峡などの溪谷や滝など、河川に関わりの深い山岳景勝地があり、四季を通して行楽に訪れる人々で賑わいを見せている。



白糸の滝

(福岡県赤池町)

福智山・上野峡にある滝のひとつで、高さ 25 メートル、幅 3 メートルの大滝。水しぶきをあげて一気に落ちる美しさは見飽きることがない。周辺は四季折々の景観が楽しめる。このほかにも菅生の滝、大塔の滝、七重の滝などがある。

写真：遠賀川河川事務所

深倉峡

(福岡県添田町)

英彦山から西南にあたる障子ヶ岳の西南麓の溪谷。耶馬溪とよく似た景勝地で、四季の景に恵まれている。中央が女岩、男魂岩と女岩には数十メートルのしめ縄がある。深倉峡にはこのような奇石が林立している。

写真：遠賀川河川事務所





香春岳

(福岡県香春町)

福智山山系の南端に位置し、南側から一ノ岳、二ノ岳、三ノ岳の三つの急峻な峰からなるが、一ノ岳は山頂から3分の1ほどを鋭利な刃物で切り取ったような形で、むき出しの石灰の岩肌が印象的な山。

写真：遠賀川河川事務所

岩屋鍾乳洞

(福岡県田川市)

香春岳の石灰岩帯の一部をなしている地域にある鍾乳洞で、古生代の石灰岩で形成されている。この地域一帯には数個の鍾乳洞があるが、その内水路及び洞窟が複雑で鍾乳石洞の最も発達しているのがこの岩屋鍾乳洞である。

写真：遠賀川河川事務所



表 2-3-1 (1) 遠賀川流域内のすぐれた自然景観

自然景観資源名	名称	県	関係市町村
特徴的な稜線	大日ヶ岳西方山稜	福岡県	添田町
カルスト地形	香春岳	福岡県	香春町
	岩屋	福岡県	田川市
鍾乳洞	第3鍾乳洞	福岡県	田川市
	第2鍾乳洞	福岡県	田川市
	岩屋鍾乳洞宮ノ穴	福岡県	田川市
岩脈	英彦山大岩脈	福岡県	添田町
	黒岩山山稜部	福岡県	添田町
峡谷・溪谷	竜門峡、多門峡	福岡県	添田町
	深倉峡	福岡県	添田町
滝	白糸の滝	福岡県	赤池町

出典：第3回自然環境保全基礎調査 福岡県自然環境情報図より

表 2-3-1 (2) 遠賀川流域内のすぐれた自然景観（名選・他）

名称		所在地	概要
水源の森百選	福智山水原林	福岡県：直方市	尺岳から福智山に至る福智山系の北西部、福智川の源流にあり、農業用水を供給している。比較的丘陵な地形で変化に富んだ山地。浸食谷が発達し、滝や転び石が多く、天然のアカガシ林やクマザサ群落が残る。

出典：林野庁ホームページより

(2) 文化財

遠賀川流域には歴史的に重要な文化財、史跡が多く、下表に示すとおり国指定で24件、県指定で86件の文化財がある。

表 2-3-2(1) 遠賀川流域内文化財一覧表（国指定）

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
1	重工	古瀬戸飴釉文瓶	飯塚市	S3.2.7
2	重考	立岩遺跡堀田甕棺群出土品	飯塚市	T13.12.9
3	天	鎮西村のカツラ	飯塚市	S16.8.1
4	重工	太刀	田川市	S16.7.3
5	重彫	木造十一面観音像	鞍手町	M37.2.18
6	重彫	木造不動明王及二童子像	鞍手町	M37.2.18
7	史	古月横穴	鞍手町	S7.10.19 S61.5.26
8	史	竹原古墳	若宮町	S33.2.23
9	特史	王塚古墳	桂川町	S12.6.15 S27.3.29 S52.7.2
10	重工	華文刺繍陣羽織	嘉穂町	S35.6.9
11	特天	古処山ツゲ原始林	嘉穂町	S27.3.29
12	史	大分廃寺塔跡	筑穂町	S16.12.13
13	史	鹿毛馬神籠石	潁田町	S20.2.22
14	重建	英彦山神社奉幣殿	添田町	S40.5.27
15	重建	中島家住宅	添田町	S52.1.28
16	重建	英彦山神社銅鳥居	添田町	S14.10.25
17	重工	修験板笈	添田町	S34.6.27
18	重工	彦山三所権現御正体	添田町	H5.6.10
19	重書	仁王般若經上下	添田町	H2.6.29
20	重考	福岡県英彦山経塚出土品	添田町	S63.6.6
21	名	旧亀石坊庭園	添田町	S3.2.7
22	天	英彦山の鬼スギ	添田町	T13.12.9
23	天	鷹巣山	添田町	S16.8.1
24	名	藤江氏魚楽園	川崎町	S53.9.18

(凡例) 重建:国指定重要文化財(建造物)、重彫:国指定重要文化財(彫刻)、重工:国指定重要文化財(工芸)、重書:国指定重要文化財(書籍)、重考:国指定重要文化財(考古資料)、特史:国指定特別史跡、史:国指定史跡、名:国指定名勝、特天:国指定特別天然記念物、天:国指定天然記念物

古処山ツゲ原生林

【国指定特別天然記念物】

(福岡県嘉穂町)

古処山は標高 862m の山で、オオヒメツゲ、アサマツゲ、マルバツゲの 3 種を産するが大部分はオオヒメツゲである。オオヒメツゲの最大のは高さ 12m、基部の幹囲 1.67m で樹齢 1000 年といわれている。ツゲ林の面積は 3ha あり、ほぼ純林状のところが多い。古処山は、ツゲ林のほか周囲の森林も九州の特色をなす原始林であるのでツゲ林を代表として指定されたものである。



写真：遠賀川河川事務所



鷹巣山

【国指定天然記念物】

(福岡県添田町)

鮮新世の溶岩台地が、長い間の風化・浸食を受けてできた山。南から一の岳、二の岳、三の岳と呼ばれる円錐形の山形を呈している。一の岳は標高 979m 山頂はテーブル状をなし、まわりに高さ 60m の絶壁をめぐらし、二の岳、三の岳がこれに並んでいる。

写真：遠賀川河川事務所

英彦山の鬼スギ

【国指定天然記念物】

(福岡県添田町)

英彦山南岳から材木岩をさらに 3km 下った谷間で、彦山川の最上流の水源に当たるところでそびえ立つ巨大なスギで、根回り約 14m、胸高幹囲 12.4m、樹高約 40m、樹齢 1200 年といわれる。

写真：遠賀川河川事務所



旧亀石坊庭園

【国指定名勝】

(福岡県添田町)

亀石坊というのは修験道盛んな時の坊の一つで、現在は雪舟荘の前庭のようになっている。広さ 699 m²で泉石草樹の配置巧妙を極めているので雪舟の作と伝えられている。

写真：遠賀川河川事務所

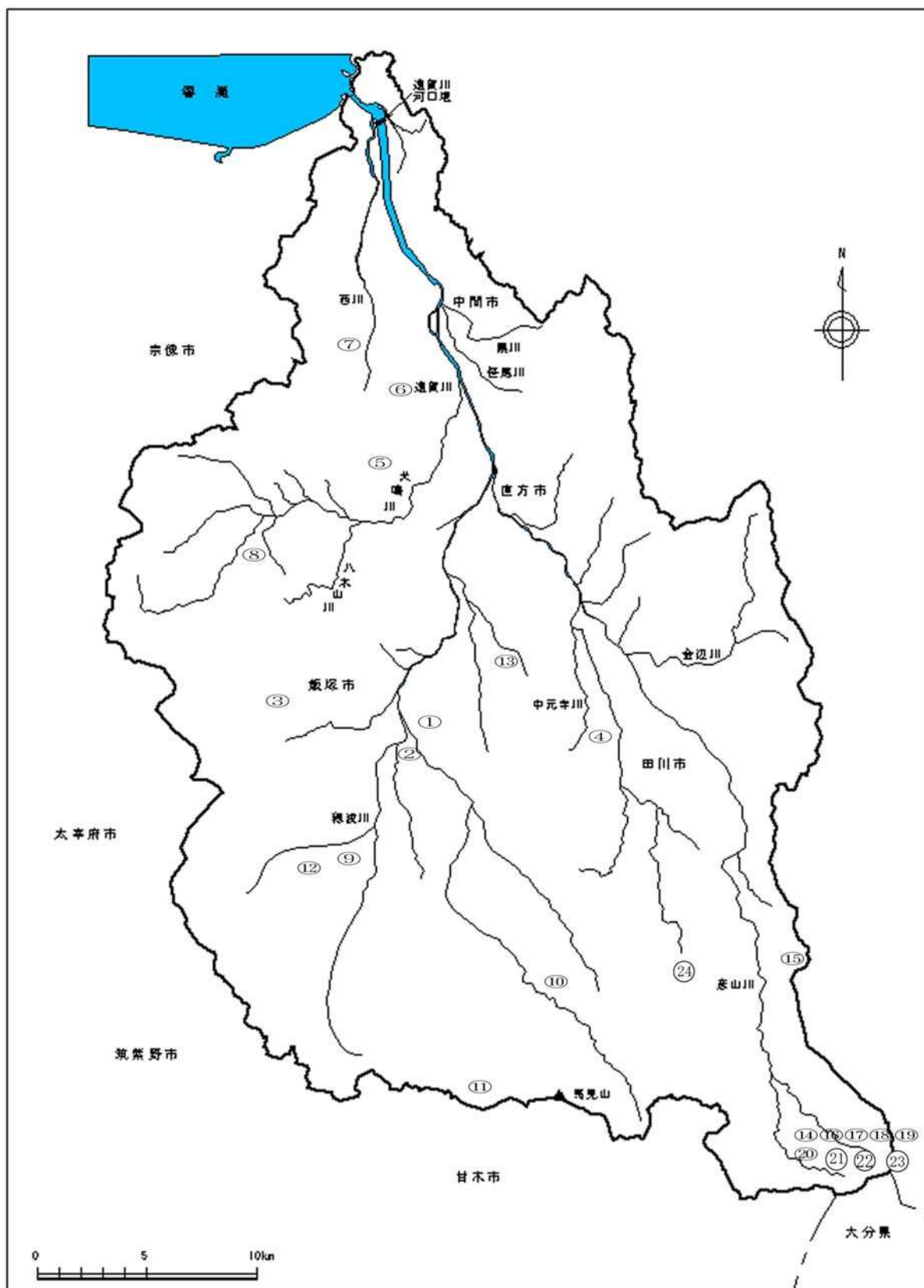


图 2-3-1 遠賀川流域内 国指定文化財位置図

表 2-3-2(2) 遠賀川流域内文化財一覧表（県指定）

	種別	名称	所在地	指定年月日
1	県工	梵鐘	直方市	S34.3.31
2	県考	石製経筒	直方市	S36.1.14
3	県考	石柱梵字曼陀羅碑	直方市	S33.11.13
4	県考	建武の板碑	直方市	S33.11.13
5	県有民	植木の空也上人像	直方市	S37.4.19
6	県無民	多賀神社幸行事	直方市	S35.8.5 S51.4.24
7	県無民	直方日若踊	直方市	S33.10.29 S51.4.24
8	県無民	植木三申踊	直方市	S37.4.13 S51.4.24
9	県天	花の木堰の大公孫樹	直方市	S35.8.16
10	県天	多賀神社の黄玉樹	直方市	S35.8.16
11	県彫	木造薬師如来立像	飯塚市	S38.1.16
12	県考	元享二年在銘法橋琳弁石卒都婆	飯塚市	S38.1.16
13	県考	滑石刻真言	飯塚市	S38.1.16
14	県史	川島古墳	飯塚市	H4.9.2
15	県有民	木造狛犬、左右大臣像	田川市	S39.5.7
16	県無民	風治八幡神社川渡行事	田川市	S29.12.13 S51.4.24
17	県無民	春日神社岩戸神楽	田川市	H3.11.15
18	県無民	伊加利人形芝居	田川市	S27.9.13 S51.4.24
19	県史	セスドノ古墳	田川市	S46.11.16
20	県天	岩屋鍾乳洞	田川市	S31.10.13
21	県彫	木造白衣観音坐像	山田市	S45.5.2
22	県天	白馬山のバクチノキ	山田市	S57.4.1
23	県史	垣生羅漢百穴	中間市	S32.8.13
24	県史	中間唐戸の水門	中間市	S58.3.19
25	県書	金台寺時衆過去帳	芦屋町	S52.4.9
26	県考	銅製経筒	芦屋町	S35.4.12
27	県考	石造宝塔	芦屋町	S60.5.28
28	県有民	芦屋の空也上人像	芦屋町	S37.4.19
29	県有民	海雲寺の宝篋印塔	芦屋町	S37.2.20
30	県有民	輪蔵附経蔵	芦屋町	S38.1.16
31	県有民	千光院・寺中町関係資料	芦屋町	S55.3.1
32	県有民	ひらた船	芦屋町	S38.1.16
33	県無民	芦屋の八朔行事	芦屋町	S35.12.12 S51.4.24
34	県無民	はねそ	芦屋町	S35.12.21 S51.4.24

（凡例） 県建：県指定有形文化財（建造物）、県絵：県指定有形文化財（絵画）、県彫：県指定有形文化財（彫刻）、県工：県指定有形文化財（工芸）、県書：県指定有形文化財（書籍）、県考：県指定有形文化財（考古資料）、県有民：県指定有形民族文化財、県無民：県指定無形民族文化財、県史：県指定史跡、県名：県指定名勝、県天：県指定天然記念物

表 2-3-2(3) 遠賀川流域内文化財一覧表（県指定）

	種別	名称	所在地	指定年月日
35	県史	山鹿貝塚	芦屋町	S52.4.9
36	県天	千光院大蘇鉄	芦屋町	S38.5.4
37	県天	夏井浜の浜木綿自生地	芦屋町	S35.4.12
38	県天	八剣神社の大イチョウ	水巻町	S52.4.9
39	県書	伊藤常足遺品	鞍手町	S35.8.16
40	県史	鎧塚古墳群	鞍手町	S47.4.15
41	県史	新延大塚古墳	鞍手町	S47.11.18
42	県史	古門窯跡	鞍手町	S48.4.19
43	県史	長谷寺火葬墓群	鞍手町	H4.9.2
44	県史	伊藤常足旧宅	鞍手町	H7.1.9
45	県彫	木造如来形坐像	宮田町	S57.4.1
46	県彫	木造十一面観音菩薩坐像	若宮町	H5.7.2
47	県工	梵鐘	若宮町	S32.8.13
48	県考	銅製経筒	若宮町	S32.8.13
49	県考	銅製経筒	若宮町	S32.8.13
50	県無民	土師の獅子舞	桂川町	S32.4.23 S51.4.24
51	県考	石造三重塔	稲築町	S34.3.31
52	県有民	山野の石造群	稲築町	S34.3.31
53	県無民	山野の森	稲築町	S33.10.29 S51.4.24
54	県史	鎌田原弥生墳墓群	嘉穂町	H7.1.9
55	県彫	木造聖観音立像	筑穂町	S46.6.15
56	県無民	大分の獅子舞	筑穂町	S29.11.13 S51.4.24
57	県天	大分八幡宮の大樟	筑穂町	S31.7.28
58	県考	五智如来板碑	庄内町	S33.11.13
59	県無民	鋼分八幡宮神幸行事	庄内町	S35.8.5 S51.4.24
60	県史	清杞殿跡	香春町	S31.8.11
61	県天	神宮院の大銀杏	香春町	S31.8.11
62	県天	元光願寺の大樟	香春町	S32.8.11
63	県天	五徳ホルトの木	香春町	S32.8.11
64	県天	神宮院の石割枇杷	香春町	S31.8.11
65	県天	一ノ岳のバクチの木	香春町	S31.8.11
66	県建	板倉	添田町	S41.2.15
67	県彫	木造薬師如来坐像乃台座	添田町	S30.7.21
68	県工	梵鐘	添田町	S41.10.1
69	県有民	英彦山資料	添田町	S52.4.9
70	県有民	英彦山修験道関係文書	添田町	S53.3.25
71	県有民	高田家所蔵英彦山修験道文書	添田町	S53.3.25

（凡例） 県建：県指定有形文化財（建造物）、県絵：県指定有形文化財（絵画）、県彫：県指定有形文化財（彫刻）、県工：県指定有形文化財（工芸）、県書：県指定有形文化財（書籍）、
県考：県指定有形文化財（考古資料）、県有民：県指定有形民族文化財、県無民：県指定無形民族文化財、県史：県指定史跡、県名：県指定名勝、県天：県指定天然記念物

表 2-3-2(4) 遠賀川流域内文化財一覧表（県指定）

	種別	名称	所在地	指定年月日
72	県有民	英彦山楞嚴坊修験資料	添田町	H3.11.15
73	県天	英彦山のぶっぼうそう	添田町	S32.8.13
74	県天	泉蔵坊杉	添田町	S36.1.14
75	県天	諏訪神社のイチイガシ	添田町	S46.6.15
76	県天	英彦山のトチノキ(七葉樹)	添田町	S39.5.7
77	県天	英彦山の菩提樹	添田町	S39.5.7
78	県有民	輪蔵附経蔵	川崎町	S38.1.16
79	県無民	川崎の杖楽	川崎町	S51.4.24 S31.7.21
80	県天	光蓮寺の菩提樹	川崎町	S39.5.7
81	県彫	木造元晦禅師坐像	赤池町	S31.4.3
82	県書	紙本墨書興国寺文書	赤池町	S31.4.3
83	県考	銅製経筒	赤池町	S36.1.14
84	県史	伊方古墳	方城町	S46.11.16
85	県史	方城岩屋磨崖梵字曼荼羅	方城町	S52.4.9
86	県天	定禅寺の藤	方城町	S37.7.26

（凡例） 県建：県指定有形文化財(建築物)、県絵：県指定有形文化財(絵画)、県彫：県指定有形文化財(彫刻)、県工：県指定有形文化財(工芸)、県書：県指定有形文化財(書籍)、県考：県指定有形文化財(考古資料)、県有民：県指定有形民族文化財、県無民：県指定無形民族文化財、県史：県指定史跡、県名：県指定名勝、県天：県指定天然記念物



八剣神社の大イチョウ

【県指定天然記念物】

（福岡県水巻町）

水巻町の西部、遠賀川に面する場所に八剣神社があり、その境内にある。胸高周囲 10.1m、根回り 9.5m、樹高 26m のイチョウの木。根元部分は空洞になっており、枝には多数の乳根が付いている。

写真：遠賀川河川事務所



垣生羅漢百穴

【県指定史跡】

(福岡県中間市)

垣生公園にある羅漢山を中心に、あちこちに散在する横穴群を総称して、垣生羅漢百穴と呼んでいる。古墳時代後期(約1400年前)のお墓で、多くの副葬品が出土し、歴史民俗資料館に展示されている。

写真：遠賀川河川事務所



伊藤常足旧宅

【県指定史跡】

(福岡県鞍手町)

江戸時代の国学者であり歴史学者であった伊藤常足翁の天明六(1786)年11月に建てられた木造ワラ葺き平屋建ての旧宅を復元したもの。江戸時代末期の建築術をうかがうことができる。

写真：遠賀川河川事務所



風治八幡神社川渡行事(川渡り神幸祭)

【県指定無形民族文化財】

(福岡県田川市)

福岡県の五大祭りのひとつ。400 有余年の歴史をもつ風治八幡神社の祭りで、田川っ子の男の夏まつりとして有名。2台の神輿と11台の山笠が、彦山川を練り渡る姿は勇壮華麗そのもの。この祭りが終わると近隣の農家は苗代づくりが始まる。

写真：遠賀川河川事務所

2-4. 自然公園等の指定状況

遠賀川流域は、外周輪郭を形成する尾根筋周辺を中心として自然環境に恵まれており、2つの国定公園と3つの県立自然公園の指定を受けているとともに、以下のように鳥獣保護区も指定されている。

表 2-4-1 自 然 公 園 一 覧 表

種別	公 園 名	流域内 関係市町村	指定年月日	備 考
国定公園	〔耶馬日田英彦山国定公園〕	添田町	S25.7.29 S45.7.1 公園計画策定	多数の自然景観資源。
	〔北九州国定公園〕	八幡西区、直方市、赤池町	S47.10.16 公園計画策定 H8.10.2 公園計画再検討	多数の自然景観資源。
県立 自然公園	〔大宰府県立自然公園〕	飯塚市、嘉穂町、若宮町	S25.5.13 S53.3.31 公園計画策定	多数の自然景観資源。
	〔筑豊県立自然公園〕	直方市、赤池町、方城町、香春町	S25.5.13 H8.5.17 公園計画策定	多数の自然景観資源。
	〔筑後川県立自然公園〕	嘉穂町	S25.5.13 H4.5.13 公園計画策定	多数の自然景観資源。

表2-4-2 規 制 状 況 一 覧 表

規制項目	関係法令	関係市町
鳥獣保護区	鳥獣保護及び狩猟に関する法律	八幡西区、飯塚市、田川市、山田市、添田町、川崎町、遠賀町、嘉穂町、赤池町

耶馬日田英彦山国定公園 (英彦山)

耶馬日田英彦山国定公園は福岡県、熊本県及び大分県の3県3市16町2村に跨る東西40km、南北50kmに及ぶ約8500haの地域が指定されている。

特に福岡県の東南部に位置し、九州六峯に数えられる英彦山・求菩提山は修験との関わりが深く、神社、自然窟、石仏、山伏の坊の跡など往時を偲ばせる建物や遺跡が随所に見られ、貴重な自然と文化遺産に恵まれている。



写真:遠賀川河川事務所

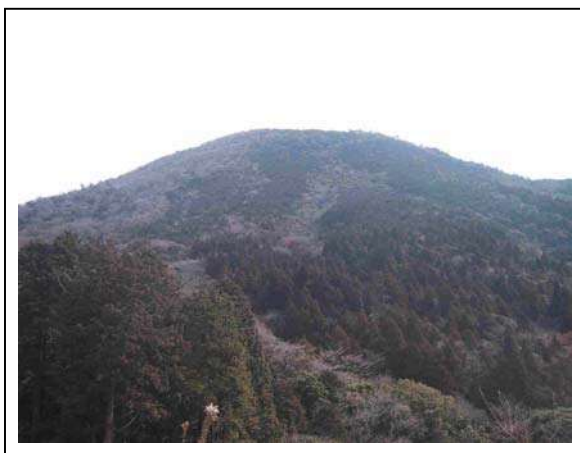


写真:遠賀川河川事務所

北九州国定公園 (福智山)

平尾台、福智山(901m)、皿倉山(626m)、風師山(362m)などの山地を区域にした公園で、その利用性に着目して設けられている。

福智山は地塁であるが、皿倉山、尺岳(613m)とともにハイキングに利用されており、麓を見おろす景観は雄大で四季を通じて楽しめる。

この地域の森林は好適な野外レクリエーションの場所を提供しており、北九州へと連なる都市環境を保全するグリーンベルトの役目も果たしている。

太宰府県立自然公園（大根地・砥石・三郡山系）

太宰府史跡を中心にした太宰府県立自然公園

背後地の大根地山（六五二メートル）、砥石山（八二六メートル）、三郡山（九三六メートル）からなる山系は、宝満山や仏頂山に隣接し、山様は多くが植林された杉・檜林であり、シイ、カシ、ナラなどのほかに三郡山頂付近にはブナやモミの巨木もあり、福岡にも近く登山者の姿が絶えることはない。

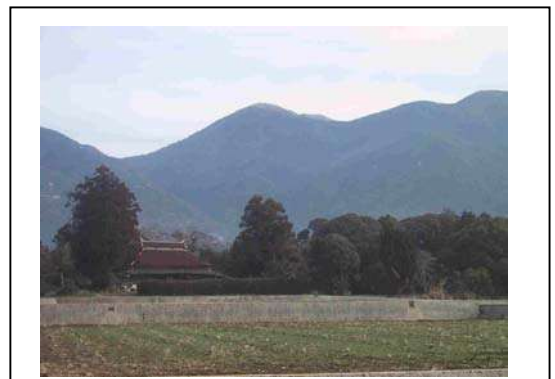


（三郡山系）

写真：遠賀川河川事務所

筑豊県立自然公園（福智・香春山系）

北九州国定公園に隣接する周辺と野生サルの生息地である香春岳及び行橋市海岸を含む地域。福智山地を経て石灰岩の奇岩峰を連ねる香春岳に至る山域は、石灰岩地に特有の好石灰植物、山地の林内や林縁の植物、草原の植物、湿生植物など、植物の宝庫である



（福智山系）

写真：遠賀川河川事務所

筑後川県立自然公園（馬見・屏・古処山系）

筑後川流域を中心に、高良山を含む耳納山系及びツゲで知られる古処山を含む地域。古処山の山頂付近は晶質石灰岩の奇石・奇岩が露出したカルスト地形で、全国でも極めて珍しいツゲの原生林（国指定天然記念物）が約三ヘクタールにわたって広がり、九州自然歩道が整備されていて山頂からの眺望は抜群によい。



（古処山系）

写真：遠賀川河川事務所

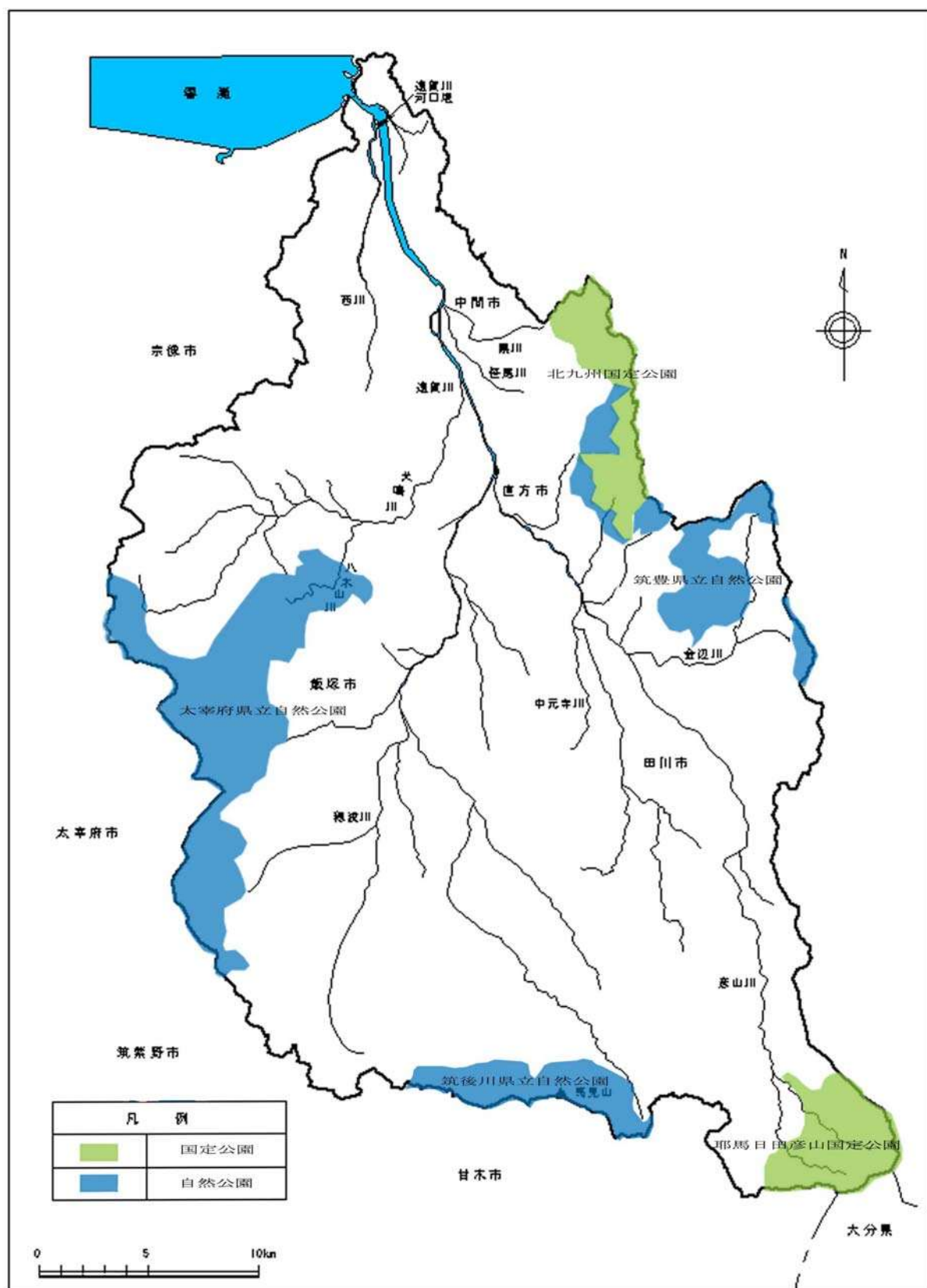


图 2-4-1 遠賀川流域内 自然公園位置図

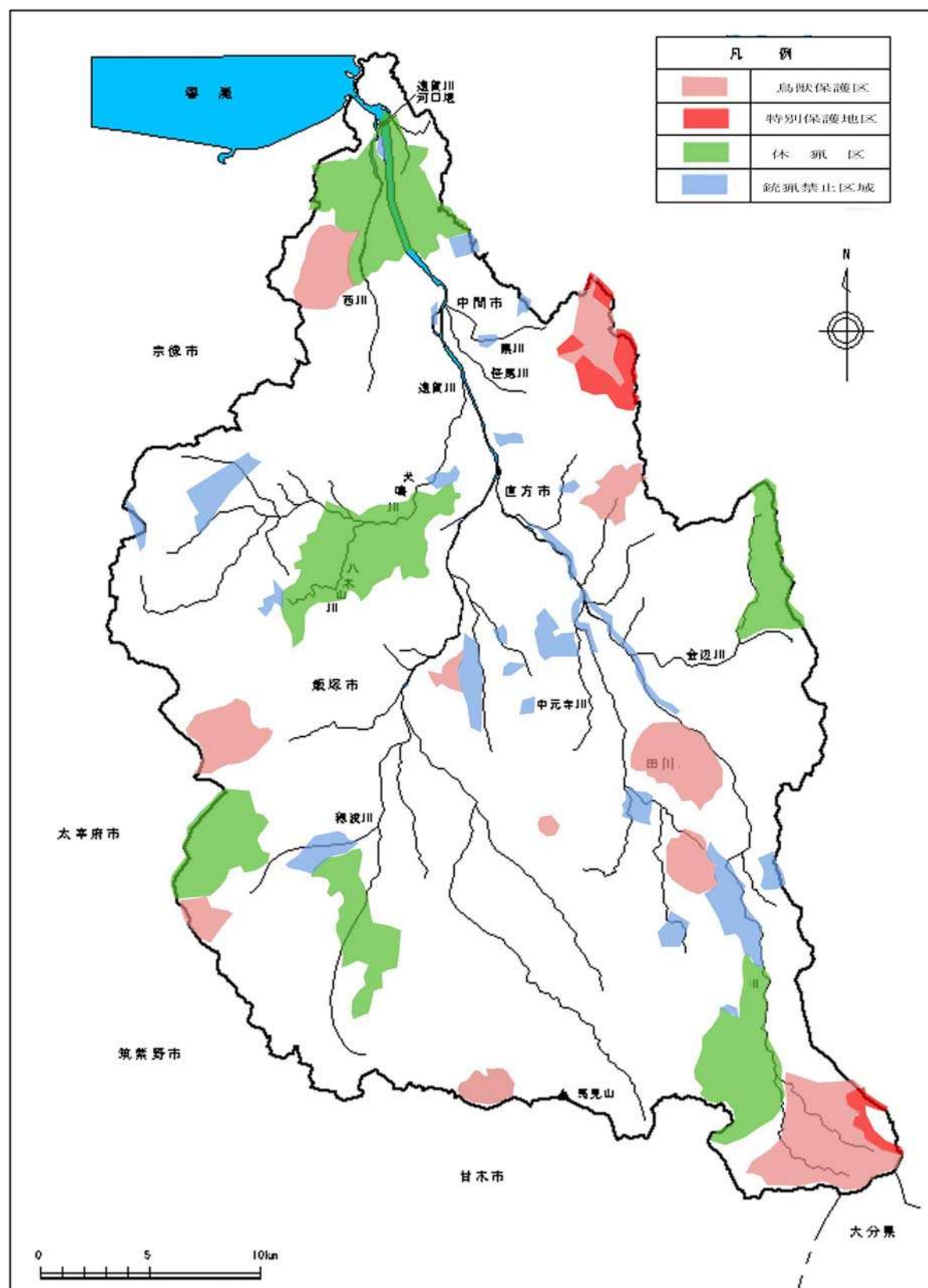


図 2-4-2 遠賀川流域内 鳥獣保護区指定区域図

3. 流域の社会状況

3-1. 土地利用の現況

(1) 土地利用の現況

流域の土地利用は、山地等が約 80%、水田や果樹園等の農地が約 14%、宅地等市街地が約 6%となっている。

遠賀川流域の土地利用の特徴をあげると、北九州市に隣接する中間市・水巻町では、北九州市のベッドタウンとして、また、福岡市の通勤圏に位置する飯塚市では、福岡市のベッドタウンとして、住宅開発が盛んに行われている。

表 3-1-1 土地利用の現況

項 目	面積(km ²)	全面積に占める割合(%)
流域面積	1026.0	—
山地等	819.4	80
水田や果樹園等の農地	149.1	14
宅地等市街地	57.5	6

(出典) 第7回 河川現況調査(平成7年度末)

表 3-1-2 (1) 飯塚市土地利用面積の推移

単位:ha

年 項目	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
山林原野	2475.8	2321.8	2190.9	1926.5	1887.8	1811.7	1735.6
耕地	1340.2	1221.8	1163.0	1121.3	1063.9	1014.8	977.7
宅地	616.0	742.1	879.2	950.3	1011.3	1066.9	1124.6
その他	15.8	25.3	24.3	21.6	4.1	1.0	1.1

出典:S45県庁ホームページ
S50～H12福岡県統計年鑑より

表 3-1-2 (2) 田川市土地利用面積の推移

単位:ha

年 項目	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
山林原野	900.6	823.6	792.0	783.0	772.8	761.8	747.4
耕地	1175.2	1078.6	1023.4	972.5	941.5	906.0	871.7
宅地	558.6	723.5	786.4	780.7	454.8	869.4	901.9
その他	25.7	22.2	20.0	18.6	9.3	6.6	5.3

出典:S45県庁ホームページ
S50～H12福岡県統計年鑑より

表 3-1-2 (3) 直方市土地利用面積の推移

単位:ha

年 項目	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
山林原野	1547.4	1484.9	1448.3	1340.8	1303.3	1243.2	1126.9
耕地	1473.7	1273.8	1201.7	1135.7	1071.8	996.4	947.9
宅地	504.9	708.7	790.2	827.1	868.7	927.6	966.6
その他	10.0	6.1	5.0	4.7	8.5	8.1	7.8

出典:S45県庁ホームページ

S50～H12福岡県統計年鑑より

表 3-1-2 (4) 中間市土地利用面積の推移

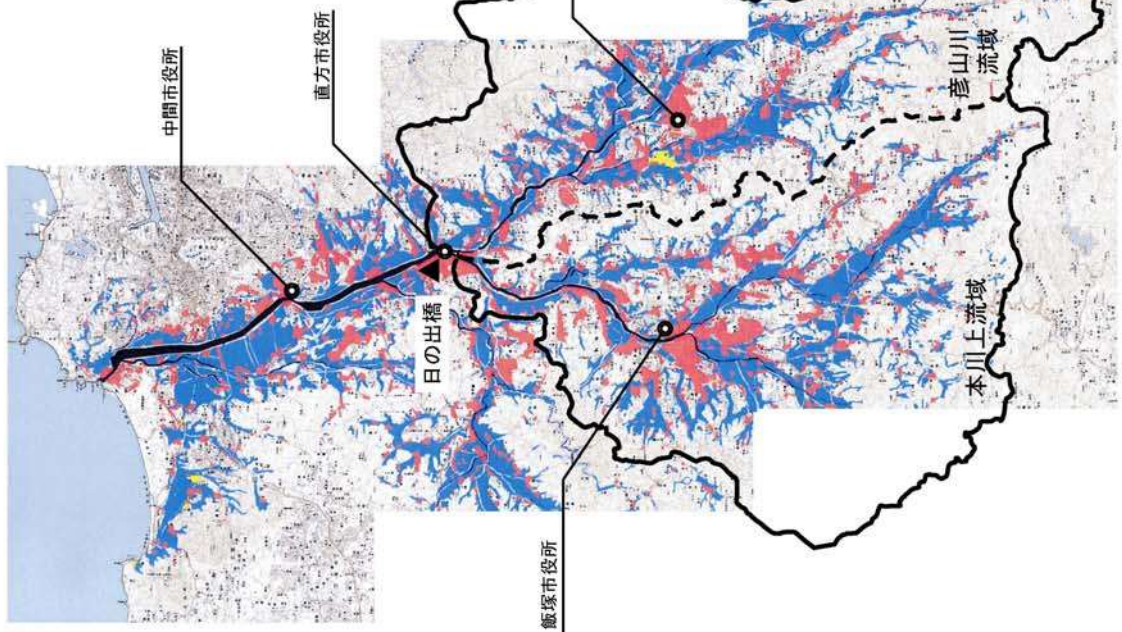
単位:ha

年 項目	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
山林原野	137.9	52.8	95.9	90.3	87.6	93.5	90.7
耕地	426.6	398.1	368.3	353.5	332.9	314.6	298.3
宅地	333.6	380.4	466.1	507.6	515.9	528.9	541.6
その他	43.1	38.2	18.4	3.9	3.5	1.6	0.7

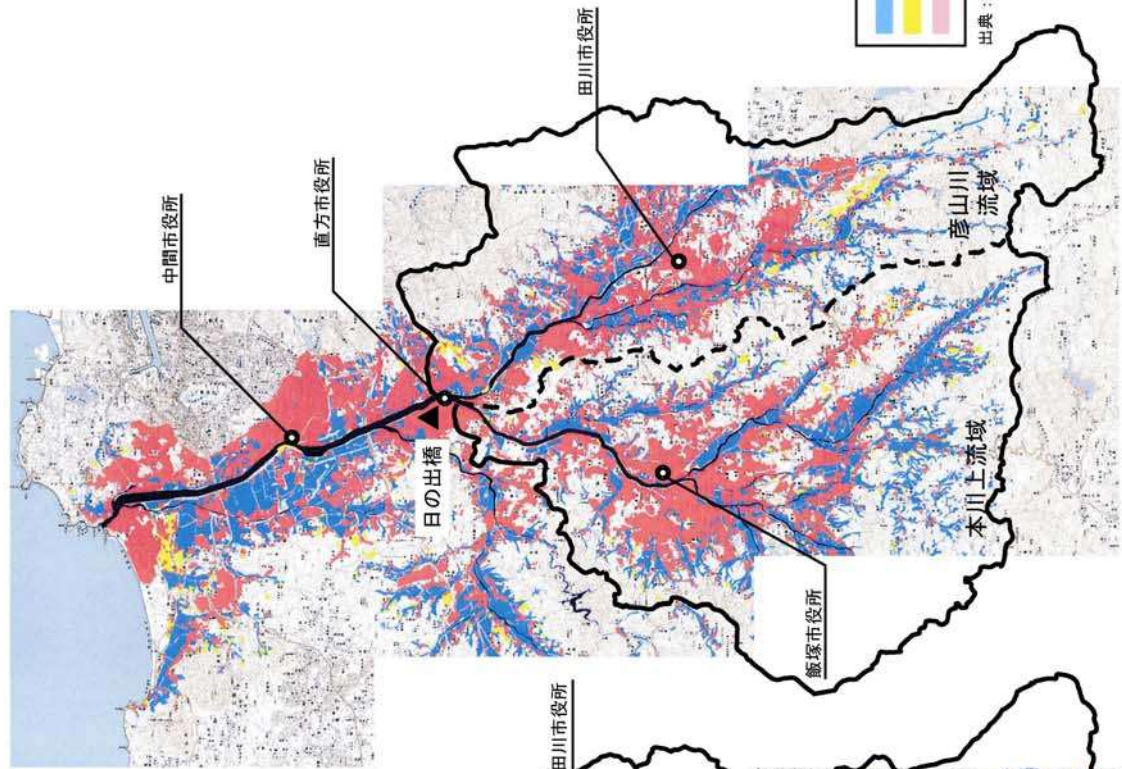
出典:S45県庁ホームページ

S50～H12福岡県統計年鑑より

＜昭和25年時点＞



＜平成13年時点＞



出典：「九州地方の古地理に関する調査」

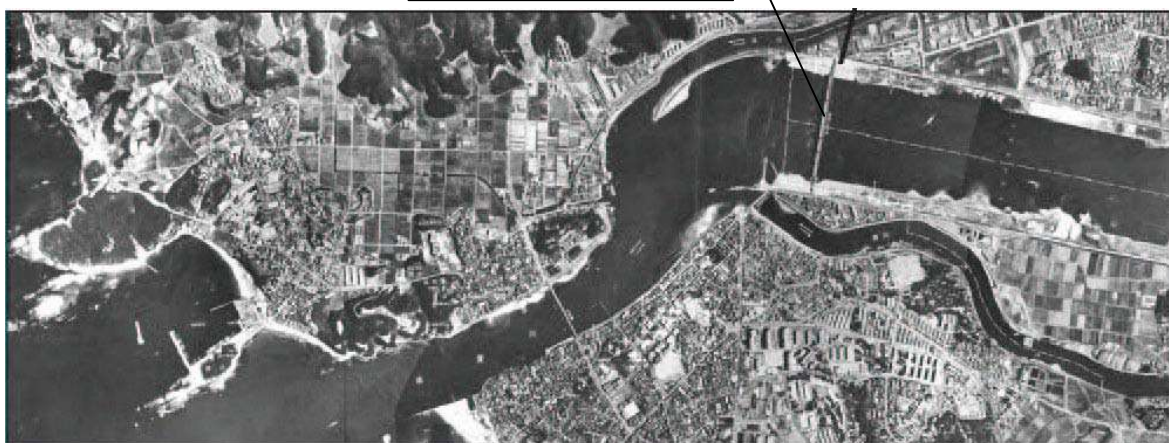
図3-1-3 遠賀川流域土地利用変遷図

昭和 45 年度



昭和 55 年度

遠賀川河口堰 (S55.3 完)



平成 10 年度

遠賀川河口堰



図 3 - 1 - 4 河口部経年変化図

3-2. 人口

遠賀川流域内の人口は、現在約 66 万 6 千人、想定氾濫区域内人口は約 21 万 2 千人となっている。（河川現況調査 調査基準年平成 7 年度末）

流域内の人口は、石炭産業の推移とともに年々減少し、平成 7 年時点では、石炭産業が盛んであった昭和 35 年に比べて約 20%の減少となっている。

近年は石炭産業に替わる新しい産業の振興と筑豊地方が人口 100 万を擁する福岡市、北九州市のベッドタウンとして位置づけられることから、人口は定着か若しくは漸増の傾向にある。

流域内の人口密度は 650 人/km²と九州の直轄 20 河川の中で第 1 位を占めている。

表 3-2-1 流域人口の推移

	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12
※1 流域内	838,349※3	684,174	—	615,184	658,391	671,694	666,530	666,406	—
※2 飯塚市	104,013	82,042	75,652	75,426	80,288	81,868	83,131	83,411	80,651
※2 田川市	95,911	74,063	64,233	61,464	60,077	59,727	57,700	56,547	54,027
※2 直方市	62,179	57,839	55,615	58,551	62,595	64,479	62,530	61,623	59,182
※2 中間市	42,045	33,487	33,438	72,766	48,647	50,294	49,216	49,353	48,032
※2 福岡県	4,006,679	3,964,611	4,027,416	4,292,963	4,553,461	4,719,259	4,811,050	4,933,393	5,015,699

出典:※1 河川現況調査
 :※2 福岡県統計年鑑
 :※3 は昭和37年の値

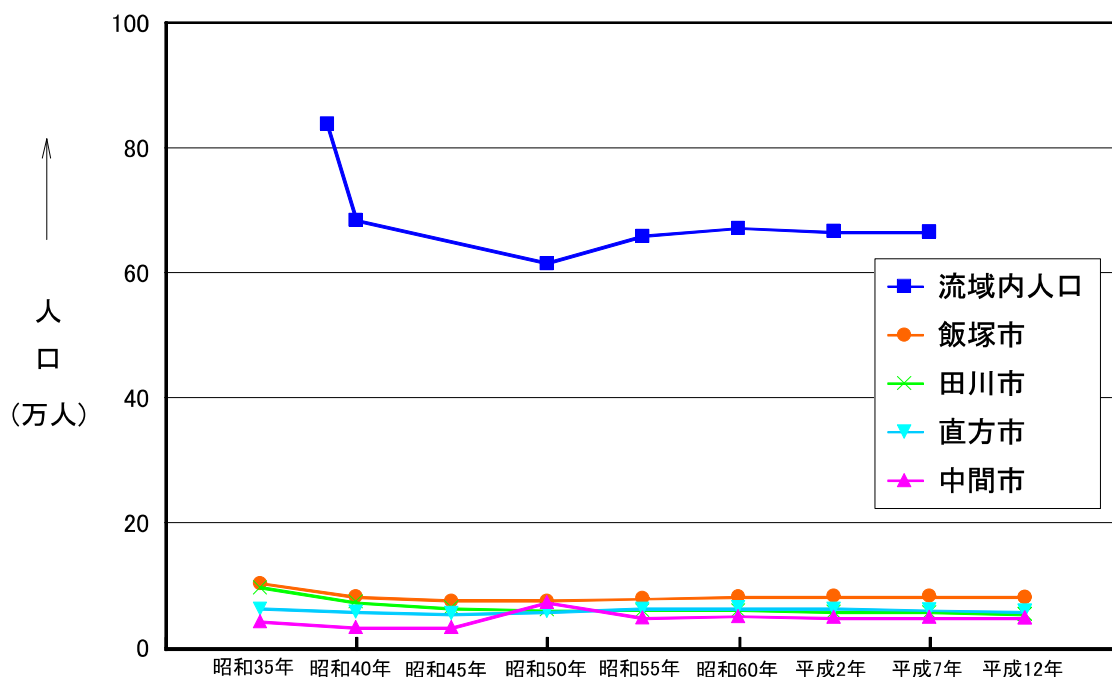


図3-2-1 遠賀川流域内と主要都市の人口推移

3-3. 産業経済

流域内の総資産額は、平成7年時点では7兆2,639億円で、その約半分は家屋資産が占めている。

表3-3-1 流域内資産額

(百万円)

家屋 資産額	家財 資産額	事業所 資産額	農漁家 資産額	合計
(57.4%)	(16.8%)	(25.3%)	(0.5%)	(100%)
4,167,944	1,223,273	1,839,701	32,954	7,263,872

出典:河川現況調査(基準年 平成7年度末)

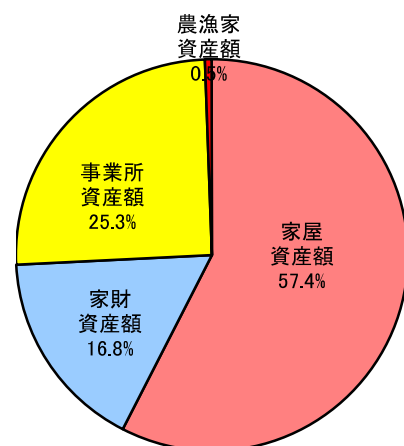


図3-3-1 流域内資産額の構成

流域内の産業は、早くから水田地帯として栄え、我国における数少ない穀倉地帯の一つとして穀類を供給してきた。また、かつて石炭を主力エネルギーとした産業構造の時代には、筑豊平野のあちこちで我国有数の炭坑が活躍し、産業発展の原動力となったことは記憶に新しいところである。

しかし、昭和40年代に始まるエネルギー革命により、石炭産業の衰退の一途をたどり今は見る影もないが、これに代わって最近では田川地区を中心とする石灰岩を資源としたセメント工業、若宮町の自動車生産工業などが発展している。

観光については、3つの国定公園と3つの県立自然公園が分布しており、なかでも彦山川上流の耶馬日田英彦山国定公園、福智山麓周辺の北九州国定公園及び犬鳴川上流の大宰府県立自然公園は河川との係わりが強く、豊かな自然環境を見せている。

さらに、彦山川上流の英彦山をはじめ、遠賀川流域にはいくつかの観光地が分布し、特に犬鳴川沿川の脇田温泉、同支川八木山川上流の力丸ダム、千石峡等は、水辺の魅力を持つ観光地として多くの人で賑わっている。

産業別就業人口では第三次産業が多く、全体の約 62%を占め、次いで第二次産業の約 34%、第一次産業の約 4%の順となっている。

図3-3-2 平成12年の産業別就業者人口
(人)

	※1 遠賀川流域内	※2 福岡県
第1次産業	10,031	86,591
第2次産業	99,147	566,654
第3次産業	179,047	1,640,590

出典:※1 河川現況調査(基準年 平成7年度末)

:※2 福岡県統計年鑑

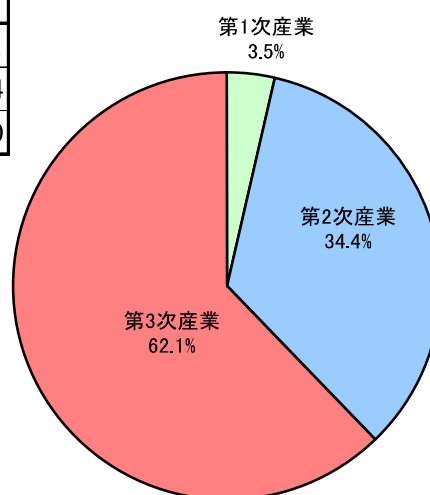


図3-3-2 産業別就業者人口の構成比

3-4. 交通

昭和 20 年代、筑豊地方に鉄道が敷設されるまでは、遠賀川は石炭運送のルートとして船が上下していたが、その後は鉄道が発達し、道路が整備されて陸運時代となった。

当該流域における鉄道機関としては、北九州から福岡、熊本、鹿児島へ至る JR 鹿児島本線や山陽新幹線が流域下流部を東西に縦断し、福岡から飯塚、直方を経て北九州へ至る JR 筑豊本線が流域内を南北に縦断し、飯塚からは後藤寺、田川に至る JR 後藤寺線を分岐している。

また、北九州から田川を経て日田へ至る JR 日田彦山線が彦山流域を南北に縦断している。

いずれも九州地方の幹線鉄道として、物資輸送に大きな役割を果たしている。

この他、私鉄として、直方市と北九州（黒崎）とを結ぶ筑豊電鉄、直方市から田川を経て行橋へ至る平成筑豊鉄道があり、北九州都市圏と遠賀川流域との人流に大きく貢献している。

一方、道路については、九州の大動脈である九州自動車道が流域下流部を東西に縦貫し、八幡インターチェンジでは、流域内の主要幹線道路及び北九州都市高速と接続しており、道路交通の拠点となっている。

さらに、流域内には、下流部の国道 3 号、495 号、199 号、北九州と直方、飯塚を結ぶ国道 200 号を始め、7 本の国道が走り、その国道から分岐して主要地方道や一般県道、市町村道が整備されており、地域の発展に重要な役割を果たしている。

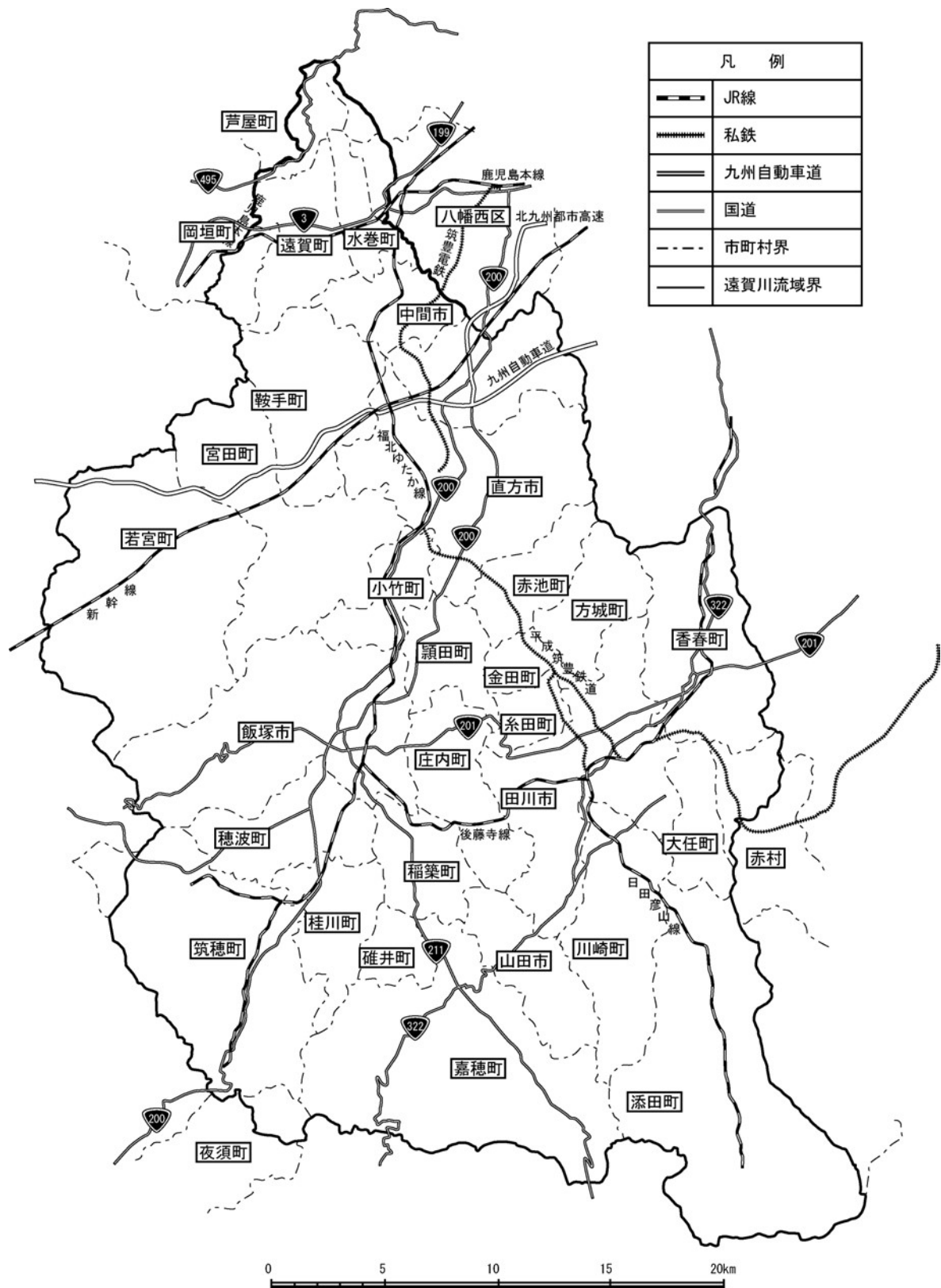


図3-4-1 遠賀川流域内 交通体系図

3-5. 将来構想

当該流域は、福岡県北部に位置しており、福岡県における遠賀川水系と関連する事業として、以下のような将来構想が持たれている。

ふくおか新世紀計画

現在、少子化、高齢化の進行、国際化や情報化の進展、経済の成熟化、環境への意識の高まりなどを背景に、大きな転換期を迎えている。このようななか、県境を越え、国境を越え、未来に飛躍する豊かで明るい福岡県をつくるため、「ふくおか新世紀計画」では、新しい県づくりに向けた県政運営の方向を示している。

この中で、遠賀川水系に関わる重点プロジェクトとして以下の2項目があげられる。

1. 県土整備構想

- (1) 福北豊・トライアングル構想
- (2) 筑後田園都市圏構想
福岡・筑後活力コリドー（回廊）構想
- (3) 多自然文化ベルト構想

2. 快適生活圏整備構想

- (1) 糸島ゾーン
- (2) 筑紫・朝倉ゾーン
- (3) 宗像・粕屋ゾーン
- (4) 遠賀流域ゾーン
- (5) 田川・京築ゾーン
- (6) 筑後北部ゾーン
- (7) 筑後南部ゾーン
- (8) 福岡市
- (9) 北九州市

4. 水害と治水事業の沿革

4-1. 既往洪水の概要

(1) 遠賀川の洪水の原因

遠賀川流域の年間降水量は約 2,100mm であり、洪水は 6 月～7 月上旬にかけての梅雨前線によるものが多く、大規模な洪水はほとんど梅雨期に発生している。

なお、降雨は長時間降り続くものもあれば短時間に終わるものもありまちまちであるが、近年の洪水については局地的集中豪雨により発生しているものが多く、平成 13 年 6 月、平成 15 年 7 月の洪水では、基準地点日の出橋観測所他数観測所で観測史上最高水位を相次いで記録・更新し、甚大な被害が頻発している。

(2) 洪水の歴史

遠賀川で明治以前の史実に残る一番古い洪水は元和 6 年（1620 年）「遠賀川洪水（水巻町誌）」とある。さらに、元和 6 年（1620 年）から明治 22 年（1889 年）に至る 270 年間に約 70 回の洪水記録がある。明治以降についても度々洪水が発生し、特に明治 22 年 7 月の洪水は福岡県議会史（上巻）水害報告に「遠賀川は流域甚だ延長ならざるも、平時水勢急なるに因り、また非常の激昂をなし其の災害筑後川に次ぐ」と記されており、その規模の大きさは想像に絶するものである。明治 38 年 7 月、昭和 10 年 6 月、昭和 16 年 6 月の大洪水を経て、昭和 28 年 6 月には、古今未曾有と称される程の大洪水が発生し、流域内の死傷者 231 人（死者 20 人）、浸水戸数 38,791 戸に達する悲惨な大災害であった。

その後、昭和 54 年 6 月、昭和 55 年 8 月、平成 13 年 6 月洪水等を経て、基準地点日の出橋で既往最高水位を記録した平成 15 年 7 月洪水が発生した。

(3) 主要洪水の概要

1) 昭和 28 年 6 月洪水

25 日より九州全般に降り出した雨は、梅雨前線の北上とともに発達して、25 日午後より九州中部、北部に強くなってきた。その後、前線は停滞し、25 日夕刻より豪雨があり、26 日 9 時、直方では 201mm に達した。

さらに 25 日夜半より 26 日にかけて 2 時間雨量 80mm を記録し、遠賀川は急激に水位が上昇した。27 日 9 時には降り止んだが、28 日 5 時頃また降り始め、連続雨量 571.2mm を記録した。

日の出橋では、26 日 10 時頃最高水位 5.33m を記録し、その後、植木堤防が決壊した。決壊後、水位はいったん急速に下降したが、降雨とともに再び上昇し始め、28 日 21 時頃 5.40m に達した。植木堤防の決壊がなければ、もっと高い水位を記録したものと推定される。

川島、中間でもそれぞれ 5.30m、4.44m と高い水位を記録した。

植木堤防は 26 日 10 時 50 分に決壊を始め、11 時 30 分頃には 30m、最終的には破堤延長 180m に達した。

この破堤によって遠賀郡中間町、遠賀村の平坦地は一面泥海となり、その惨状は目を覆うばかりであった。彦山川、中元寺川、犬鳴川、笹尾川においても、計 8 ヶ所が決壊している。

○ 被害状況

死 傷 者	231 人	(内死者 20 人)
浸 水 戸 数	38,791 戸	
被 害 田 畑	14,377 町歩	(内流失、埋没 126 町歩)
土 木 施 設 被 害 額	826,362 千円	(36 年換算 11 億 9 千万円)
鉄 道 被 害 額	23,568 千円	(36 年換算 3 千万円)
鉱 業 被 害 額	790,546 千円	(36 年換算 11 億 4 千万円)
商 工 業 被 害 額	386,621 千円	(36 年換算 5 億 6 千万円)
そ の 他 被 害 額	2,448,115 千円	(36 年換算 35 億 3 千万円)
被 害 総 額	4,488,881 千円	(36 年換算 64 億 5 千万円)

泥海の遠賀平野

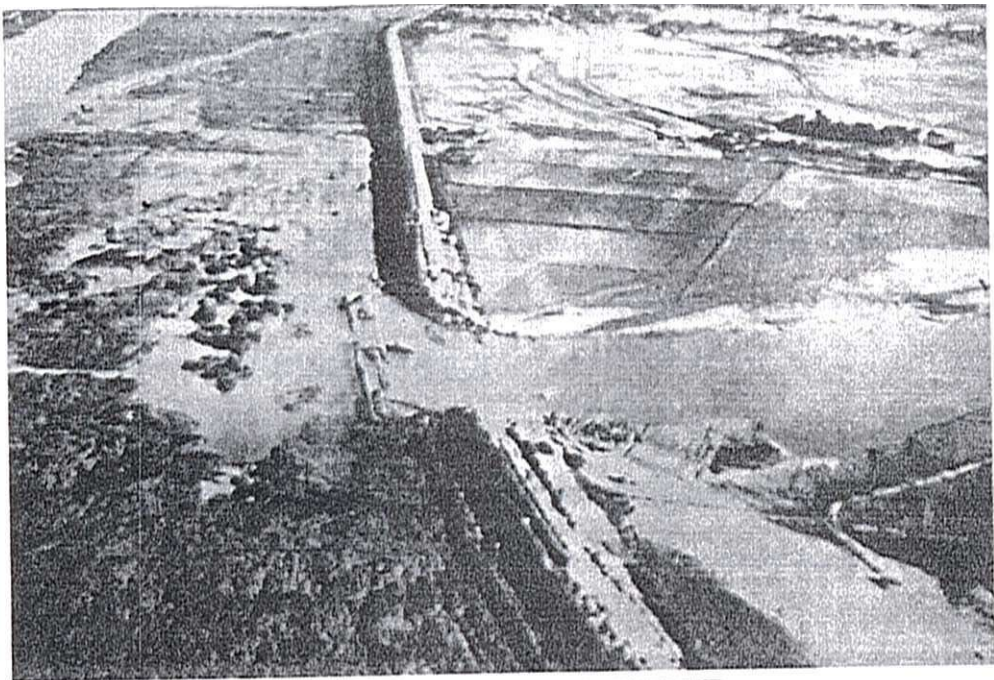
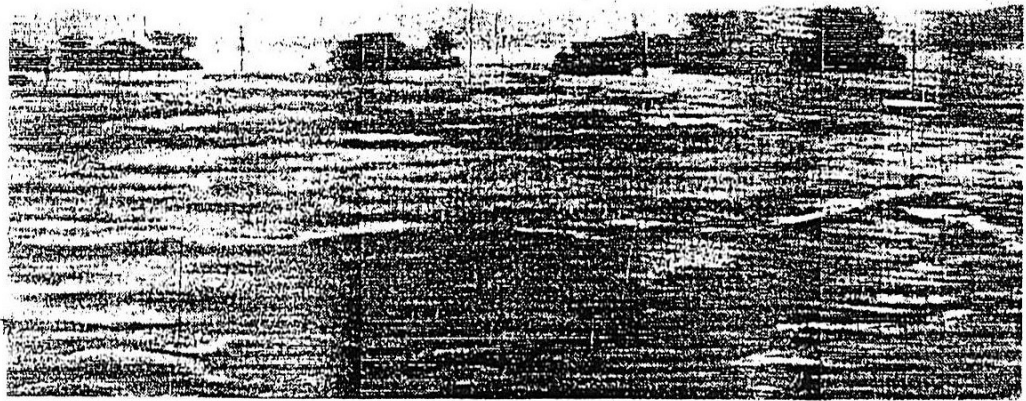
ヘリコプターも活動



福岡県東部の遠賀郡に広がる遠賀平野は、かつては豊かな農地であったが、昭和28年6月の大雨により、大規模な水害に見舞われた。平野の大部分が水に浸され、農作物は全滅した。被害は遠賀郡の中心地である大川町を中心に、周辺の町村にも広がった。水害により、多くの住民が避難を余儀なくされた。政府と県は、緊急事態を宣言し、ヘリコプターを投入して、被災者の救助と物資の輸送に努めている。また、被災地の復旧作業も進められている。遠賀平野の水害は、福岡県史上最大規模の水害の一つと見られている。

遠賀平野の水害は、福岡県史上最大規模の水害の一つと見られている。被害は遠賀郡の中心地である大川町を中心に、周辺の町村にも広がった。水害により、多くの住民が避難を余儀なくされた。政府と県は、緊急事態を宣言し、ヘリコプターを投入して、被災者の救助と物資の輸送に努めている。また、被災地の復旧作業も進められている。

決壊した遠賀川



2) 昭和 54 年 6 月洪水

朝鮮半島にあった梅雨前線が低気圧の刺激を受け、九州北部に南下し雨を降らせた。九州南部まで南下した梅雨前線は再び北上して九州北部に停滞し、前線上を低気圧が通過したため活発化し、強い雨を降らせた。採銅所観測所では時間雨量 57.0mm、日雨量 261.0mm、総雨量 731.0mm を記録した。

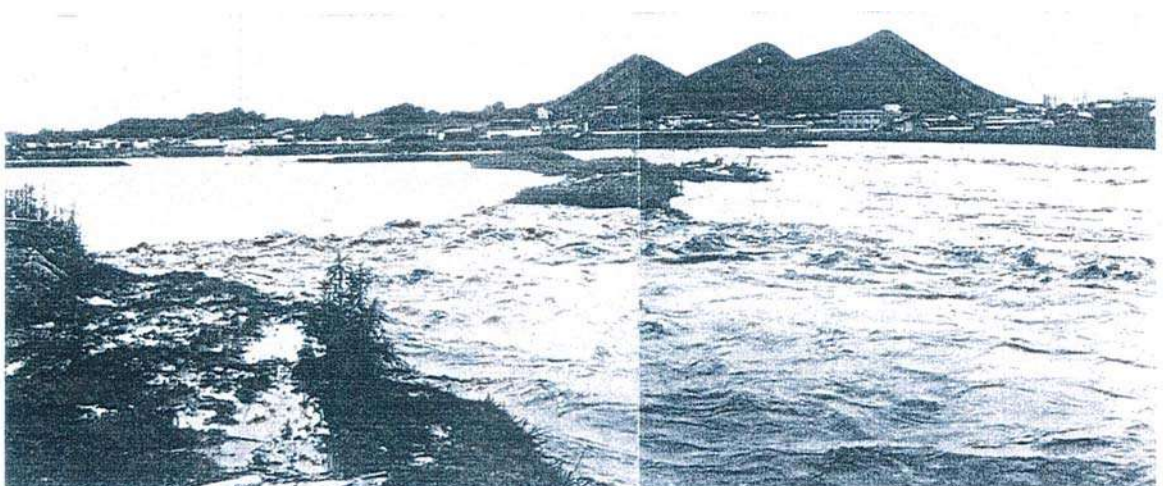
各観測所とも警戒水位を突破した。特に遠賀川本川筋の観測所では警戒水位を 1.00m 以上越えており、日の出橋では 7.40m、中間は 5.33m の最高水位を記録した。

遠賀川流域で死者 1 人、負傷者 8 人、家屋の全壊 7 戸、半壊 94 戸、床上浸水 1,901 戸、床下浸水 4,262 戸、田畑の冠水 4,138ha の被害が発生した。

金辺川右岸（田川市五徳地区）が 95m 破堤した他、遠賀川本川右岸 10k188～10k325 付近で漏水が発生する等、各地で被害が発生した。



川端川湛水区域



金辺川左岸堤防（香春町）

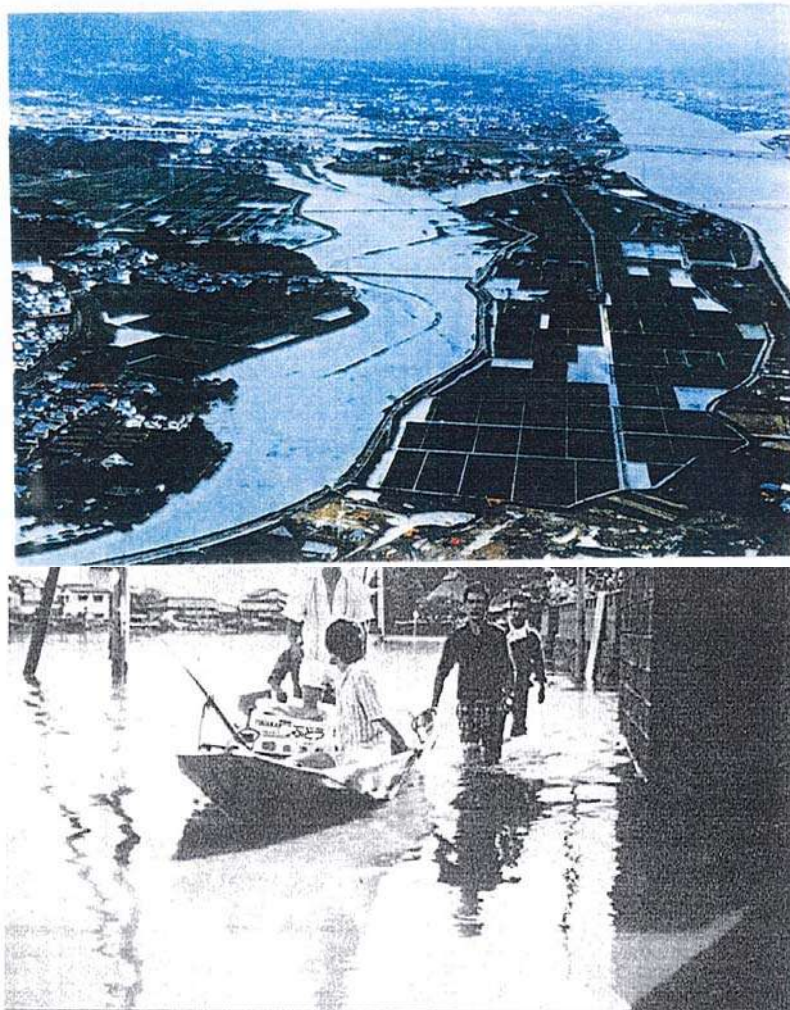
3) 昭和 55 年 8 月洪水

梅雨前線が九州北部地方に停滞し、28 日夜半から活動を活発化させたため各地に強い雨が降った。桑野観測所では時間雨量 56.0mm、日雨量 195.0mm、総雨量 469.0mm を記録した。

川島で警戒水位を突破したのをはじめ、各地で警戒水位を突破した。この出水で唐熊 7.06m、伊田 4.63m、赤池 5.85m の既往最高水位を記録した。

遠賀川流域での被害は、死者 4 人、負傷者 2 人、家屋の全壊 15 戸、半壊 4 戸、床上浸水 331 戸、床下浸水 1,916 戸、田畑の冠水 662ha に及んだ。

犬鳴川右岸 8k000～8k170 附近で 200m ほど表法が崩壊した他、堤防の欠損が 177 ヶ所に及んだ。



4) 昭和 60 年 6 月洪水

対馬海峡の梅雨前線がゆっくりと南下し、九州北部沿岸に停滞して各地で大雨を降らせた。その後、九州中部まで南下した梅雨前線は再び北上し、大雨を降らせ、大隈観測所では時間雨量 53.0mm、日雨量 194.0mm、総雨量 475.0mm を記録した。

川島では警戒水位を突破（最高水位 4.65m）したのをはじめ、各観測所とも次々と警戒水位を突破した。降雨の小康状態に伴い全観測所で警戒水位を一旦下回ったが、28 日 1 時～5 時にかけて再度警戒水位を突破した。

25 日～26 日での被害は死者 1 人、負傷者 1 人、家屋の全壊 3 戸、半壊 39 戸、床上浸水 83 戸、床下浸水 578 戸、田畑の冠水 1,143ha に及んだ。

5) 平成 3 年 6 月洪水

対馬海峡に停滞した梅雨前線により九州北部に大雨を降らせ、流域内の雨量は、時間雨量 20～60mm、総雨量 70～200mm を記録した。

この雨により、本川の日の出橋（最高水位 6.55m）と川島（最高水位 4.63m）で警戒水位を上回った。

直方市では家屋の床上浸水 6 戸、床下浸水 40 戸、道路損壊 7 ヶ所、山（崖）崩れ 1 ヶ所の被害が発生した。

6)平成 7 年 7 月洪水

梅雨前線は対馬海峡附近まで北上し活動が活発になり、前線上を低気圧が通過した頃、一時激しい雨となった。

遠賀川流域では、2 日昼頃から強い雨が降り、時間雨量 34～69mm、総雨量 273～379mm を記録した。

このため、本川の日の出橋（最高水位 6.90m）、勘六橋（最高水位 5.91m）、彦山川の中島（最高水位 5.99m）他で警戒水位を上回った。

この洪水により、遠賀川流域では床上浸水 40 戸、床下浸水 369 戸、田畑の冠水 1,389.4ha の被害が発生した。

7)平成 11 年 6 月洪水

6 月 29 日早朝、梅雨前線は九州北部まで北上し活動を活発化させ、九州北部に局地的な大雨をもたらした。

遠賀川流域では、宮田観測所で時間雨量 92mm、山口観測所で 66mm、直方観測所で 70mm など、主に本川中流と犬鳴川において局地的大雨となった。

このため、犬鳴川の宮田橋では最高水位が 6.35m となり既往最高水位を記録した。

この洪水により、遠賀川流域では床上浸水 232 戸、床下浸水 930 戸、農地冠水 752ha の被害が発生した。

8)平成 13 年 6 月洪水

18 日午後、朝鮮半島南部に停滞していた梅雨前線に向かって、南海上から暖かく湿った空気（暖湿気）が流れ込み、大気が不安定となった。

19 日早朝には、さらに暖湿気の流入が強まり、遠賀川流域では夕方から夜にかけて局地的な激しい雨が降った。

彦山川上流の添田では、19 日 23 時までの 6 時間に 221mm の大雨となったのをはじめ、アメダス観測所 18 ヶ所中 10 ヶ所で 19 日の日雨量が 200mm を超えるものとなった。

このため、計 11 箇所の水位観測所で警戒水位を突破し、日の出橋においては危険水位を突破し、最高水位 7.84m を記録した。

これは、戦後最大の昭和 28 年 6 月洪水を上回り、計画高水位まであと 60cm とせまるものであった。

この洪水により、遠賀川流域では床上浸水 87 戸、床下浸水 151 戸の被害が発生した。



遠賀川基準地点日の出橋
ピーク水位状況（20 日午後 2 時）



飯塚市新立岩地区浸水状況

9)平成 15 年 7 月洪水

18 日午後、対馬海峡附近に停滞していた梅雨前線に向って南から湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。

その後も東シナ海で発達した雨雲が次々と北部九州に流れ込み、雷を伴った激しい雨が降り、筑豊地方でも、19 日 3 時に飯塚で 1937 年の気象観測開始以来第 1 位となる 1 時間に 80mm の猛烈な雨を記録した。

今回の雨の特徴は、福岡県太宰府市から北九州小倉南区へかけての帯状の範囲のみに雨雲が流れ込み、筑豊地方では飯塚観測所（気象庁）において、およそ 7 月の 1 ヶ月間の雨量が 6 時間で降った点があげられる。

これにより、遠賀川の支川穂波川の秋松橋において 19 日 6 時にピーク水位 6.84m（既往最高水位）となり、計画高水位を約 40cm 上回った。

また、代表観測所である川島において 19 日 6 時 50 分にピーク水位 5.92m、日の出橋において 19 日 8 時 20 分にピーク水位 8.07m となり、いずれも、平成 13 年 6 月 19 日～20 日出水時に記録した既往水位を遥かに超えた。

この洪水により福岡県全域で以下の被害が発生した。

この洪水により、遠賀川流域では負傷者 2 名、家屋全壊 7 戸、家屋半壊 9 戸、床上浸水 1,957 戸、床下浸水 1,778 戸の被害が発生した。



飯塚市吉原地区浸水状況

4-2. 治水事業の沿革

(1) 明治 38 年以前の治水事業

遠賀川の体系的治水事業は、慶長 5 年(1600 年)黒田長政の筑前入国に始まり、以来、小竹町南良津より河口までの浚渫や築堤、遠賀川と洞海湾を結ぶ放水路(堀川)の掘削が行われた。

放水路(堀川)の開削は約 200 年に及ぶ歳月を費やして文化元年(1804 年)に完成し、明治以降は富国強兵、殖産興業のもとで石炭運搬路として重要な役割を果たしてきた。

(2) 明治 39 年～大正 8 年の治水事業

第 1 期改修工事

明治に入ると石炭産業の発展とそれに伴う鉄道の開通によって洪水被害は甚大なものとなり、頻発する水害から石炭産業を保護する機運が盛り上がってきた。

このような状況の中、明治 38 年 7 月の大洪水を契機とし、国直轄事業として第 1 期改修工事に着手した。

この第 1 期改修工事は、計画高水流量を本川の下流部(中島橋)で $4,140\text{m}^3/\text{s}$ として堤防の補強、流心の整正、その他舟運の便を図ることを主目的として実施され、14 年後の大正 8 年に竣工した。

その後は、福岡県が維持管理にあたった。

(3) 昭和 20 年～昭和 48 年の治水事業

第 2 期改修工事他

昭和年代になると石炭産業がもたらした鉱害(地盤沈下)が次第に遠賀川にも現れるようになり、河川の荒廃が目立ってきた。このような状況で発生した昭和 16 年 6 月の豪雨は流域の家屋、高知、炭鉱等に激甚な被害を与えた。

終戦後、国土復興、民生の安定が叫ばれ、昭和 20 年、遠賀川は再び直轄改修河川として第 2 期改修工事が開始された。当初は第 1 期改修工事竣工箇所の補修が主であったが、鉱害による遠賀川の激しい荒廃は補修程度では及びもつかず、昭和 23 年度に至って本格的な改修工事が進められるようになった。

昭和 24 年度に基準地点日の出橋の計画高水流量を $3,700\text{m}^3/\text{s}$ 、河口の計画高水流量を $4,200\text{m}^3/\text{s}$ とする計画が決定され、鉱害によって沈下した堤防の嵩上げ、狭窄部の拡幅などを主な目的として改修工事が実施された。

その後昭和 28 年 6 月洪水によって遠賀川は破堤し、甚大な被害を受け、これを契機に昭和 28 年度以降総体計画が決定された。更に昭和 33 年度に修正総体計画、昭和 38 年度総体計画が決定されたが、計画高水流量は昭和 24 年度の計画時の流量がそのまま踏襲された。

(4)昭和 49 年以降の治水事業 工事実施基本計画策定

昭和 40 年の新河川法施行に伴い、昭和 41 年には従来の計画を踏襲する工事実施基本計画を策定した。しかしながら、都市化の進展と、流域の開発及びこの地域特有の鉾害復旧による堤内地の整備等に伴う流出量の増加が無視できないものとなり、昭和 49 年に計画規模を年超過確率 1/150 として、基本地点日の出橋における計画高水流量を $4,800\text{m}^3/\text{s}$ 、河口部芦屋橋において $6,000\text{m}^3/\text{s}$ とする工事実施基本計画に改訂し、飯塚市、直方市、田川市等の主要地区及び筑豊平野の穀倉地帯を洪水から防御することを最大の課題として、堤防の築造・拡幅及び河道掘削、並びに花の木堰、岡森堰、高柳堰等の改築、さらに曲川、藤野川、鯉田、学頭、川端等のポンプ場の新設工事を実施した。

その後、昭和 63 年 3 月に計画横断形、堤防高に関する部分改定を行い現在に至っている。

遠賀川 計画高水流量図(工実本文記載)

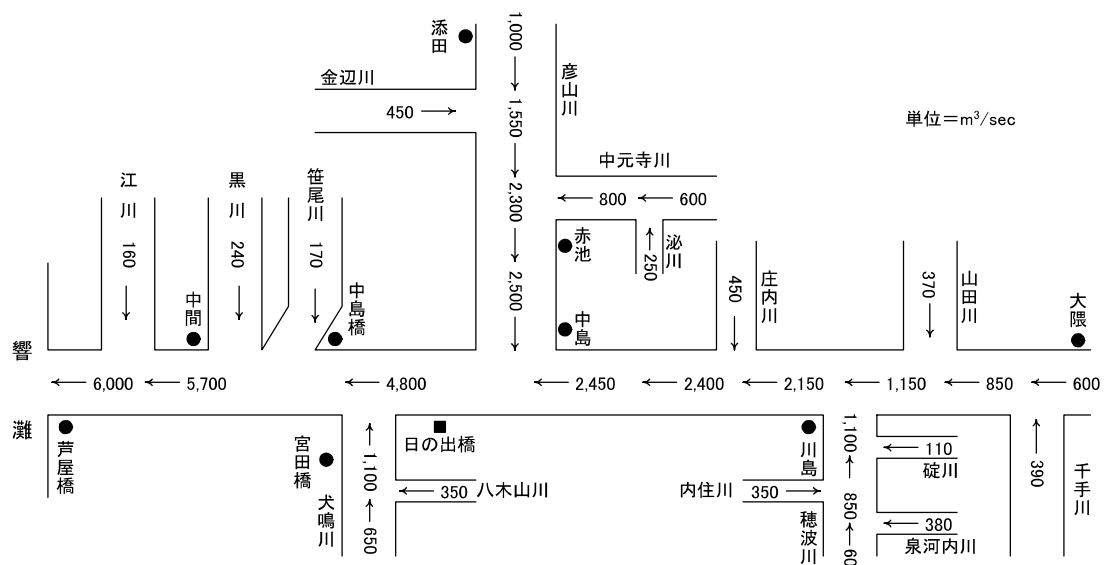


図 4-2 遠賀川現計画高水流量配分図

5. 水利用の現状

遠賀川における水利権を把握すると、表1－1に示すとおりである。

遠賀川の水利用の特徴は、本川、支川とも多くの井堰が設置され、農業用水の占める割合が大きいことがあげられる。流域の水利権に関わるかんがい区域は、本川、支川で約 10,200ha となっている。

このうち、日の出橋下流においては、表1－2に示すとおり農業用水として 4.4873m³/s、工業用水として 6.1512m³/s、水道用水として 5.6289m³/s の利用となっている。

表 1－1 遠賀川における水利権量

種 別			件数	水利権量計 (m ³ /s)	備 考
直轄 管理 区間内	農業用水	許可	70	13.81	
		慣行	24	5.07	
	工業用水		9	6.40	
	上水道用水		32	7.50	
	発電用水		0	0.00	
	雑用水		0	0.00	
	合 計		135	32.78	
水系内	農業用水	許可	72	15.93	
		慣行	24	5.07	
	工業用水		15	7.41	
	上水道用水		43	9.12	
	発電用水		1	0.30	
	雑用水		0	0.00	
	合 計		155	37.97	

表 1－2 日の出橋より下流の利水状況

種 別	取水量(m ³ /s)	備 考
農業用水	4.4873	
工業用水	6.1512	
水道用水	5.6289	
計	16.2674	

6. 河川の流況と水質

6-1. 河川流況

日の出橋地点における昭和 26 年から平成 14 年までの過去 52 年間の流況は、表 6-1 に示すとおり、平均渇水流量 $6.4\text{m}^3/\text{s}$ 、平均低水流量 $10.9\text{m}^3/\text{s}$ である。

表 6-1 日の出橋地点流況表(通年)

[CA=695.0km²]

年	日最大 (m ³ /s)	豊 水 (m ³ /s)	平 水 (m ³ /s)	低 水 (m ³ /s)	渇 水 (m ³ /s)	日最小 (m ³ /s)	年平均 (m ³ /s)	年総流出量 (×10 ⁶ m ³)	備 考
S26	1,284.30	25.30	16.60	13.20	9.50	6.90	44.01	1,387.89	
S27	416.20	16.30	12.60	10.70	7.60	6.40	21.61	683.30	
S28	2,143.90	23.35	15.60	11.25	8.50	8.50	59.97	1,891.31	
S29	2,279.22	35.29	22.11	13.65	6.95	5.29	57.98	1,828.57	
S30	1,330.00	25.20	15.60	10.20	4.50	3.49	36.27	1,143.69	
S31	388.00	41.60	26.70	16.10	9.90	6.53	41.98	1,327.45	
S32	1,040.00	28.10	13.30	6.82	3.19	2.36	37.15	1,171.64	
S33	188.00	20.70	12.40	6.97	1.59	0.83	18.73	590.68	
S34	592.00	23.80	16.80	8.80	2.92	2.39	29.59	933.29	
S35	399.40	19.10	12.60	9.90	1.30	0.40	20.08	634.95	
S36	278.90	23.80	15.70	10.80	4.10	1.10	20.28	639.49	
S37	625.50	26.90	16.70	9.60	2.00	0.80	27.94	881.20	
S38	748.00	33.80	23.00	16.10	10.70	6.90	37.17	1,172.15	
S39	335.80	21.00	14.40	10.10	3.70	1.60	21.38	676.22	
S40	539.20	28.80	16.40	9.40	5.00	4.60	32.02	1,009.65	
S41	2,064.96	23.98	15.86	11.19	5.26	3.96	40.76	1,285.41	
S42	389.40	20.44	11.09	7.83	3.20	1.35	18.82	593.48	
S43	606.53	19.77	12.83	8.66	3.89	1.66	22.60	714.76	
S44	549.08	22.15	16.00	10.25	6.58	2.83	27.61	870.59	
S45	270.21	28.48	14.68	9.18	6.84	6.11	25.12	792.05	
S46	810.31	28.89	13.91	10.06	6.46	4.14	28.78	907.45	
S47	1,171.69	46.03	27.26	20.83	15.57	10.73	57.72	1,825.37	
S48	558.04	26.24	15.76	13.45	6.26	3.28	28.64	903.23	
S49	285.82	17.22	11.95	10.26	5.70	3.06	18.53	584.42	
S50	292.01	20.76	14.89	11.38	7.51	4.30	20.99	662.07	
S51	492.67	36.90	23.92	17.43	7.87	6.98	37.33	1,180.52	
S52	298.58	30.10	17.01	11.96	10.07	9.52	29.30	923.92	
S53	302.61	13.96	11.17	8.35	3.75	2.32	14.21	447.97	
S54	1,267.94	25.96	18.12	13.87	6.90	2.72	34.68	1,093.70	
S55	1,379.98	51.67	24.32	17.56	10.28	7.08	64.62	2,043.56	
S56	503.01	27.66	19.26	15.47	8.45	5.08	33.80	1,066.00	
S57	629.42	26.73	17.99	12.19	4.55	2.81	32.56	1,026.91	
S58	1,024.35	37.90	23.50	12.90	8.81	4.86	39.51	1,245.99	
S59	272.50	19.03	12.00	9.33	6.53	5.48	22.67	716.99	
S60	1,246.95	37.55	21.86	14.73	8.04	7.15	44.06	1,389.58	
S61	805.96	24.66	14.54	10.82	8.10	7.49	32.38	1,021.27	
S62	690.98	33.89	22.01	14.75	10.32	9.36	37.87	1,194.33	
S63	830.31	27.87	17.32	9.85	7.64	7.08	31.68	1,001.78	
H 1	445.26	24.99	14.45	9.48	6.95	5.66	25.74	811.87	
H 2	843.59	21.22	14.87	10.34	6.79	5.20	25.59	807.08	
H 3	898.27	40.05	21.98	12.83	6.99	5.95	43.03	1,357.14	
H 4	280.59	23.56	14.99	9.83	7.54	5.92	24.53	775.63	
H 5	760.03	37.38	19.15	10.44	5.76	2.65	42.40	1,337.21	
H 6	168.66	13.56	9.25	3.94	1.50	1.16	12.37	390.15	
H 7	1,244.36	14.95	8.82	5.94	3.62	3.07	25.70	810.45	
H 8	713.01	15.76	9.68	7.00	4.45	3.13	20.99	663.75	
H 9	685.52	28.87	15.75	9.52	6.26	5.39	41.39	1,305.34	
H10	534.89	30.44	18.03	9.65	6.47	5.54	32.35	1,020.29	
H11	701.13	28.15	11.24	7.13	4.47	3.77	30.32	956.13	
H12	432.08	16.64	10.61	7.82	6.04	5.21	18.37	580.91	
H13	948.99	24.57	14.21	10.85	7.73	5.46	30.59	964.72	
H14	393.10	14.36	10.07	8.21	6.19	3.40	16.99	535.77	
最 大	2,279.22	51.67	27.26	20.83	15.57	10.73	64.62	2,043.56	
最 小	168.66	13.56	8.82	3.94	1.30	0.40	12.37	390.15	
平 均	738.10	26.45	16.17	10.94	6.36	4.60	31.55	995.76	
W=1/10	—	15.76	10.61	7.00	2.92	—	—	—	5/52

(1)環境基準

見直しを受けており、その指定状況は以下に示すとおりである。

表 6-2 環境基準類型指定状況

水 域 の 範 囲		類型値	達成 期間	環境基準地点	指 定 年 月 日	備 考
遠賀川上流	稲築町鴨生浄水場から上流	A	イ	新宮ノ前橋※	平成13年3月30日 (昭和49年7月25日)	福岡県
遠賀川下流	稲築町鴨生浄水場から下流	B	イ	日の辻橋、川島		
江川	坂井川合流点から上流	C	イ	江川橋		
西川	全域	B	イ	島津橋		
犬鳴川	全域	B	イ	粥田橋		
八木山川上流	脇野橋から上流（力丸ダム貯水池を除く）	A	イ	脇野橋		
八木山川下流	脇野橋から下流	B	イ	樋口橋		
彦山川上流	今任橋から上流	A	イ	今任橋		
彦山川下流	今任橋から下流	B	イ	糴橋		
中元寺川上流	三ヶ瀬橋から上流	B	イ	三ヶ瀬橋		
中元寺川下流	三ヶ瀬橋から下流	B	ハ	皆添橋		
金刃川	全域	A	ハ	高木橋		
穂波川上流	秋松橋から上流	A	イ	天道橋		
穂波川下流	秋松橋から下流	B	イ	東町橋		
山田川	全域	B	ハ	大倉橋	平成13年3月30日	

注) A : BOD 濃度 2mg/l 以下 イ : 直ちに達成
B : BOD 濃度 3mg/l 以下 ハ : 5 年を越える期間で可及的速やかに達成
遠賀川上流の環境基準点については、平成 13 年度より鴨生浄水場取水口から新宮の前橋に名称変更。

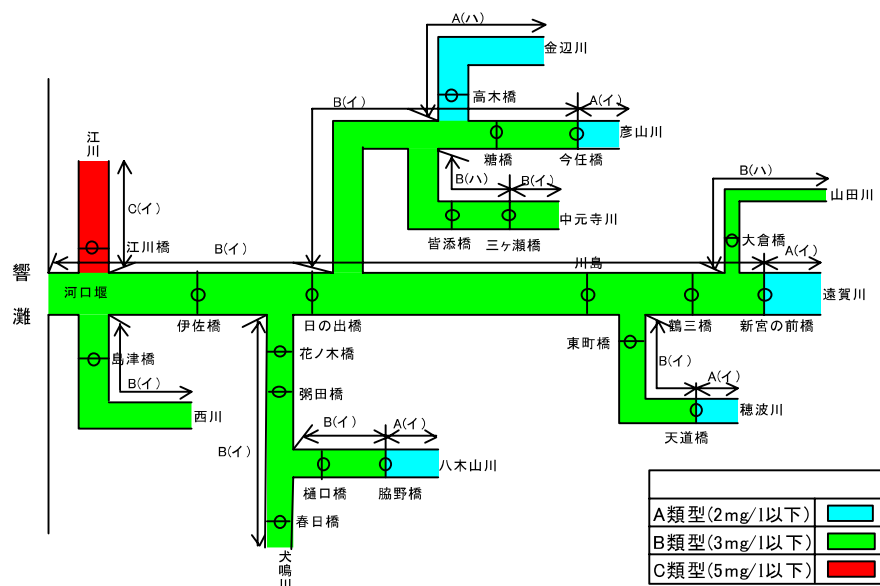


図 6-2-1 遠賀川水質環境基準地点及び類型指定状況図

(2)遠賀川の水質の現状

1. 環境基準値(BOD)の達成状況

水質環境基準点別に近年5ヵ年(H10～H14年)のBODの75%値の比較を行うと環境基準値を超過しているのは以下の9地点となっている。

ー近年5ヵ年(H10～H14年度)で環境基準値を超過したことのある地点ー

- 遠賀川上流(新宮の前橋)、八木山川上流(脇野橋)、八木山川下流(樋口橋)
- 彦山川下流(糠橋)、中元寺川上流(三ヶ瀬橋)、中元寺川下流(皆添橋)
- 金辺川(高木橋)、穂波川上流(天道橋)、山田川(大倉橋)



図1 水質環境基準地点

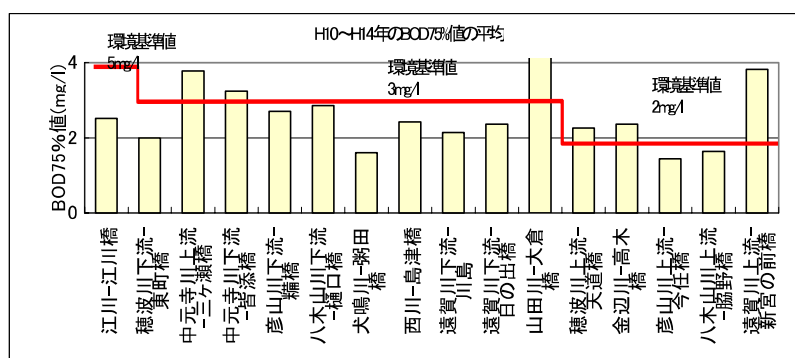


図2 地点別年次別 BOD75%値の平均値(H10～H14)

河川名	地点名	BOD75%値						(mg/l) H10～H14年 平均
		環境基準値	H10年	H11年	H12年	H13年	H14年	
遠賀川下流	日の出橋	3.0	1.6	2.0	2.6	3.0	2.6	2.4
遠賀川下流	川島	3.0	1.9	2.6	2.3	1.9	2.0	2.1
遠賀川上流	新宮の前橋 (鴨生浄水場)	2.0	2.1	2.0	3.7	4.1	9.5	4.3
江川	江川橋	5.0	2.5	2.3	2.5	1.9	3.4	2.5
西川	島津橋	3.0	1.7	2.7	2.1	2.9	2.7	2.4
大鳴川	粥田橋	3.0	1.2	1.5	2.0	1.7	1.6	1.6
八木山川下流	樋口橋	3.0	3.4	2.4	4.2	2.7	1.6	2.9
八木山川上流	脇野橋	2.0	1.9	2.1	1.8	1.5	0.9	1.6
彦山川下流	糠橋	3.0	1.6	1.8	2.9	3.2	4.0	2.7
彦山川上流	今任橋	2.0	1.1	1.6	1.7	1.8	1.0	1.4
中元寺川下流	皆添橋	3.0	2.3	3.7	4.3	3.5	2.4	3.2
中元寺川上流	三ヶ瀬橋	3.0	1.9	4.2	4.0	3.5	5.3	3.8
金辺川	高木橋	2.0	1.7	2.3	2.6	2.5	2.7	2.4
穂波川下流	東町橋	3.0	1.6	2.5	2.1	2.0	1.8	2.0
穂波川上流	天道橋	2.0	1.4	1.5	1.8	3.3	3.3	2.3
山田川	大倉橋	3.0	-	-	-	-	4.7	4.7

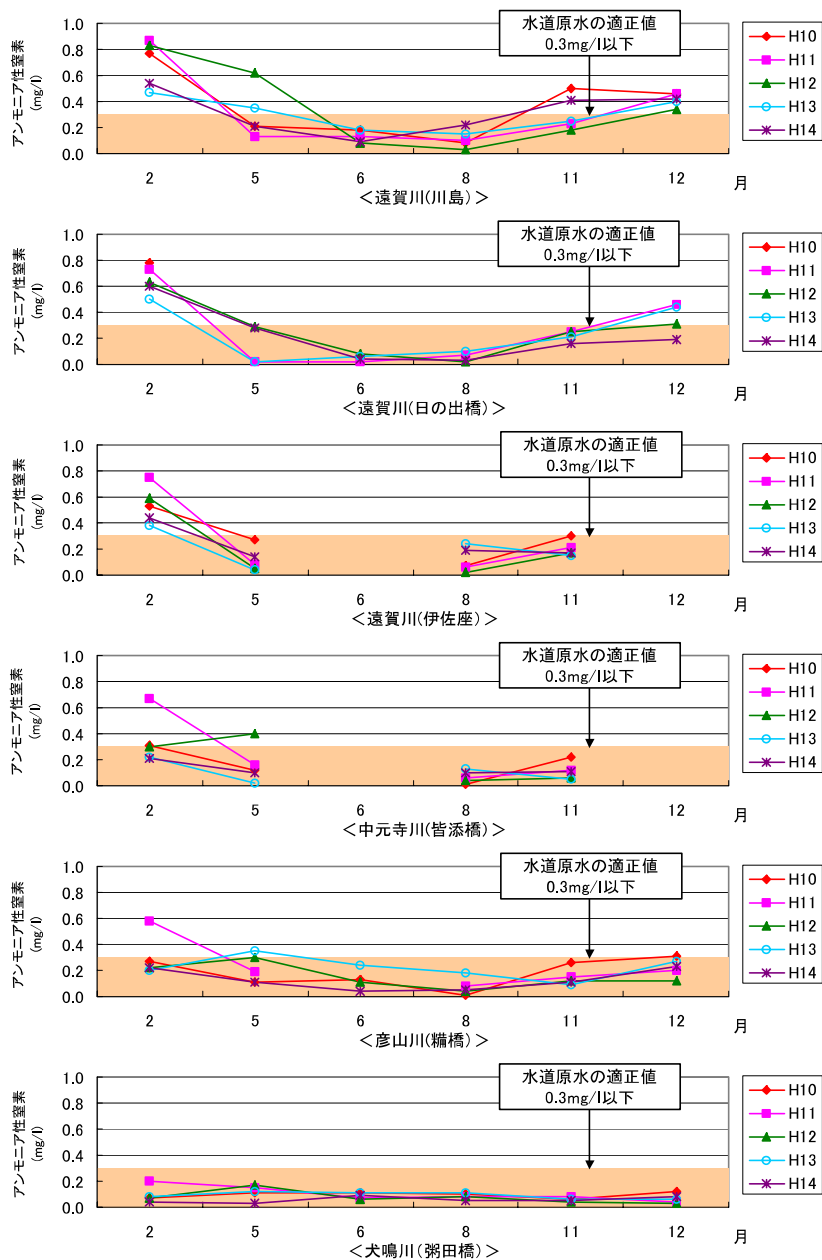
図3 地点別年次別 BOD75%値

- 遠賀川水系においては、上流部及び支川において環境基準値を満足していない地点がある。

2. その他の水質項目

1) アンモニア性窒素

アンモニア性窒素は環境基準の項目ではないが、し尿汚染の発生を示唆する成分である。
また塩素を消費したり、異臭味の原因ともなるため浄水処理上重要な管理項目とされている。



出典:遠賀川工事事務所測定値

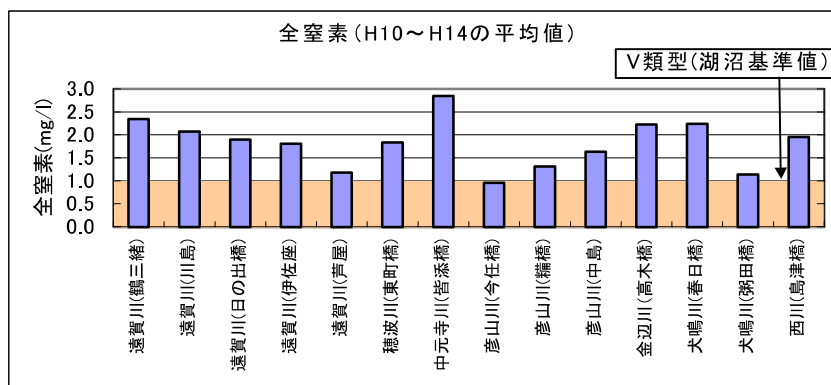
図4 水質測定点におけるアンモニア性窒素の比較

＜ アンモニア性窒素 ＞

全6地点のうち5地点で冬季(2月、12月)に水道
原水として望ましい濃度(0.3mg/l)を超過している。

2) 全窒素(T-N)

河川においては全窒素の環境基準等の制約はないが、河口部での富栄養化等に影響するため、近年(H10～H14 年)の年平均値と比較した。参考までに湖沼の基準のうち、最も緩いV類型の 1.0mg/l 以下を基準とした場合、ほぼすべての測定点において基準値を上回っている。



出典:遠賀川工事事務所測定値

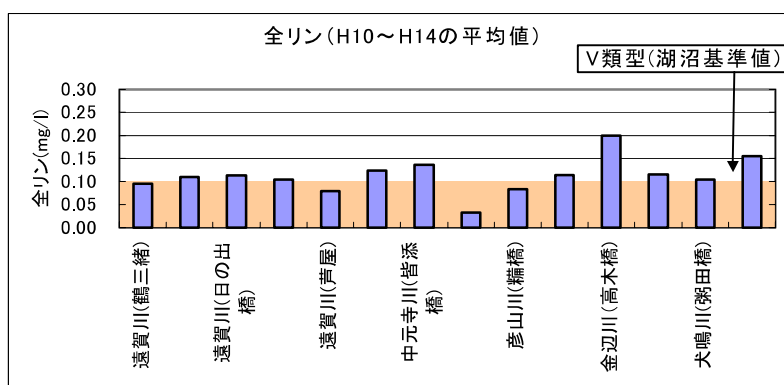
図5 水質測定点における全窒素の比較

< 全窒素 >

ほぼすべての地点において 1.0mg/l を上回っている。
(参考値:湖沼の最も緩い基準値 V 類型は 1.0mg/l 以下)

3) 全リン(T-P)

全リンについても河川における基準値はないが、富栄養化の要因であるため全窒素と同様に湖沼の環境基準を参考とした。全リンについても、測定地点の半数以上がその基準値(V類型、0.1mg/l 以下)を上回っており、汚濁負荷の高いことがわかる。



出典:遠賀川工事事務所測定値

図6 水質測定点における全リンの比較

< 全リン >

測定地点の半数以上において 0.1mg/l を上回っている。
(参考値:湖沼の最も緩い基準値 V 類型は 0.1mg/l 以下)

3. BOD 汚濁負荷量

遠賀川流域における発生源別の BOD 汚濁負荷量の割合は、生活系(雑排水、合併浄化槽、単独浄化槽など)が 63%と圧倒的に多い状況となっている。次いで、自然系(市街地、田、畑、山林など)の 31%が多く、産業系(工場、事業所など)や畜産系(牛、豚など)は 2~4%となっており、下水道等の整備が遅れていることが分かる。

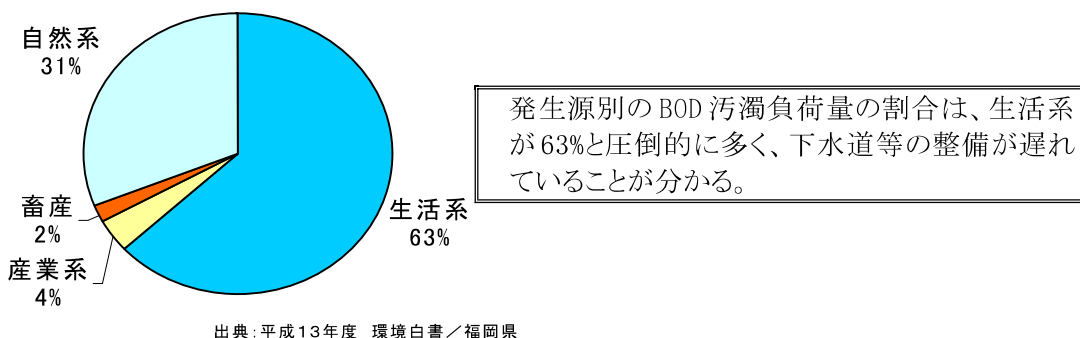


図 7 発生源別 BOD 汚濁負荷量の割合

4. 河口堰貯水池における水質問題

1) アオコの発生問題

河口堰では流域からの生活系を中心とした負荷による水質汚濁により、水が富栄養化状態となるためアオコが発生することがあり、これによる悪臭や水道水のカビ臭が問題になっている。

アオコ発生の一つの指標であるクロロフィル a について、河川流量が低下して貯水池内が滞留し始めると植物プランクトンの増殖にともない濃度が増加するといった傾向が見られている。

このため河口堰貯水池では平成 8 年度から水質自動監視装置、攪拌浄化施設、猪熊浄化施設などの水質保全事業を行っている。



図 8 河口付近でのアオコの発生状況



図 9 カビ臭の新聞記事

2) 水道の異臭味問題

遠賀川の水質汚濁は、北九州市等の浄水処理阻害を引き起こしている。

「水質試験年次報告」, 平成 13 年度(第 37 集), 北九州市水道局」では、遠賀川の水質汚濁による浄水場の処理阻害について、以下のように報告している。

- 『本年度の 5 月から 9 月にかけて遠賀川（猪熊）の水質が悪化し、カビ臭が多発した。それを揚水している頓田貯水池にもカビ臭が発生した』（P125 の本城浄水場より抜粋）
- 『本城浄水場では、原水である遠賀川の水質悪化に伴うアンモニア性窒素や溶存マンガンの濃度の上昇、藻類の繁殖による異臭味の発生、有機物濃度の上昇等の浄水障害への対策として粒状活性炭を担体とした上向流式生物接触ろ過（BCF）による高度処理の運転を平成 12 年 6 月より開始した。』（P213 より抜粋）

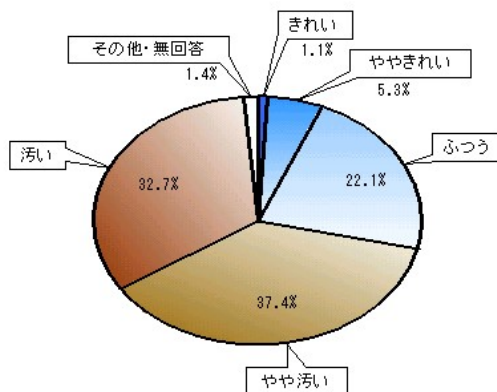
※本城浄水場では、水道原水として遠賀川河口堰で取水された河川水等を浄水している。

(3) 流域住民の要望・ニーズ

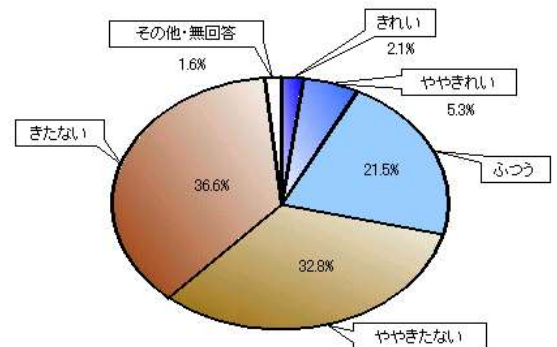
1. 住民アンケート

<Q1:今の遠賀川をどう思いますか？>

【一般】

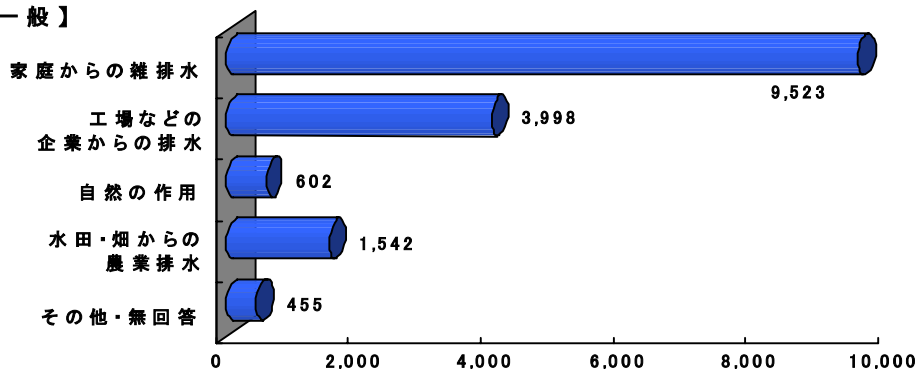


【児童】



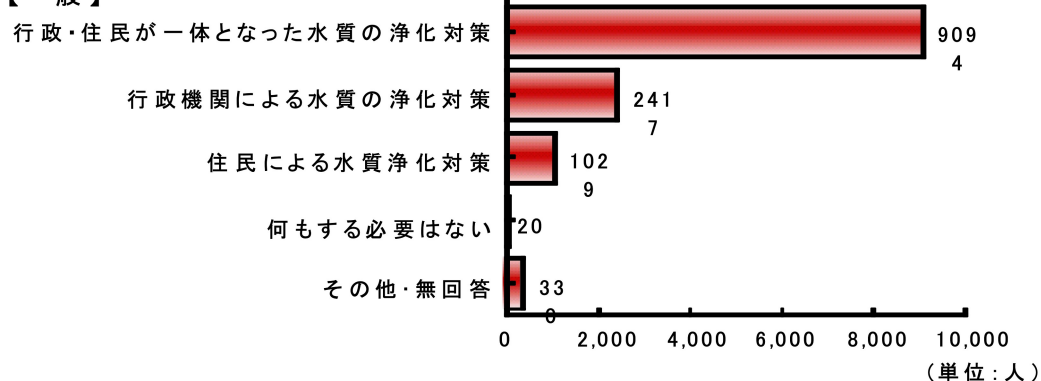
<Q2:現在の遠賀川の水質汚濁の原因は何だと思いますか？>

【一般】



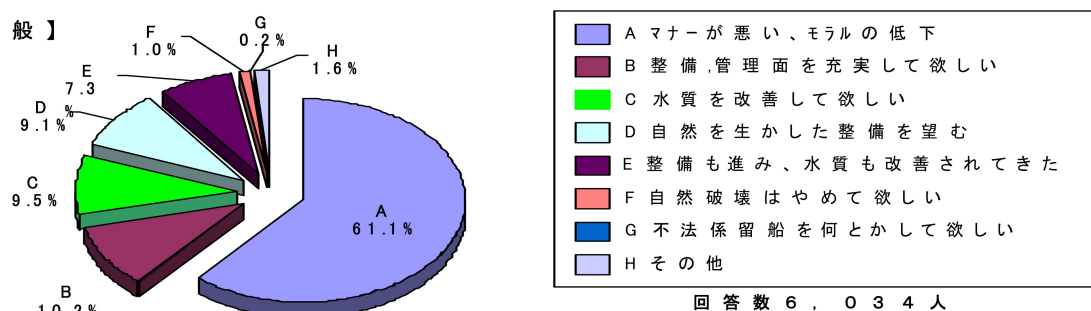
<Q3:水質浄化にはどのような取り組みが必要と考えますか？>

【一般】



<Q4:私たちの川のまわりの様子を見て、どのように思いますか？>

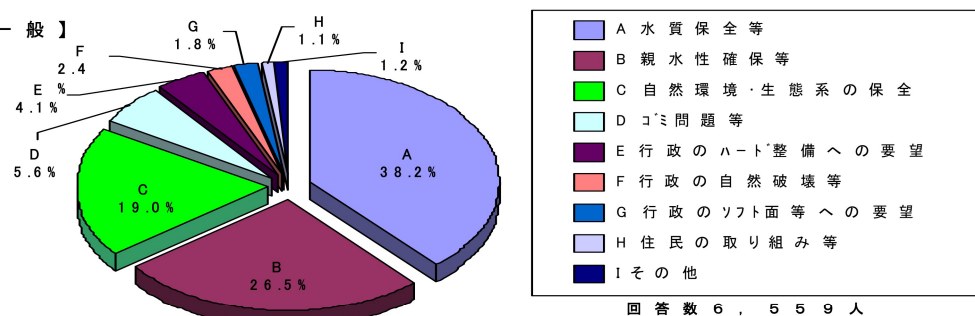
【一般】



<Q5:私たちの川を、将来どのようにしたい、

あるいはどのような川であって欲しいと思いますか？>

【一般】



<アンケートの結果より>

- ・遠賀川をきれいと思っている人より汚れている人が多く、水質に対する意識が非常に高い。
- ・また、行政と住民が一体となった浄化対策など、水質改善への要望が非常に多い。

(4) 遠賀川の水質改善に向けた取り組み

1. 下水道等の整備状況について

市町村別の下水道普及率及び污水处理施設整備率(平成14年度末)

- ・遠賀川流域内の関連市町の下水道整備は、7市町で進められており、流域全体の下水道普及率は平成14年度末で28.7%となっている。
- ・市町村別の下水道普及率は、芦屋町(99.8%)、北九州市若松区(97.6%)、北九州市八幡西区(99.3%)、岡垣町(70.2%)、飯塚市(59.9%)、水巻町(39.8%)、中間市(25.1%)、夜須町(25.8%)である。
- ・一方、農業集落排水や合併浄化槽など雑排水も処理する人口を含めた污水处理施設整備率でみると、10%～100%と市町村により整備状況は様々であるが、全体では49.6%となっており、流域内に住む人口の半数は雑排水も処理している。
- ・なお、福岡県污水处理構想(H15.3)をもとに整備目標年度の平成32年度の遠賀川流域の下水道等の整備状況を試算すると、下水道普及率は58.1%であり、污水处理施設整備率は75.5%と予想される。

※下水道普及率：下水道の整備状況

*污水处理施設整備率：下水道、農業集落排水施設等、合併処理浄化槽、コミュニティプラントの整備状況

2. 河川管理者の取り組み

1) 河川浄化施設の整備

遠賀川の流域では下水道等の整備が遅れていることから、汚濁は主に家庭排水に起因すると思われる。そこで、遠賀川河川事務所では汚濁の著しい支川や遠賀川河口堰貯水池の富栄養化を対象に5箇所で河川浄化施設が稼働し、1箇所が整備中である。

図10 現在稼働している河川浄化施設

河川名	浄化施設名 (事業種別)	計 画	事業開始～ 完成年度
遠賀川	建花寺川浄化施設 (直接浄化)	支川建花寺川流入地点に礫間浄化施設設置	S63～H4
	熊添川浄化施設 (浄化用水導水・直接浄化)	遠賀川 34/500 地点から熊添川の浄化用水導入 遠賀川 33/000 地点で土壌浄化施設設置	H12～(H16)
	居立川浄化施設 (浄化用水導水・直接浄化)	遠賀川 19/800 地点から居立川の浄化用水導入 遠賀川 17/100 地点で礫間浄化施設設置	H4～H8
	尺岳川浄化施設 (直接浄化)	支川尺岳川流入地点に土壌浄化施設設置	H8～H12
	攪拌浄化施設 (直接浄化)	遠賀川河口堰貯水池にて攪拌浄化施設設置 底層に酸素を供給し、貧酸素水域のDOを改善	H8～(H16)
彦山川	清水・番田浄化施設 (直接浄化)	芳ヶ谷川及び番田樋管の流入地点に 礫間浄化施設設置	H8～H11

2) 清流ルネッサンスⅡ

清流ルネッサンスⅡは、水質汚濁の著しい河川等の水量・水質の改善を図るために、地域の取り組みと一体となって河川事業や下水道事業を推進するものであり、遠賀川水系はその選定を受け、住民と行政が一体となった地域協議会により平成15年3月に「遠賀川水環境改善緊急行動計画」を策定した。

3. 住民(地域)の河川に関わる活動状況

・遠賀川と人々の活動

選炭排水による河川の汚染、その後の生活排水による水質汚濁と、長年に渡る浄化の必要性が叫ばれる遠賀川では自治体や地域の人々が中心となり、様々な清流復活への努力が続けられている。

・水質汚濁防止連絡協議会

水質汚濁防止連絡協議会とは、流域内の関係機関(29 市町村・国・県等)による組織で、遠賀川水系の水質を調査し、その実態を把握すると共に、汚濁の機構を明らかにし、河川管理上あるいは生活環境上必要な水質管理の方法並びに汚濁防対策についてを守るための活動を行っている。

・I LOVE 遠賀川など地元の美化活動

遠賀川流域に住む人々の協力によって、河川等の美化活動が行われている。

・遠賀川に鮭を呼び戻す会

美しい遠賀川を再生するために「鮭の放流」を続けている。



図 11 清掃キャンペーン(I LOVE 遠賀川)



図 12 サケの放流



図 13 遠賀川の水環境を考える
シンポジウム 2002



図 14 「遠賀川流域住民の会」発足



●平成13年12月10日(読売新聞)

図 15 河川愛護団体の連携-1-



●平成13年12月4日(読売新聞)

図 15 河川愛護団体の連携-2-

7. 河川空間の利用状況

当該流域は、各市町村に流れる遠賀川水系と共に発展してきた地域であるといえる。

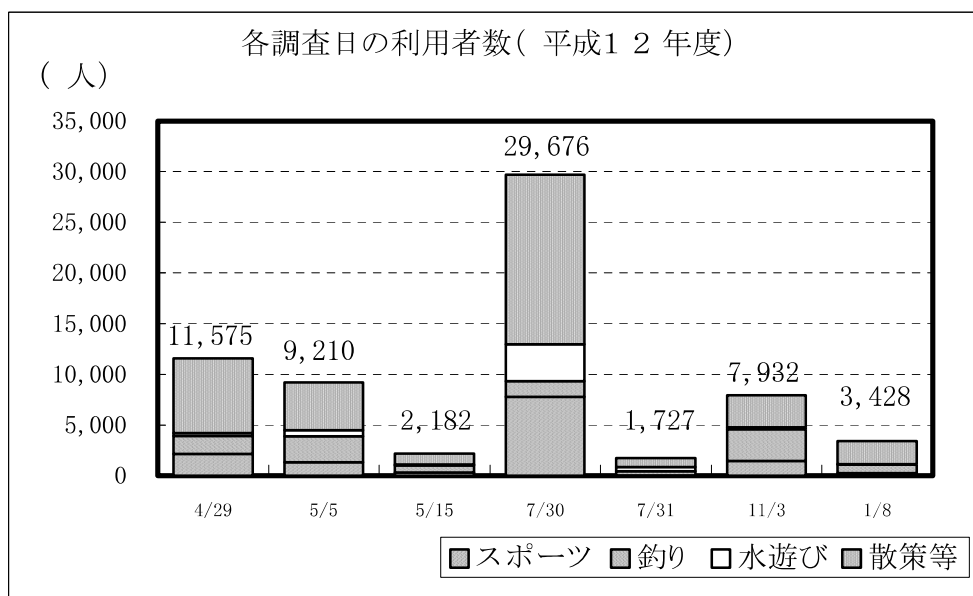
遠賀川水系は上流域の田川市、中流域の飯塚市、直方市、下流域の中間市、北九州市と数々の市街地を流れており、流域内の人口密度は約650人／km²で九州地方整備局が管理している河川の中では人口密度が最も高い水系である。流域では、田川市の「川渡り神幸祭」などの歴史ある祭りや直方市の「のおがたチューリップフェア」などのさまざまなイベント等が開催されており、河川空間は流域住民の身近な空間として親しまれている。

遠賀川の年間利用者数(推定)は約 201 万人であり、沿川市区町村人口から見た年間平均利用回数は約 3.0 回となっている。利用者数は、夏期の 7 月 30 日が最も多く、当日はイカダ下り大会や高水敷で多くのイベントが開催されている。

主に高水敷の散策が利用形態の過半数を占め、流域外からの利用者も多く見られる。2 番目に多い 4 月 29 日(みどりの日)もイベントが各地で開催されている。(図 7-1 参照)

遠賀川水系では毎年多くのイベントが開催されている為、河川利用形態としてはその見物客を含めた散策等が最も多くなっている。

また、高水敷にはサッカーグラウンド等が整備されている為、スポーツも盛んである。近年多自然型川づくりが行われている為、水遊びや釣り等でも利用されている。



(出典:建設省九州地方建設局遠賀川工事事務所)

図 7-1 平成12年度の遠賀川利用者数

7-1. 河川の利用状況

(1) 上流部

遠賀川上流部は、源流付近の馬見山麓でリンゴやナシなどが栽培され、収穫のシーズンは県内外から多くの人を訪れ、賑わいを見せている。

また嘉穂町にある鮭神社では、遠賀川で捕れた鮭を奉納する「献鮭祭」が毎年12月に行われている。

支川彦山川の源流付近では、英彦山山系の自然のなかで、登山・バードウォッチング・キャンプなどの多彩なアウトドアを楽しむことができる。また、上流部の田川市では福岡県の無形民俗文化財に指定され約400年の歴史をもつ「川渡り神幸祭」、大任町では「しじみ祭り」など、河川を利用した祭りやイベントが数多く行われている。

表7-1-1 遠賀川上流域の河川利用

県	市町	利用名	内容	位置	期間
福岡県	嘉穂町	献鮭祭	鮭神社にて鮭を奉納する祭り	遠賀川上流	12月中旬
		嘉穂リバーサイトロードレース	遠賀川沿いを走るロードレース	遠賀川上流	11月頃
	穂波町	天道花火大会	花火大会	穂波川河川敷	8月中旬
	田川市	川渡り神幸祭	山笠をかつぎ川を渡る祭り	彦山川糯堰下流	5月中旬
	大任町	しじみ祭り	各種イベント、しじみの放流	彦山川上流域	10月下旬

(2) 中流部

中流部は飯塚市や直方市などの筑豊地区の中核都市が集まっており、高水敷にはオートキャンプ場や芝生広場が河川公園として整備されており、これらの施設を活用した自然体験レジャーや環境学習、花火大会等の各種催しが盛んに行われている。

なかでも、「遠賀川クリーンキャンペーン川下り大会」は飯塚市から北九州市までの約23kmを手作りいかだで遠賀川を下る大会で、20年以上続いている夏のイベントとして地域に定着している。

また、直方市の遠賀川と彦山川合流点一帯で行われる「のおがたチューリップフェア」では、遠賀川の高水敷に植えられた35万本の色とりどりのチューリップを目当てに、県内外から毎年50万人が訪れる地域の一大イベントである。

県	市町	利用名	内容	位置	期間
福岡県	飯塚市	遠賀川クリーンキャンペーン川下り大会	手作りのいかだで飯塚市から北九州市の約23kmを下る。		7月下旬頃
		飯塚納涼花火大会	花火大会	遠賀川と穂波川の合流地点	8月上旬
		I LOVE 遠賀川	河川清掃、水質・水棲生物調査	遠賀川河川敷	10月中旬
	小竹町	サイクリングロード	サイクリング、キャンプ	遠賀川中流	
	直方市	直方夏祭り	花火大会、各種イベント	市役所下	7月下旬
		のおがたチューリップフェア	各種イベント、フリーマーケット	遠賀川と彦山川の合流地点	4月中旬頃
		リバーサイドパーク	オートキャンプ場、多目的水上ステージ、芝生広場等	市役所下	
	宮田町	犬鳴川川下り大会	手作りカヌー、イカダ等で川を下る。		7月下旬頃
		犬鳴川まつり	植樹、各種イベント等	犬鳴川河川公園	3月
		千石キャンプ場	川遊び、釣り	八木山川上流	

(3) 下流部

下流部では、高水敷において多目的広場やグラウンド、サイクリングロード等が整備され、スポーツ、レクリエーション等のイベントに幅広く利用されている。

なかでも、遠賀町には平成2年に開催された「とびうめ国体」のレガッタ会場として使用された遠賀川漕艇場があり、現在は高校・大学の漕艇の合宿所もあり、水上スポーツの場として沿線住民のみならず広く地域の人々の身近な空間として親しまれている。

また、支川黒川では北九州市内でも自然のホタルが最も飛翔する地域と知られ、毎年開催される「黒川ホタル祭り」には1万人以上の人が訪れ賑わいを見せている。

県	市町	利用名	内容	位置	期間
福岡県	北九州市	黒川ホタル祭り	北九州市でも珍しく自然のホタルが飛翔する。多いときで一日4,000匹のホタルが見られる。	黒川中流域	5月下旬～6月上旬頃
	中間市	筑前中間川まつり	花火大会	市役所前河川敷	8月中旬頃
	水巻町	遠賀川河川敷公園	ターゲットバードゴルフ場、サイクリング・ジョギングコース	遠賀川下流	
		コスモス祭り	各種イベント、フリーマーケット	遠賀川下流	10月下旬頃
	遠賀町	九州朝日レガッタ	レガッタの大会	遠賀川漕艇場	5月中旬頃
		おんがふれあい釣大会	町内外から約1000人もの人が集まる釣大会	西川河岸	11月上旬頃
	芦屋町	あしや花火大会	花火大会	遠賀川河口	7月下旬頃
		精霊流し		芦屋橋周辺	8月お盆

7-2. 高水敷地の利用状況

中流部の飯塚市から中間市にかけては高水敷も広く、野球場やサッカー等のグラウンド、河川公園、オートキャンプ場などの多目的広場や採草地として利用されている。また、下流部の遠賀川河口堰湛水域においては、多目的広場やグラウンド、サイクリングロードとしての利用が多く、利用面積は遠賀川全体で 329.9ha となっている。

利用形態としては日常的なスポーツ・レクリエーションなどが主体であるが、花火大会などのイベントの場としても利用されている。

表7-2-1 遠賀川高水敷利用状況

単位：件数（カ所）、面積（ha）

土 地 の 占 用											
公園・緑地		運 動 場				採 草 地 (類するものを含む)		その他		合 計	
		地方公共団体		学 校							
件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
17	123.3	8	18.4	2	2.0	2	184.3	116	2.0	145	329.9

出典：国土交通省九州地方整備局遠賀川河川事務所資料

表7-2-2 遠賀川高水敷の利用内容(抜粋)

	河川名	No.	距離標 (km)	左右岸	施設名	種類	施設面積 (㎡)	管理者名	一般利用	利用料金
公園	遠賀川	①	2/300～ 8/860	右岸	河川敷広場	公園	211,145.95	水巻町	可	無料
		②	9/000～ 9/700 10/300～10/880 11/300～11/450 11/360 0/400 黒川 1/000 黒川 1/000 笹尾川	右岸 右岸 右岸 左岸 左岸 左岸 左岸	河川敷広場	公園	101,859.84	中間市	可	無料
		③	17/000～17/140 17/970～20/100 17/980～19/200 18/900～20/440 20/900～21/000 0/000～ 1/120 彦山川 1/850～ 1/950 彦山川 2/000～ 2/100 彦山川 2/800～ 2/950 彦山川 3/200～ 3/300 彦山川	右岸 左岸 右岸 右岸 左岸 左岸 左岸 左岸 左岸 左岸	河川敷広場	公園	366,676.63	直方市	可	無料
		④	30/560～31/910 31/150～31/300 31/500～32/850 31/600～32/900 0/220～ 0/620 穂波川 0/400～ 1/120 穂波川	左岸 左岸 右岸 左岸 左岸 左岸	飯塚市市民広場	公園	156,492.93	飯塚市	可	無料
	彦山川	⑤	12/550～14/190	左岸	田川市市民広場	公園	13,628.01	田川市	可	無料
		⑥	27/860～28/010	左岸	町民広場	公園	1,216.03	添田町	可	無料
運動場	彦山川	⑦	4/410～ 4/550 6/306～ 6/437 6/565～ 6/990	右岸 右岸 左岸	河川敷運動広場	運動場	51,317.01	赤池町	可	無料
	犬鳴川	⑧	2/120～ 2/220	右岸	河川敷運動広場	運動場	5,796.13	直方市	可	無料

出典:国土交通省九州地方整備局遠賀川河川事務所資料

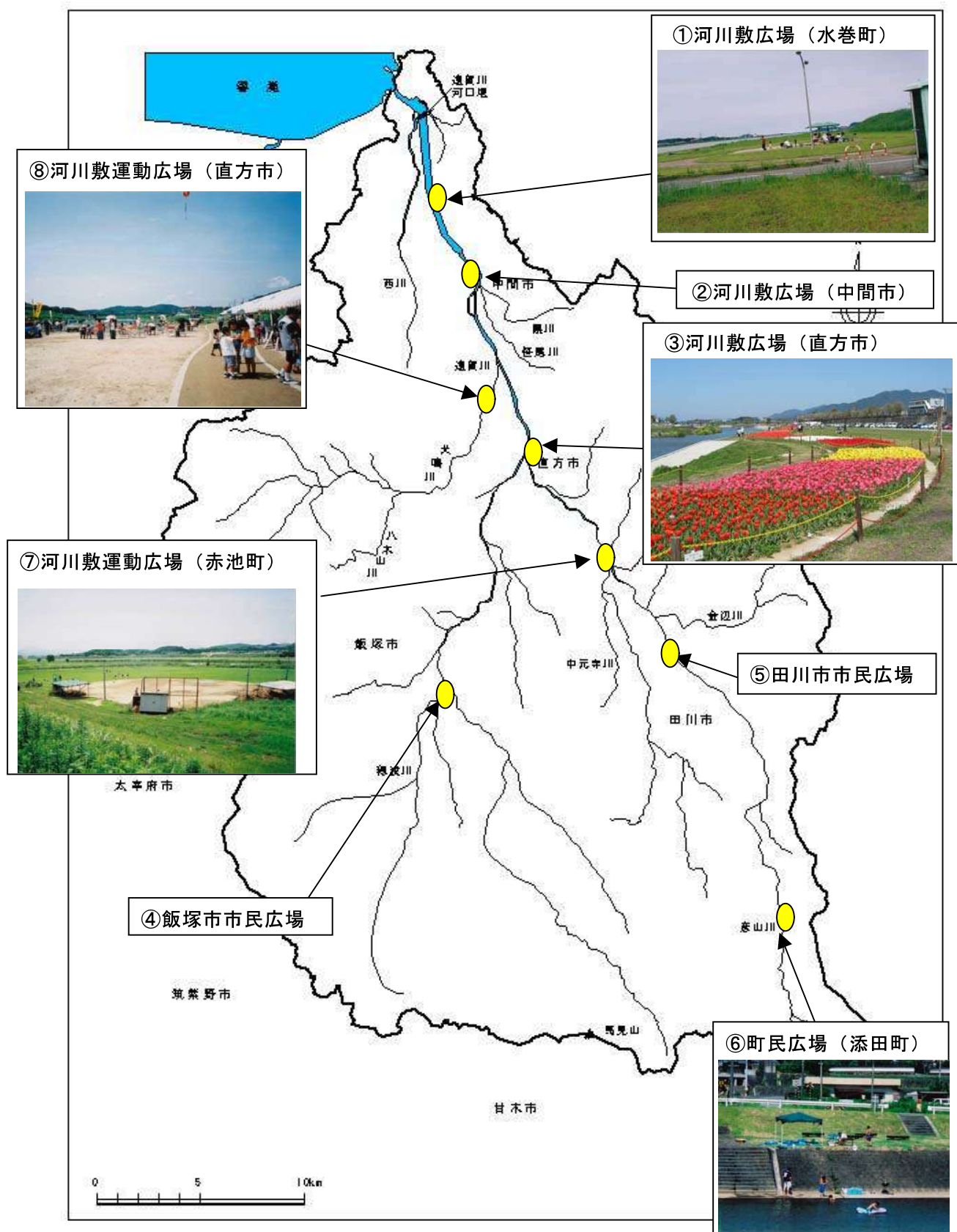


図7-2 遠賀川高水敷の利用状況位置図

出典；国土交通省九州地方整備局遠賀川河川事務所資料

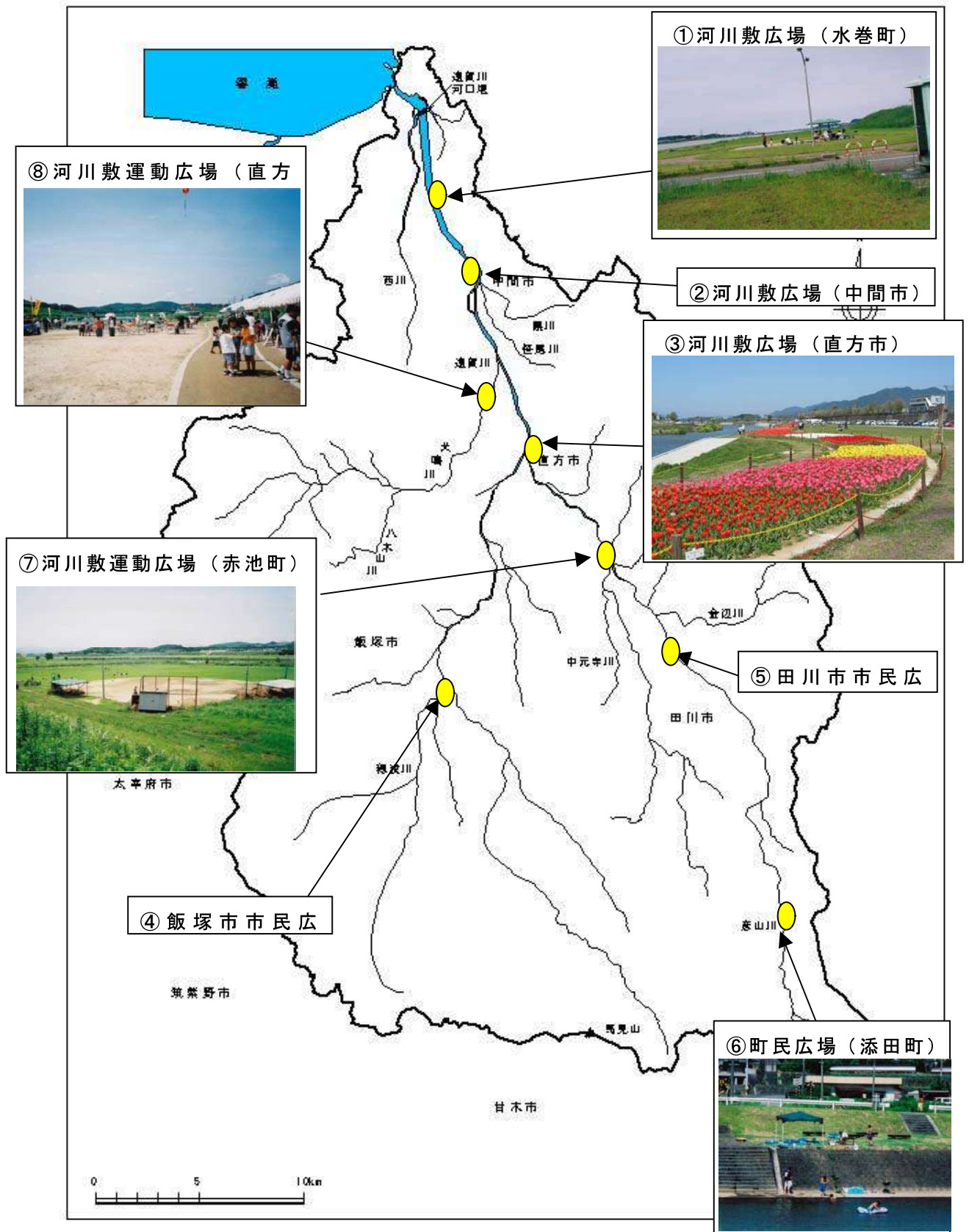


図7-2 遠賀川高水敷の利用状況位置図

出典：国土交通省九州地方整備局遠賀川河川事務所資料

8. 河川管理の現状

8-1. 河川管理施設

河川の管理には、施設の維持・管理、流水管理、法律に基づく許認可などがある。遠賀川河川事務所においても、施設の点検・補修、河川巡視パトロールといった日常の川の管理をはじめ、洪水時の管理、渇水時の管理など、河川の正常な機能維持のために、常にきめ細かい管理を行っている。

施設の維持・管理としては、堤防のひび割れ補修や、約900施設にも及ぶ河川構造物（堰や樋管など）の点検・補修、河川利用施設の監視など様々な管理を行っている（表8-1-1参照）。

表8-1-1 遠賀川河川事務所による河川施設の維持・管理

- ①堤防（漏水・ひび割れ等の補修）
- ②高水敷（不法投棄の監視、竹木・ゴミの除去等）
- ③低水路（護岸の点検補修等）
- ④河川構造物（堰、樋管等の点検補修等）
- ⑤観測施設（テレメータ、水位や雨量データの観測・収集施設等の点検及び修）
- ⑥行政事務（河川台帳の作成、境界杭の管理等）
- ⑦河川利用施設（安全利用のための点検・補修）

表8-1-2 直轄管理区間堤防整備状況

直轄管理区間延長 (km)	施行令2条7号区間延長 (km)						
		定規断面堤防	暫定	暫々定	未施工	不必要区間	計
133.8	1.4	206.3	23.0	9.0	13.2	12.8	264.3
比率(%)		78.1	8.7	3.4	5.0	4.8	100

（平成14年3月現在）

表8-1-3 直轄管理区間水閘門など河川管理施設整備状況

堰	水門	床止	排水機場	樋門樋管等	陸閘	計
15	10	36	13	799	70	943

8-2. 河道内植生

遠賀川流域内の植生については、表 2-2-12 の資料などにより調査されている。このうち遠賀川河川事務所で作成された「遠賀川河川環境マップ」では、直轄管理区間である本川の上流域、中流域、下流域及び最大支川の彦山川を中心にほぼ全域の生態系分布が詳細に明らかにされている。また、遠賀川本川中流域については「遠賀川中流地区河川環境調査及び環境保全対策検討業務報告書」で、詳細な生態系調査が行われており、河川管理のための重要な基礎資料となっている。

遠賀川河道内の植生について上流域では、植被面積は狭いものの、砂礫洲にはツルヨシやオギが繁茂し、止水域の河岸にはヨシ、マコモ、ウキヤガラ等の抽水植物が帯状に群落を形成し、また浅い水域には特定種のアサザやヒシ等の浮葉植物が小群落を形成するなど、自然度の高い植生が分布する。一方低水護岸などが行われた改変地では、エノコログサやセイタカアワダチソウ等の荒地雑草群落が分布し、植生の自然度は低下する。堤防周辺ではチガヤ群落やススキ群落が目立ち、部分的にイタドリ、クサマオ等の高茎広葉草本が纏まって分布している。

中流域は、広い高水敷に広がる採草地、及び高水敷縁部に帯状に分布するオギ・ヨシ群落やヤナギ林に代表される植生の構成となっている。流路には砂州が形成され、ヨシ、マコモ、ツルヨシ、ミゾソバ、キシユウスズメノヒエなどの湿性植物が生育し、堤防周辺ではチガヤ群落、セイバンモロコシ群落やセイタカアワダチソウ群落が繁茂している。

この区間で特徴的な植生地帯として、11k～13k 間の中ノ島周辺があげられる。中ノ島の外周を取り巻く自然堤防にメダケ群落、そのすぐ内側の凹湿地にはヨシ群落、島状のオオタチヤナギ・タチヤナギ林、中央部に広がる水田跡地には広い範囲でオギ・ヨシ群落、小丘陵にはモウソウチク林やタブ林等が分布している。樹林地、河畔林、水際植生、湿地植生、草地を併せ持つ植生分布は多様であり、そこに生息する動物相も豊富なものとなっている。中ノ島及びその周辺では特定種としてアゼオトギリ、タコノアシ、ホソバオグルマ、カキツバタ、ミゾコウジュ、カワヂシャ、イヌゴマ、ヒメコウガイゼキショウ、オオシシウドが確認されており、特出した存在として、中ノ島右岸側の湿生ヤナギ林内に群生している特定種のヤガミスゲやウマスゲ等の稀少なスゲ類が挙げられる。

下流域は全体的に低水護岸、堤防、緑地公園、グラウンドなどの整備により、人為性が強く、在来の河辺植生は限定的なものとなっている。遠賀川河口堰までの湛水域では、公園化が進みその周辺には荒れ地雑草群落が広く分布する。広い高水敷の湿性地や凹地など所々にヨシ、オギ、ウキヤガラなどの在来大型草本が生育するが植被面積は小さい。一方河口堰から河口までの汽水域では、江川との合流部に残る砂州や干潟、西川河口の高水敷など限られた場所に塩沼

ヨシ群落が分布し、特定種のハマサジやハマボウが生育する。また、河口堰下流の波消ブロックにはハママツナが島状に群落を形成し、その後背地にハマボウが点在している。

遠賀川の支川である彦山川の上流では、河床を覆うようにツルヨシが繁茂し、河辺にはネコヤナギ、アカメガシワ、オニグルミ等の樹木やメダケ林等が点在する。山つき斜面にはムクノキ・エノキの河畔林やアラカシ林が見られる。中流に下るに従い、河道には発達した砂州が見られるようになり、ツルヨシ、ヨシ、マコモなどの抽水植物が群落を形成する。中間付近で、堰、低水護岸の整備、駐車場利用などにより人為性が強くなるが、これを下ると同様の植生がさらに植被面積を広げて繁茂する。やがて本川へ近づくにつれ高水敷が広がり、殆どが採草地利用されるなど人為性を帯びた河川環境になる。特定種としてはコイヌガラシ、イヌゴマ、イヌハギ、ミゾコウジュ、オオシシウド、カワヂシャ、シオン、ミズマツバが確認されている。



タコノアシ

8-3. 地域との連携

遠賀川は、石炭産業が盛んな時代には石炭の選別に利用した水の排水先となっていたため、「ぜんざい川」と呼ばれるほど黒く濁っていた。石炭産業の衰退に伴い、次第に透明度は増してきたが、近年都市化の進展や生活様式の変化により有機汚濁による水質の悪化が顕著となっている。

各自治体においても、下水道整備等と併せて生活排水対策の啓発活動等を行ってきたものの、依然として環境基準値を地点・年によっては超過する状況にある。また、北九州都市圏の都市用水として貴重な水源となっている遠賀川河口堰の湛水池は、近年富栄養化が進んでいることから、水道水源として、安全でおいしい水の確保が求められている。そのため、近年では流域内の住民団体等が清流復活を目指し、源流の森づくりや河川環境に関するシンポジウムを開催するなど、啓発活動を積極的に展開している。また、住民と行政が一体となった流域の水環境改善への取り組みが盛んになってきている。

「遠賀川源流の森づくり推進会議」

平成9年7月に発足した団体であり、自然の森の蘇生と将来に渡る自然と人間との共生を目的とし、遠賀川上流の山に植樹及び下草刈りを行い、「命の水」を育む豊かな森づくり活動を基本に、環境問題に取り組んでいる団体である。

植樹や下草刈り等のイベントの際には、各種ボランティアや、地域の子供たち、河口域の漁協、農業者等、幅広い団体が参加している。

なお、筑豊の母なる川を再生しようという一連の取り組みは、年々大きな拡がりを見せており、流域の環境を考えるシンボリックな事業となっている。



写真8-3-1. 源流の森づくり（下草刈り）の状況

「遠賀川とサケ」

遠賀川は、サケが遡上する川としては日本最南限の地としても有名である。サケは、毎年一尾程度ではあるが、遡上が確認されており、遠賀川流域のシンボル魚となっている。これは「遠賀川にさけを呼び戻す会」が中心となって昭和61年から行ってきた稚魚の放流によるものと思われる。現在では流域各地でボランティア団体により子供たちを中心としたサケの稚魚放流会が行われている。

サケの稚魚放流を通じて、遠賀川に対する関心が高まり、流域での河川愛護や河川美化活動につながっていくことが期待されることから、サケは今後の水

環境改善の起爆剤としての役割を担っている。

また、遠賀川の最上流に位置する嘉穂町には、日本で唯一サケを祭った「鮭神社」があり、毎年12月13日に「献鮭祭」が行われている。（嘉穂町役場ホームページより
<http://www.kaho.org/e-07-01-01.htm>）



写真8-3-2. サケの稚魚放流の状況

「清流ルネッサンスⅡ」

遠賀川は、平成14年7月4日に清流ルネッサンスⅡの対象河川に選定されており、平成24年度までに遠賀川を清流にするための遠賀川水系水環境改善緊急行動計画を策定する。現在、地域協議会において住民と行政とが一体となり、平成15年度末を目処に行動計画を検討中である。



写真8-3-3. 清流ルネッサンスⅡ地域協議会開催状況

「リバーチャレンジスクール」

遠賀川をフィールドとして環境学習活動等に取り組む直方川づくり交流会と遠賀川河川事務所との共催イベントであり、平成14年と平成15年の夏に小学生を対象として開催され、投網やカヌー体験、バードウォッチング等の環境教育活動が行われた。



写真8-3-4. リバーチャレンジスクールの実施状況

8-4. 水防体制

(1) 河川情報の概要

遠賀川では、流域内に雨量観測所（14ヶ所）、水位観測所（22ヶ所）を設置し（図8-4-1）、テレメータなどにより迅速に情報収集するとともに、図8-4-2に示すようにこれらのデータを用いて水位予測などを行い、流域住民の水防活動に活用している。

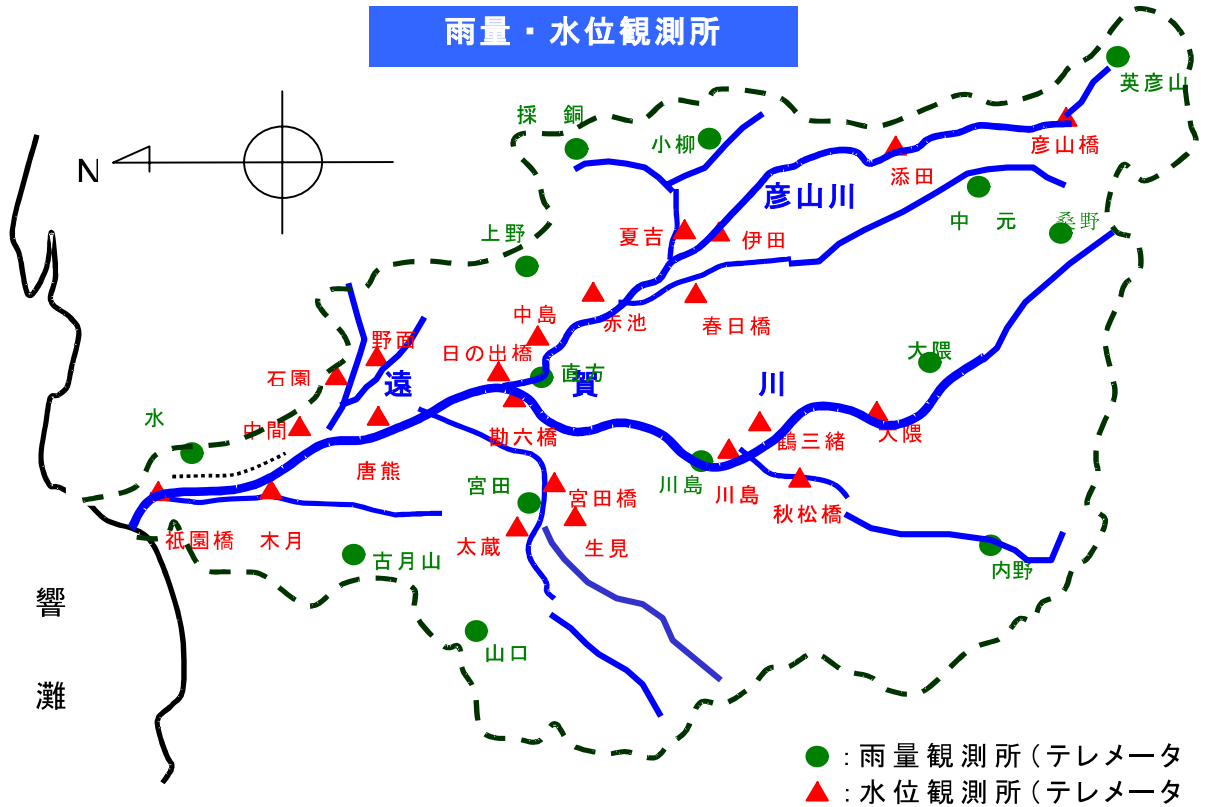


図8-4-1. 雨量・水位観測所位置図

(2) 水防警報の概要

遠賀川では、洪水による災害発生の可能性がある場合、水防管理団体が実施する河川巡視や災害発生防止のための水防活動が迅速かつ的確に実施されることを目的として、水位観測所の水位をもとに、水防管理団体に対し水防警報を発令している。

(3) 洪水予報河川の指定

遠賀川及び彦山川は、水防法第10条及び気象業務法第14条に基づき、平成7年3月より洪水予報指定河川となり、気象台と共同で「洪水予報」を発表するようになった。

(4) 洪水危機管理の取り組み

平常時において、流域市町村と連携した危機管理演習に取り組むことにより、危機管理に対する共通認識を持つとともに、洪水発生時の被害を最小限に抑えるため、浸水想定区域図(図8-4-2)を公表し、流域市町村の地域防災計画の策定及び洪水ハザードマップの作成を支援している。また、防災ステーション、広報、ホームページ、情報掲示板等を地域住民に幅広く活用してもらうことにより、危機管理意識の啓発を図っている。

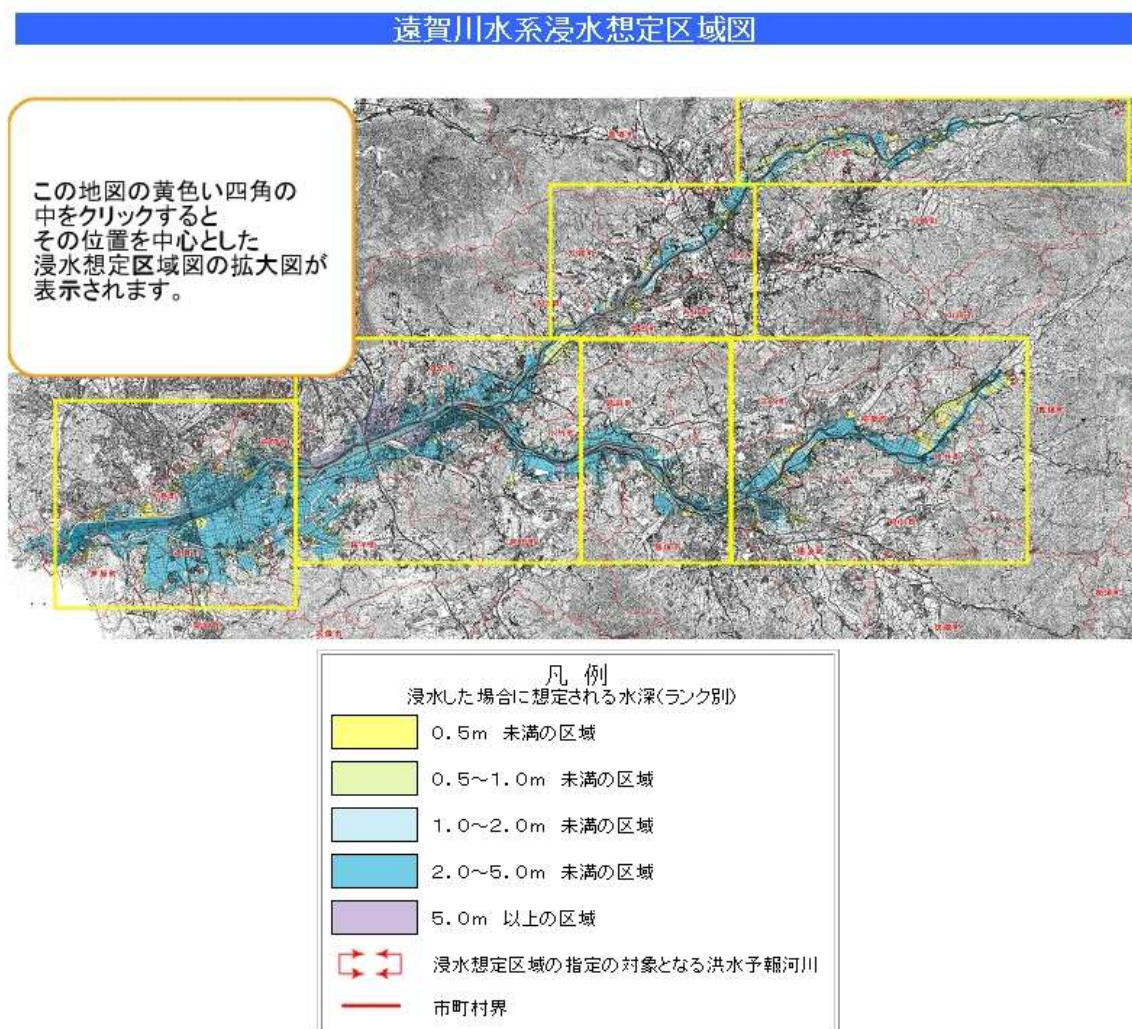


図 8-4-2 遠賀川水系浸水想定区域図